

10th Anniversary
since 2008

日本モーターボート競走会10年史

日本モーターボート競走会10年史

INDEX

ご挨拶	2
座談会「競走会の軌跡 ～そして未来への羅針盤～」	3
競走会設立から現在まで	9
競走会10年のあゆみ	
2008年(平成20年)	11
2009年(平成21年)	17
2010年(平成22年)	23
2011年(平成23年)	29
2012年(平成24年)	35
2013年(平成25年)	41
2014年(平成26年)	47
2015年(平成27年)	53
2016年(平成28年)	59
2017年(平成29年)	65
年表	71
ボートレース統計資料	75
法人概要・組織図	79
ボートレースの施設一覧	85

日本モーターボート競走会10周年。
大切にしてきたものを守りながら、新しい未来へ。



一般財団法人 日本モーターボート競走会 会長

潮田 政明

ご挨拶

平成20年4月1日に、旧競走会と旧連合会が一元化され、新競走会として生まれ変わり、10年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに、関係各位の深いご理解とご尽力の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

さて、この10年を振り返りますと、売上面におきましては、平成20年度に1兆円を割り込み、平成22年度には未曾有の大災害となった東日本大震災の影響もあり、売上は8,434億円にまで落ち込むなど、ボートレース業界としても大きなダメージを受けました。そのような中、ボートレース業界は関係者が一丸となり、復興支援競走の開催、発売日数の拡大など、各種施策を積極的に推進した結果、売上は上昇傾向に転じ、平成27年度には1兆円を回復し、平成29年度には1兆2,000億円を超えるまでになりました。

組織面におきましては、一元化後も、役員の削減、支局の設置や支部の組織改編などの合理化を進め、「意思決定の迅速化」と「経営改善」に取り組んでまいりました。また、競技運営面におきましても、国内で唯一の競走実施機関として、プロペラ制度の見直し、SG審判員制度の導入、スタート事故及び人身事故の防止に努めてきたほか、SGグランプリをはじめとするグレードレースの見直しと、GIヤングダービーやGIクイーンズクライマックスといった新たな競走の開催などに、全職員が一丸となって邁進してまいりました。

さらに、平成30年度を迎えるにあたり、今後は、競走会の根幹である「公正・安全なレースの実施」と、売上拡大につながる「レースの魅力向上への取り組み」の実現に向け、「中期業務推進計画」を策定し、その指針のもと業務に邁進していく所存であります。

そして、新競走会の10周年の節目を記念して、このたび、平成20年からの10年間の足跡を「日本モーターボート競走会10年史」として編纂いたしました。私ども競走会は、今後も、お客さまに末永くボートレースをご愛顧いただけるよう、鋭意精進していく所存であります。

関係各位におかれましては、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



公益財団法人
日本財団 会長

一般財団法人
日本モーターボート競走会 会長

一般財団法人
BOAT RACE振興会 会長

笹川 陽平 潮田 政明 小高 幹雄

競走会の軌跡

～そして未来への羅針盤～

競走会の一元化がもたらしたもの

潮田 本日は、お忙しい中を笹川会長と小高会長におかれましては、貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

このたび、私ども競走会の設立10周年を迎えるにあたり、「日本モーターボート競走会10年史」と「中期業務推進計画『COMPASS～未来への羅針盤～』」を作成いたします。また、平成30年4月26日には競走会10周年記念「感謝の集い」を開催する予定でございます。

本日の座談会は、競走会10年史の作成にあたり、笹川会長から「3団体の会長による座談会」開

催のご提案をいただき、実施させていただくこととなりました。

座談会の内容につきましては、これまでの10年につきまして少し触れさせていただきますが、未来志向の話を中心に、将来に向けた取り組みにつきまして、お話を進めさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは初めに、競走会の将来に向けた取り組みについてお話をさせていただきたいと思います。

私ども競走会業務の基本となる柱の一つは「公正・安全なレースの実施」、もう一つは「レースの魅力向上への取り組み」であり、この2本の柱を

中心に今後も業務を行っていきたいと思っています。なかでも、審判判定の統一・厳格化、検査体制の強化、スタート事故・人身事故・器材事故等各種事故の未然防止は確実にやっていくべきものと考えております。また、レースの魅力向上に関しましては、スター選手の育成、企画レースの充実、そして魅力ある番組編成等、競走会が売上拡大に貢献できる施策として挙げられますが、こうした点を中期業務推進計画に盛り込み、今後、重点的に取り組んでいきたいと思っています。

笹川 ボートレースが誕生してから早いもので67年と、大変長い年月が経ったわけですが、その中で10年前に18あった競走会と連合会を一元化することができたというのは、未来志向で発想された素晴らしい改革だったと思います。それまでは、審判判定一つをとってみても、24のレース場それぞれで、許容される範囲内ではありますが若干の差異もありました。それが一元化によってSG審判員制度が導入され統一されてきている。やはり、競走の公正、厳格な運営というのは、お客さまの信頼を勝ち得るために非常に大切なことであり、お客さまに喜んでいただくことが何よりですからね。

潮田 SG審判員制度は、競走会が一元化してこそ導入できた制度だと思います。しかしながら現在のところ、全国展開のSG競走やプレミアムGI競走など、一部のレースに特化しているだけです。さらなる審判判定の統一に向け、蓄積したノウハウを各地の審判員にも伝えていかなければならないと思っています。

あわせて、審判判定用カメラの機能強化や設置位置・台数の統一化等、ハード面の検討・改善も必要と考えております。



笹川 それから、振り返ってみればBOATRACE振興会が設立されたことも、競走会が競走実施機関として、より専門分野に特化した業務に専念できる体制をとれた要因の一つだと思います。これも素晴らしい未来志向の組織改編であったと私は感じています。小高会長はいかがですか。

小高 まずは、新競走会10周年、おめでとうございます。

潮田 ありがとうございます。

小高 ボートレース業界は、施行者がいて、舟券を売る場所があって、選手が走ってレースを行い、競走会がそのレースの審判・検査を行って、はじめて売上となります。すなわち、業界関係者の皆さまが運命共同体であることを理解してくださったがゆえに、今日があると思っています。そのおかげで、業界の目標であった1兆2,000億円の売上回復を、東京オリンピックの3年前に達成することができました。競走会におかれましては、3DaysバトルーナメントやGIクイーンズクライマックスの新設等で協力していただいたことも売上向上につながったと感謝しています。

売上目標が達成されたことで、改めてBOATRACE振興会では、ボートレースミッションとしまして、「BOATRACEのイメージアップ」「施行者の収益確保」「日本財団を通じた社会貢献」を理念に、自分の利益を考えず、ボートレースの利益を考え、仕事をしていきたいと思っています。

また、新規ファンの拡大とスター選手の育成なくしてボートレースの未来はないとは思っております。ぜひ、競走会には、スター選手の育成に尽力していただきたいというのが振興会からのお願いです。

潮田 ありがとうございます。皆さまのお力をお借りしながらスター選手の育成に邁進していきたいと思っています。

小高 BOATRACE振興会は、今後もボートレースの永続的な発展の実現のために「常に改革改善を行い様々な施策を決定・推進して売上を支える」、「関係団体が運命共同体として一丸となれるよう緊密な連携・調整を主体的に行う」、「天災などによりボートレースが危機に陥ったときに必要な資金を現在の電話投票及びシステム利用に関する枠組みを変更することなく準備してボートレースを守る」という3本柱をポリシーとして、ボートレース業界を全面的にバックアップしていきます。

業界の皆さまと運命共同体として力を合わせ、さらなる売上目標1兆3,000億円達成に向けて邁進していきたいと思ひます。

潮 田 よろしくお祈ひします。

変化を恐れず、大いなる勇断を

笹 川 競走会には、変えてはいけないものと、変えていくべきものと、二つあるのではないかと思ひます。

長い歴史の中で、公正・安全なレースの実施のための諸規則や厳格な選手管理、選手・実務者の教育や整備等の培ってきたもの、そうしたものは変えてはいけないものだと思います。

しかし、競技の在り方というのは、時代の変化に合わせて変えていくべきものだと思います。例えば、「笹川賞」や「鳳凰賞」という名称を使用せず「ボートレースオールスター」や「ボートレスクラシック」といった新たな名称を統一的に使用することにより、新しい発展がありました。つまり、変化していかなければいけないことには、大いなる勇断をもって対応していく。みんながいいと言うものは実はたいしたものではなくて、みんなが反対したものにこそいいものがある。みんなに反対されたら、これはやろうと決めるといいと思ひますよ。



小 高 笹川会長のおっしゃるように、私もチャレンジしていくことが必要だと思います。

振興会では、広域発売のさらなる拡大を図るため、北海道や沖縄などボートレースになじみがない地域にアンテナショップを設置し、全国を見据えたお客さまの掘り起こしを行っています。

そこで、地元出身の選手を誕生させることにより、ボートレースになじみを持っていただくため、現地の高校を回ったり、募集セミナー等を開催したり選手募集活動を積極的に行っていますが、現地の方が大変協力的で、全国区のレースを是非やっていただきたいという声があります。

ですから、振興会としては、北は北海道から南は沖縄まで全国を網羅した「全国ボートレース甲子園」の実施をお願いしたいと考えています。

笹 川 それは面白そうな提案ですね。

潮 田 先ほどもちょっとお話させていただきましたが、「レースの魅力向上」を目指すという意味では、スター選手の育成や企画レースの実施というものがあると思ひます。企画レースにつきましては、小高会長のご発案により実現しました3Daysバトルーナメントは大きな成功となりました。今後も、新たな魅力あるレースを企画し、お客さまに提供していかなければならないと思っております。ただ今、ご提案いただきました「全国ボートレース甲子園」に関しても、競技運営研究委員会などで議論して、制度として実現できるよう研究していきたいと思ひます。

小 高 ぜひ、お客さまのため、業界のためにお祈ひいたします。

スター選手の育成を目指して

笹 川 スター選手の育成というのは、いつの時代でも望まれることですが、競走会が選手養成の在り方を変えられたというのも、また素晴らしいことだと思います。ボートレースは、プロ1年目でも500万円、600万円と稼げる世界ですから、何百人、何千人の中から、体力・気力・ハングリー精神を持った人がプロに上がっていけるというシステムにしたのは、将来を考えると期待感にあふれていると思ひます。

潮 田 スター選手の育成の観点では、養成所に入所する前、入所してから、そして選手としてデビューしてからと、それぞれの段階で分けけて考えていかなければいけないと考えています。

笹 川 なるほど。

潮 田 入所する前というのは、有資質者の確保を目的に、全国で募集活動を展開してより多くの人材に受験してもらう。そのために、第122期選手養

成から養成訓練費用を無償化するとともに、入所者数も今までより拡大し、50人以上を入所させております。

ただ、入所者数が多くなると、操縦訓練を行う水面の数は限られていますので、おのずと1人当たりの乗艇時間数が少なくなります。それをどう解消するか。例えば、レース場をお借りした現地訓練を実施したり、あるいは元選手の実技教官を増員したり、教官個々のスキルアップを図っていくための教官教育もしっかり行っていく必要があります。

そして、選手としてデビューしてから、ここが一番肝心だと思いますが、昨今のレース形態の高度化により、デビュー後なかなか勝ちづらく、若手が活躍できる場が少ない状況にあります。そこで、各レース場をお願いをして、来年度は全国24のレース場で、若手育成のルーキーシリーズを実施いただくこととなりました。若手のレースはスタート事故や航法事故が多く、施行者も積極的には実施したいレースではありませんが、やはり活躍の場を作らなければスター選手は育たないわけであり、趣旨をご理解いただき実施していただくことになりました。

ただ、先ほど申し上げましたように、若手のレースはスタート事故等の多発が懸念されますので、スタート事故・人身事故防止の指導もしっかりと行っていきたいと考えております。

笹 川 いろいろ課題があるとしても、新人選手がデビューした後に、各レース場に協力してもらって訓練をさせていただくといいですね。24のレース場は協力的なのですか。



潮 田 各レース場には協力していただいております。スター選手育成制度の中に自主訓練の充実というものがありまして、各レース場とも周辺環境の許す限

り施設を開放していただいております。また、競走会の支局・支部が中心となり、各レース場のご協力のもと、全国で年間10回ほど、若手選手を対象に地区別の合同訓練を実施しています。

笹 川 やはり新人選手は出場回数が少ないわけですから、そうした選手が各地で実践的に訓練できる体制をできるだけ多く作ってあげることが必要ですね。

小 高 さきほど、ルーキーシリーズの開催を増加させる話をききましたが、さらに、デビュー後5年以内の選手によるレースを組むというのも検討してはどうですか。トップレーサーと戦うので、なかなか勝てないわけですから。



笹 川 アメリカのプロ野球は、階級がいくつもありますね。メジャーリーグの下に、マイナーリーグがあって3A、2A…というように分かれています。

小 高 そうですね、競走会でも3Aレースのような新人選手を対象とした一般競走を考えてみてもいいと思ひます。

潮 田 女子選手は200名ほどおりますが、年間36節の女子のみのレースがあり活躍の場があります。そこで活躍すれば上位グレードレースに出場できるし、もしそこで活躍できなければまた女子レースに戻って鍛え直すことができます。そこで、勝率は確実に稼げるわけで、そういう繰り返しがいい循環になっているのかもしれませんが。若手男子には、そうした活躍の場がありません。

小 高 男子の新人選手と、お客さまに大人気の女子選手のミックス戦を行ってははどうでしょう。お互いに切磋琢磨していけると思ひますし、お客さまに

とって、きつと見ごたえのあるレースになると思います。

笹 川 それと、やはり勝つというのは大事なことだと思います。優勝の経験は、どんなスポーツでも自信になる。だから、できるだけ早く1勝できるような仕組みを作っておいて欲しいと思います。

潮 田 確かにそうですね。ルーキーシリーズや、今、小高会長がおっしゃったようなミックス戦のようなものも研究・検討し、若手育成のための環境を作っていければいいかもしれません。

笹 川 それから、スター選手の育成という話ですが、やはり育てていくにはどういうプロセスを作っておいていくのかを考えないといけないですね。プロボクシングなども同じだと思いますが、どのようにレースをさせていくか、出場条件や番組編成等を考えていくことが重要ですね。

小 高 競馬でもそうじゃないですか。2歳馬の朝日杯フューチュリティステークスがあって、3歳馬の日本ダービーがある。そして、有馬記念があります。レースは世代別にあるわけですよ。だから、新人は新人だけで戦うレースを作ってもいい。例えば、養成所の修了期ごとのメンバーでやってみるのもいいと思います、女子も入れてね。

潮 田 そうですね。研究してみます。



笹 川 そのレースには、小高会長にいいネーミングを考えてもらえば、きつと盛り上がるでしょう。

時代の変化に合わせ、 お客さまの望むものを提供

笹 川 今後は、全国各地の競走会の役職員に潮田会長の考えをいかに伝えていくか、ということが大事になってきますね。すなわち、本部との一体感をど

うやって作り出していくか。やはり、できるだけ会長や役員が各地を回って、今後への改善点などをヒアリングしていくということも非常に大事ななことだと思います。

冒頭、ボートレース誕生から67年といいましたが、今ほど、業界がこれほどまとまった時期はないと思います。組織の改編もありましたが、こういう風にまとまりが出てきたことは、やはり上に立つ者の指導力がないと一致団結できなかったと思います。

競走会内部が、さらに一体化した組織として、しっかりやっていくことが大事ではないでしょうか。

小 高 私もできるだけ現場に出て、各施行者の長とコミュニケーションを深め、関係強化に努めています。

潮 田 以前にも笹川会長から、アドバイスをいただいて、実際に各地を回って職員の皆さまと会う機会を設けてきました。確かに人となりも、思いも感じることができたので、今後も続けられるようにしたいと思っています。

小 高 本部と支局・支部の役職員とが連携を密にして、さらにその支局・支部の役職員が施行者と連携が取ればいいと思います。今、振興会は各地の市長としっかり連携が取れており、スムーズに物事が決まります。笹川会長がおっしゃるように、やはり現場に出て話を聞くことが重要ですね。

笹 川 競走会は、本来、公正・安全な競技の運営、選手、審判員及び検査員の登録、選手の養成・育成を行うことが本業だけれども、それだけではなく、やはりお客さまが何を望んでいるかということに対しても、未来志向で、お客さまの意向を反映させていくことが必要ですね。

小 高 例えば、時代の変化というのがあって、今や売上のほとんどが電話投票や場外発売による広域発売にシフトしてきています。そうすると、映像が非常に重要になりますので、特にナイトレースを行うレース場は、映像を意識したボートのカラーリングを工夫する必要があると思います。

実際、映像でナイトレースを見ると、何号艇なのか分かりにくいレース場もあります。ですから、そのあたりはしっかり研究をしないとイケません。

笹 川 そうですね、ナイトレースの映像をスマートフォンでも綺麗に見てもらえるよう、ボートのカラーリングを研究する必要はありますね。

小 高 今、映像はハイビジョン化していますから、見えすぎるくらい何でもよく映ってしまいます。選手のヘルメットやウエアなども、しっかり映ります。

笹 川 そうですね、選手のウエアなども、カッコよく見せてくれるような良いものがたくさんあるでしょうし、モンキーターンでの選手の姿もきつと映えると思いますよ。

小 高 やっぱこれからは、選手がカッコよく見えるようにしてあげることやファンの望むことに応えることで、ボートレースの魅力向上に努めていくことが必要ですね。

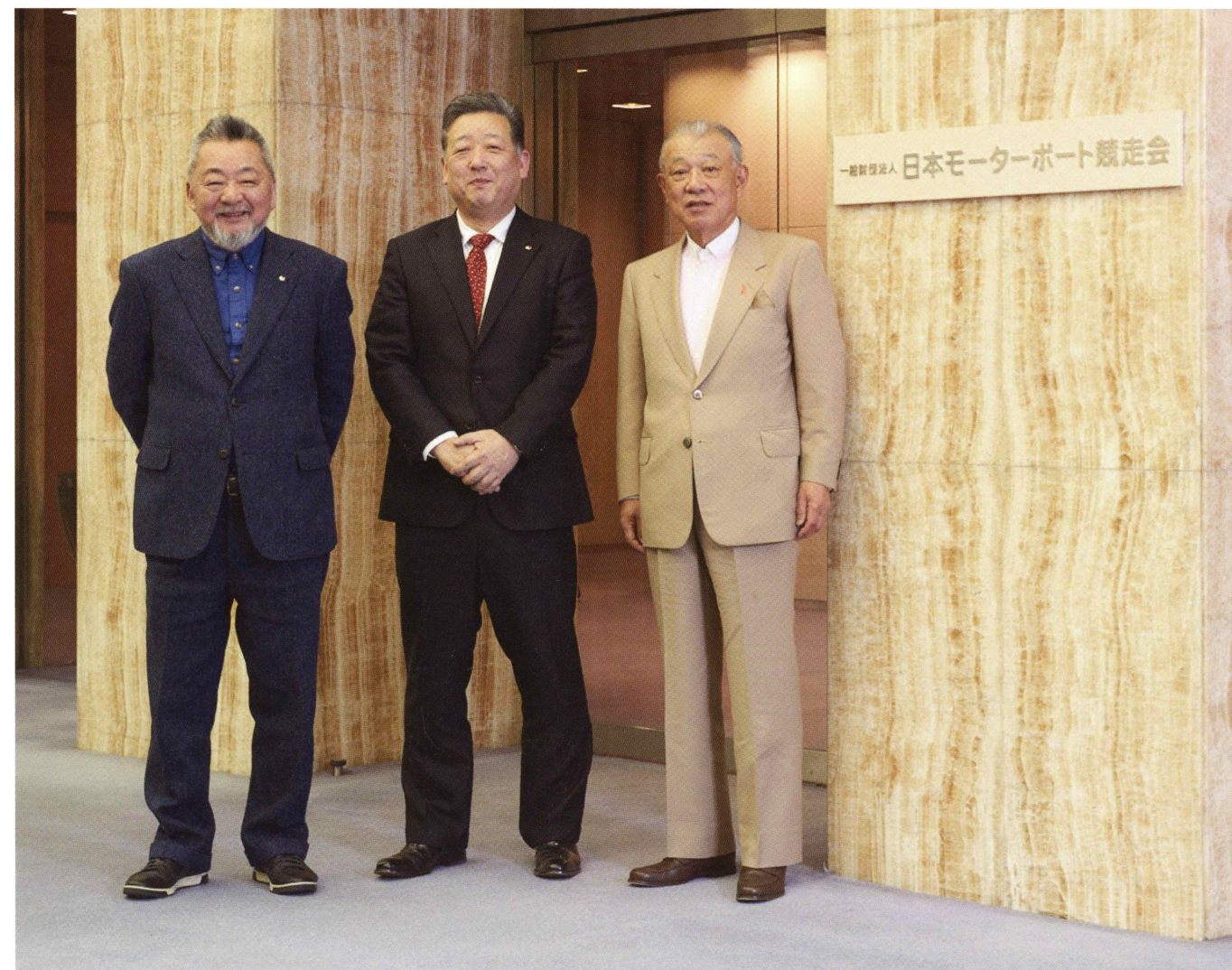
潮 田 映像映えを意識したボートのカラーリングやスタイリッシュなウエアなどを、前向きに検討していきたいと思います。

小 高 やっぱ時代は変化しているわけで、エキサイティングなレースの中に「美しさ」がないとね。

笹 川 そうだね。ぜひ、「美しさ」を追求してもらいたいですね。

潮 田 笹川会長、小高会長、本日はいろいろと貴重な

ご意見をいただき、ありがとうございました。私ども競走会は、未来志向で、お客さまの望むことを具現化できますよう、これからもしっかりと各種施策の推進に取り組んで参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

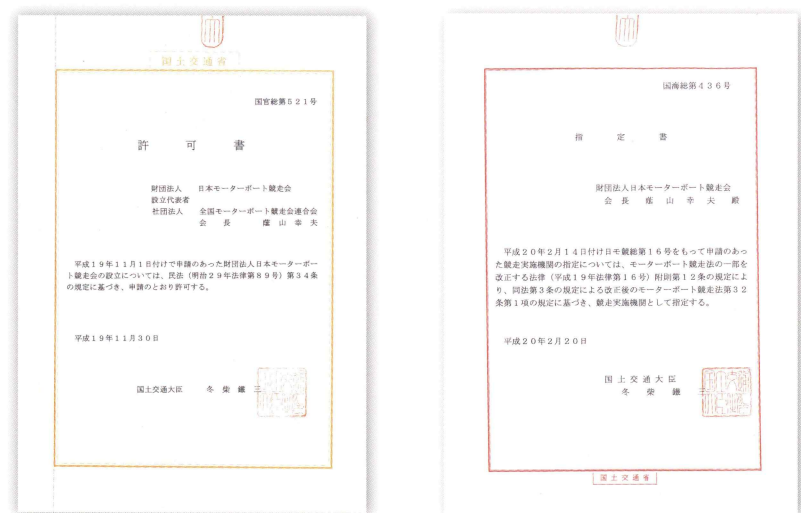


競走会設立から現在まで

連合会・競走会が一元化に向かった経緯

モーターボート競走の年間売上は、平成3年度の2兆2,137億円をピークに、その後の景気低迷やレジャーの多様化等を背景として長期低落傾向にあった。その結果、主催者である施行者の収益状況の悪化はもちろんのこと、平成16年度には、当時、19あった競走会のうち、15の競走会が赤字に陥っており、モーターボート競走の実施主体である競走会及び連合会の財政状況の悪化といった問題も顕在化していた。こうしたモーターボート競走を取り巻く経営環境の悪化等を背景として、平成17年12月に「行政改革の重要方針（公営競技関係法人の見直しを含む）」が閣議決定されたほか、平成18年7月の「モーターボート競走事業活性化検討委員会」の報告書において、18の競走会（神奈川県競走会が平成17年度末に解散）及び連合会に関して、一元化による意思決定の迅速化や企画機能の強化、経営改善の必要性、モーターボート競走の公正性及び安全性の確保の重要性等が指摘された。これらを踏まえ、モーターボート競走法の一部を改正する法律案が第166回通常国会で可決、成立。同法が、平成19年3月31日付で公布、同年4月1日から施行されると、18の競走会及び連合会が平成20年4月1日をもって解散することとなった。以後、競走会の従来業務（競走の審判、モーターボートの検査等）及び連合会の従来業務（選手等の養成・訓練、選手等の登録、選手の出場あっせん等）については、国土交通大臣が指定した競走実施機関が行うこととなった。

財団法人 日本モーターボート競走会設立と一元化

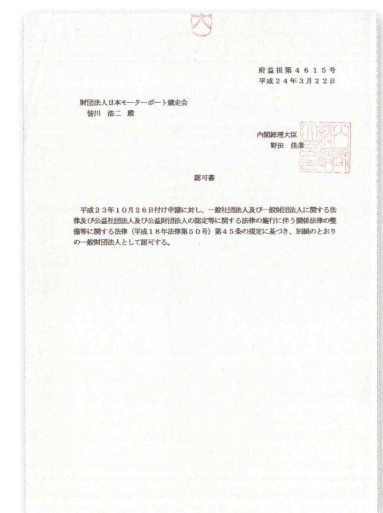


平成19年度より、新組織設立準備室が設置され、新組織の設立、新組織における諸規程の検討等を進めるため、新組織設立準備委員会、競走会会長会議、発起人会等の開催を経て、財団法人日本モーターボート競走会（以下、「新競走会」）は、平成19年11月30日に国土交通大臣より設立許可を受け、設立に至った。設立当時の新競走会において、理事会・評議員会を開催し、諸規程の制定、指定申請に係る審議、役員・評議員の選任、事業計画・収支予算等の承認を受けた。また、各種システム構築、債権者保護手続きに係る事務等、18の競走会と連合会の一元化へ円滑に移行するための諸準備等も実施した。新競走会は、平成20年2月20日、国土交通大臣より競走実施機関としての指定を受けると、同年3月27日、モーターボート競走法第34条に基づき、競走実施業務規程を定め、国土交通大臣の認可を受けた。これらを経て、18の競走会及び連合会は、モーターボート競走法の附則第13条第1項に基づき、同年4月1日に解散し、その一切の権利及び義務を新競走会に承継し、一元化されるに至った。以後、一元化した新競走会は、国土交通大臣の競走実施機関の指定に基づく競走実施業務を適切かつ確実に実施することを最重点事業として位置付け、「審判、検査等の競技関係事務」、「選手、ボート・モーター、審判員及び検査員の登録」、「選手の出場のあっせん」、「選手、審判員及び検査員の養成及び訓練」、その他の業務を公正・円滑に実施していくこととなった。なお、一元化前の18の競走会及び連合会の理事の合計数は75名（その他、非常勤理事70名、非常勤監事38名）であったが、一元化により、会長1名、理事長1名、常務理事5名、理事22名の合計29名（その他、非常勤監事3名）となった。

支局制導入による組織改編

一元化して2年が経過した後も、全体的な組織体系は旧態依然としており、機能的な役割分担や人的資源の効率的配分等行われていない状況にあり、運営体制の合理化、意思決定の迅速化及び企画機能の強化を図る必要があった。このことから、平成22年4月1日より、業務内容に応じたさらなる組織等の見直しとして、事務所の集約、人事交流による運営体制等の整備により、業務の効率化を図るため、支局制度を導入。各地区に支局を設置し、各支部にあった総務・経理部門等を集約化し、支部組織の改編をすることとなった。さらに、支局制度の導入に伴い、当時の職員数1,000名余の組織規模に対して理事の定数が多いことから、寄付行為（現在の定款）の理事数について、「25名以上35名以内」を「8名以上12名以内」に改めた。なお、支局制度の導入前の理事数は26名であったが、導入後は、会長1名、理事長1名、常務理事1名、理事5名の合計8名（その他、非常勤監事2名）となり、一元化時と比べて、組織は、さらに合理化された。

一般財団法人へ移行



公益法人制度改革による関連3法（法人法、認定法及び整備法）の施行を受け、当時の公益法人となっていた競走会は、平成25年11月30日までに、「公益財団法人」または「一般財団法人」に移行する必要があった。移行後は、「補助金や負担金などを主要な財源とし、不足する部分については収益事業で獲得した利益によって補いながら公益目的事業を行う」といった認定法の趣旨に適う事業形態ではなく、認定法に定める18の公益認定基準（収支相償、公益目的事業比率、遊休財産の保有制限など）の全てに適合することが困難と考えられたことから、平成24年4月1日より、一般財団法人へ移行するに至った。

競走会10年のあゆみ

2008

(平成20年)



当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

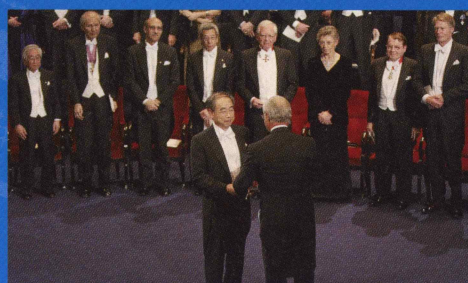
- 自衛隊のインド洋での給油活動を再開するための新テロ特措法が成立
- 大阪府知事選で自公両党が支援したタレントで弁護士の橋下徹が初当選
- 円高が進み、約13年ぶりに1ドル=100円を割り込み2ケタに
- 75歳以上の国民を対象とした「後期高齢者医療制度」施行
- 中国四川省中部でM7.9の大地震発生、死者約9万人、負傷者約40万人
- 北海道洞爺湖サミット開催、
温室効果ガスの50%削減を目指す長期目標を合意
- 夏季五輪北京大会開催、
水泳平泳ぎで北島康介が2大会連続で金メダル獲得
- アメリカの証券会社リーマン・ブラザーズが
サブプライムローン問題で経営破綻
- 南部陽一郎、小林誠、益川敏英が素粒子物理学の発見で
ノーベル物理学賞、下村脩が緑色タンパク質の発見で化学賞受賞
- 世界各国で株価暴落、日経平均は26年ぶりに7,000円を割り込む最安値



■北海道洞爺湖サミット開催



■アメリカの証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻



■南部陽一郎、小林誠、益川敏英がノーベル物理学賞、
下村脩が化学賞受賞

競走会のトピックス

■財団法人日本モーターボート競走会が設立

モーターボート競走の売上は、平成3年度の2兆2,137億円をピークに長期低落傾向が続いていた。この経営環境を背景として「行政改革の重要方針」が閣議決定されたほか、「モーターボート競走事業活性化検討委員会」の報告書において、18の競走会及び連合会に関して、一元化による意思決定の迅速化や企画機能の強化、経営改善の必要性、モーターボート競走の公正性及び安全性の確保の重要性等が指摘された。これらを踏まえ、モーターボート競走法の一部を改正する法律案が平成19年3月31日付で公布されたのち、同年4月1日から施行され、18の競走会及び連合会は平成20年4月1日をもって解散することとなった。これに伴い、新組織設立準備委員会、競走会会長会議、発起人会等の開催を経て、財団法人日本モーターボート競走会(以下、「新競走会」)は、平成19年11月30日に国土交通大臣より設立許可を受け、設立に至った。当初、新競走会は小規模な組織であったが、18の競走会と連合会の一元化へ向けた諸準備等を担っていた。

■競走実施機関の指定

新競走会は、平成20年4月1日から施行されたモーターボート競走法第32条第1項に基づく競走実施機関の指定を受けるため、モーターボート競走法施行規則第38条の規定に基づき、同年2月14日、指定申請を行った。

同申請の結果、同年2月20日、国土交通大臣より競走実施機関としての指定を受け、同年4月1日以後は、競走会の従来業務(競走の審判、モーターボートの検査等)及び連合会の従来業務(選手等の養成・訓練、選手等の登録、選手の出場あっせん等)について、新競走会が行うこととなった。

■財団法人日本モーターボート競走会に一元化

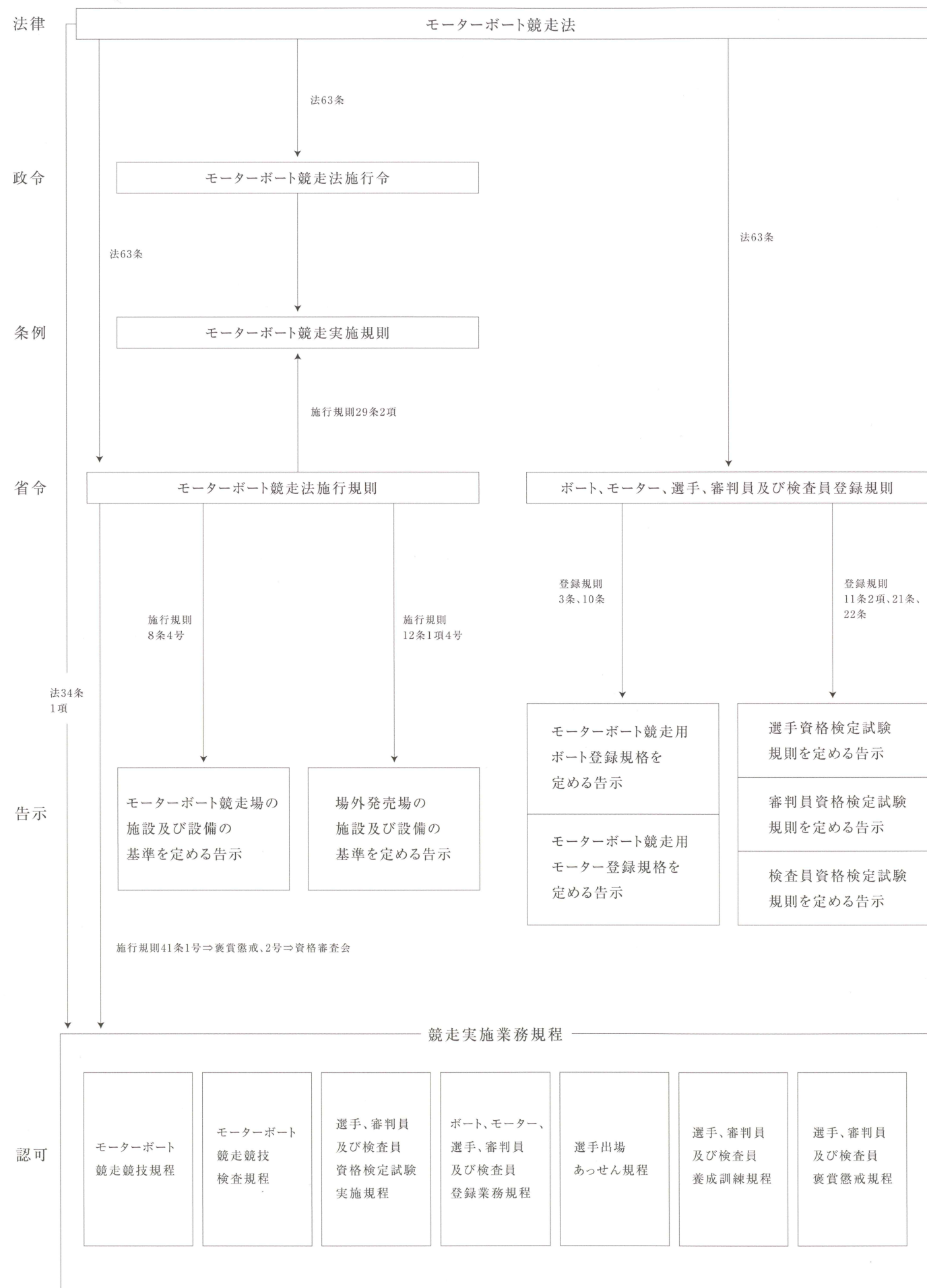
18の競走会及び連合会は、モーターボート競走法の附則第13条第1項に基づき、平成20年4月1日に解散し、その一切の権利及び義務を新競走会に承継し、一元化された。

以後、新組織として、国土交通大臣の競走実施機関の指定に基づく競走実施業務を適切かつ確実に実施することを最重点事業として位置付け、「審判、検査等の競技関係事務」、「選手、ボート・モーター、審判員及び検査員の登録」、「選手の出場のあっせん」、「選手、審判員及び検査員の養成及び訓練」、その他の業務を公正・円滑に実施していくこととなった。

■競走実施業務規程の施行

モーターボート競走法の一部を改正する法律(平成19年法律第16号)により、①競走関係事務の実施の方法、②選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録方法、③選手の出場あっせんの方法、④選手、審判員及び検査員の養成及び訓練の方法、⑤その他国土交通省令で定める事項を競走実施機関が定め、国土交通大臣の認可を受けなければならないこととなった。これを受け、あらたに「モーターボート競走競技規程」「モーターボート競走競技検査規程」「選手、審判員及び検査員資格検定試験実施規程」「ボート、モーター、選手、審判員及び検査員登録業務規程」「選手出場あっせん規程」「選手、審判員及び検査員養成訓練規程」「選手、審判員及び検査員褒賞懲戒規程」の7規程をまとめて「競走実施業務規程」として制定し、平成20年3月27日付けで認可を受け、同年4月1日より施行された。

《モーターボート競走法関係体系フロー》



■選手応募資格年齢を30歳未満へ引き上げ、特別試験の導入



平成20年4月より施行されている競走実施業務規程の制定に伴い、選手、審判員及び検査員養成訓練規程で定める競艇学校入学試験の応募資格を改正した。スター選手育成のためには、①有資質者の確保。②良い指導者による教育。③訓練環境の充実が必要不可欠である。その3つの要素の中で、特に有資質者の確保については、近年社会的問題となっている少子化や、大学への進学率の上昇を受けて、競艇学校への入学試験応募者が減少傾向にあり、これまでの競艇選手応募資格では、優秀な人材を確保することが非常に困難な状況となっていた。そこで、競艇学校での訓練の活性化を図るとともに、広く優秀な人材を確保し、より技量と人格に秀でた競艇選手を育成するために、応募資格の大幅な改正を行った。主な変更点は、一般試験と特別試験の2種類の試験を導入したことであった。一般試験は、応募資格年齢を現行の「15歳以上21歳未満」から「15歳以上30歳未満」に変更し、大学卒業者や社会人経験者、さらに高いレベルでスポーツ経験を積んできた者へ門戸を広げた。また、特別試験は競艇選手と身体的特性が類似したアスリートであるプロボクサーや、競技特性が類似している二輪や四輪レーサー等、主にスポーツやモータースポーツ等の分野で顕著な活躍をしている者を対象とし、さらにマスコミに対する話題性や養成訓練におけるリーダーシップの発揮までも期待して新たに設けた試験であった。なお、この応募資格は、第106期選手募集活動から適用された。

■著しく異なる進入航走の規制を廃止



コース取りの活性化を図り、レースの魅力を向上させるため、スタート展示航走の進入航走において6コースとなったモーターボートが本番レースにおいて1コースとなった場合は出走資格の喪失(欠場)となる「著しく異なる進入航走」の規制を廃止し、平成20年5月1日以後の日を初日とする競走から適用を開始した。

平成20年優秀選手



最優秀選手	松井 繁(大阪)
最優秀新人選手	篠崎 元志(福岡)
最多賞金獲得選手	松井 繁(大阪)
最高勝率選手	吉川 元浩(兵庫)
最多勝利選手	岡本 慎治(山口)
優秀女子選手	横西 奏恵(徳島)
競艇記者大賞	井口 佳典(三重)

■江戸川競艇場が護岸工事のため休催

江戸川競艇場では、対岸の護岸工事と場内の施設改修及びシステム装置の更新に伴い、平成20年2月より本場開催を休催した。同年5月23日、場間場外発売が再開されたことに合わせて場内環境を大幅にリニューアルし、「江戸川アートミュージアム」と銘打って、場内に有名芸術家等によるさまざまなアート作品を展示したほか、手書きのレトロ映画看板や巨大大魔神像が並び、これらを一目見ようと多くのお客さまで賑わった。また、江戸川競艇場の休催を補うため、平成20年度は他競艇場で「ゴールデンレース」として、全13節が開催された。



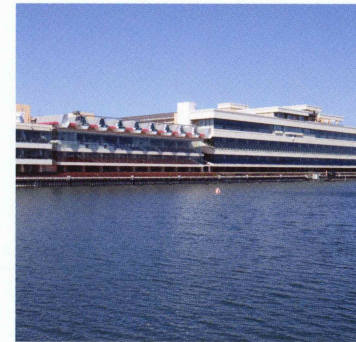
■平成19年度売上が4年ぶりに売上1兆円を回復

平成19年度の売上は、1兆75億1,389万7,800円（対前年度比3.8%増）となり、一日平均売上は、2億3,773万3,341円（同3.4%増）となった。

平成に入ってから売上が平成3年度の2兆2,137億円をピークとして、平成7年度にわずかに対前年度比がプラスとなったものの、長期低落傾向にあった中、1兆円の大台を回復。1兆円台への回復は、平成15年度以来4年ぶり、対前年度比がプラスに転じたのは、平成7年度以来12年ぶりであった。利用者は、9,779万3,640名（同17.4%増）、一日平均は2万3,075名（同16.9%増）と大幅に増加した。開催日数は4,238日（同18日増）であった。

売上の内訳を見ると、本場が3,993億8,932万700円（対前年度比13.7%減）、場間場外が1,566億9,613万1,500円（同2.2%減）、場外発売場が2,355億1,371万4,500円（同46.3%増）、電話投票が2,159億1,473万1,100円（同16.0%増）で、本場と広域発売の売上比率は4:6となった。平成18年度には、初めて本場の売上占有率が50%を割り込んだが、平成19年度の売上に近かった平成15年度の売上比率は6:4であったことから、その数年で売上形態が大きくシフトしてきたことが伺えた。売上増加の大きな要因は、場外発売場の売上が飛躍的に伸びたことと、インターネット投票（JNB、e-bank、SMBC）の売上が好調であったことが挙げられる。

■浜名湖競艇場で南スタンドがリニューアルオープン



浜名湖競艇場では、平成19年10月より総工費約20億円をかけて行っていた南スタンドの改修工事が完了し、平成20年10月30日にリニューアルオープンを迎えた。当日はファンクラブ会員30名が招かれ、オープン式典・祝賀会が催された。スタンドは3階建てとなっており、1・2階部分は一般席、3階は有料席。建物内は完全に分煙化されており、喫煙ルームが設けられた。1階は明るく、開放的なつくりになっており、中でもガラス張りの投票所は競艇場では初の円形型投票所となっていた。また、フードコートも新設されており、好みに応じて併設されたテラスも利用可能となった。

■場外発売場が開設

平成20年は「ミニボートピア双葉」「オラレ徳山」「オラレ島原」「ミニボートピア天文館」と4つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で36カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
ミニボートピア双葉	戸田	山梨県	3月21日	県内初、競輪場外発売場内
オラレ徳山	徳山	山口県	10月 4日	県内初
オラレ島原	大村	長崎県	10月14日	競艇施行者でない自治体への設置は初
ミニボートピア天文館	芦屋	鹿児島県	12月 3日	県内2カ所目



ミニボートピア双葉



オラレ徳山



オラレ島原

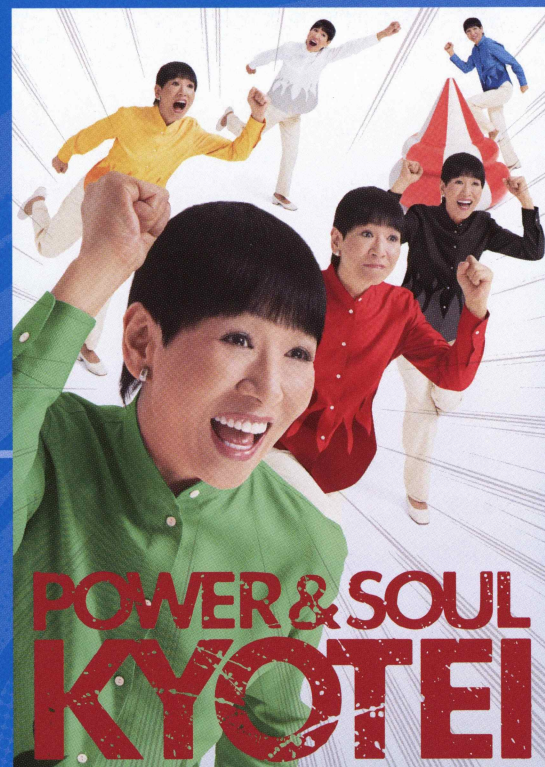


ミニボートピア天文館

競走会10年のあゆみ

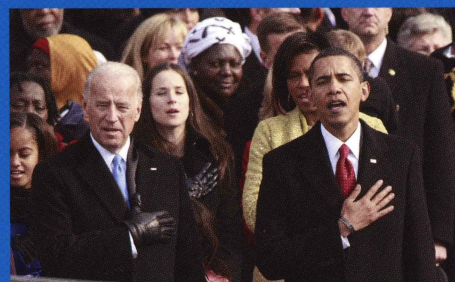
2009

(平成21年)



当時のニュース（※文中の人物名などは敬称略）

- バラク・オバマが黒人初の米大統領に就任
- WBC（ワールドベースボールクラシック）で日本が2連覇
- 休日に限り地方の高速道路で通行料の上限が千円に（約2年間の生活対策）
- 裁判員制度開始、国民が刑事裁判に参加することにより司法への理解めざす
- 世界的歌手マイケル・ジャクソンがロサンゼルスで急死
- 作曲家の遠藤実、俳優の森繁久彌、女優の森光子に国民栄誉賞
- 民主党政権誕生、鳩山由紀夫が第93代内閣総理大臣に
- 「消費者庁」発足、消費者の視点から社会全般を監視する役割になう
- 祝日法の改正により、初めて9月にも大型連休（シルバーウィーク）が出現
- 宇宙船「ソユーズ」打ち上げ、野口聡一が宇宙で約半年間の長期滞在を目指す



■バラク・オバマが黒人初の米大統領に就任



■WBC（ワールドベースボールクラシック）で日本が2連覇



■民主党政権誕生、鳩山由紀夫が第93代内閣総理大臣に

競走会のトピックス

■モーターボート大賞をGII競走に変更

第81回競技運営研究委員会（平成20年12月16日開催）の答申に基づき、選手出場あっせん規程、SG競走開催要綱、GI競走開催要綱及びGII競走開催要綱の一部改正が、平成20年度第5回常務理事会（平成21年1月28日開催）において承認・可決。選手出場あっせん規程の一部改正については、国土交通大臣の認可（平成21年2月9日付国海総第424号）を受けた。

主な改正内容は以下のとおり。

1. 選手出場あっせん規程
GI競走であるモーターボート大賞競走をGII競走に変更し、各競艇場で年1回開催される同グレード競走の周年記念競走の単独開催日程を増やし、各競艇場の売上増加による収益確保を図ることとする。
2. SG競走開催要綱
賞金王決定戦競走出場選手の選考期間を競艇王チャレンジカップ競走が終了する日までとし、同競走の盛り上げと売上増加を図ることとする。
3. GI競走開催要綱
(1) 全国発売競走同士の開催間隔を一定期間あけることや他公営競技の全国発売競走との競合開催を避け、月またぎ開催を効果的に活用して日程を組み込むために開催月の定めを原則的にとらえることとする。
(2) 女子王座決定戦競走に選考期間内の事故率0.40以上の者を除外する基準を設けることにより、スタート事故防止の意識高揚を図る。
4. GII競走開催要綱
GI競走であるモーターボート大賞競走をGII競走に変更し、各競艇場で年1回開催される同グレード競走の周年記念競走の単独開催日程を増やし、各競艇場の売上増加による収益確保を図ることとする。

■皆川浩二常務理事が新会長に就任

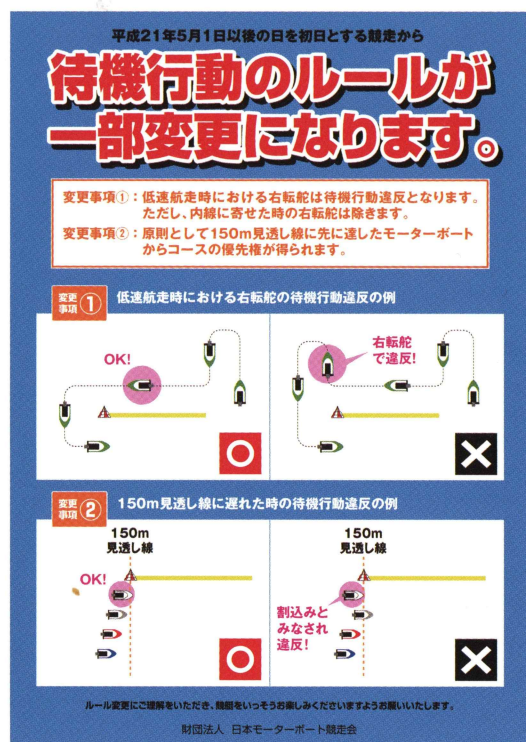
財団法人日本モーターボート競走会の皆川浩二・前常務理事・東海地区担当（当時）の新会長就任が、平成21年3月30日付で、主務官庁である国土交通省の認可を受けて、正式に決定した。

皆川新会長は、就任に際し、「18の競走会、連合会の一元化を成し遂げ1年が経過したところでのパトントッチであり、その責務の重大さに身が引き締まる思いです。現在、社会全体が厳しい状況にありますが、平成21年度は『動けば変わる!』の業界スローガンのもと、全力で取り組んでいきたい。」と所信表明した。

■競艇活性化委員会発足

競艇業界では、新たな施策の推進や今後の方向性等について、中央団体で横断的に検討するための機関として競艇活性化委員会を平成21年4月27日に設置した。構成団体は、全施協、選手会、施設協、BP施設協、競艇振興会及び競走会で、事務局は全施協、競艇振興会及び競走会が担当する。同委員会の委員は各団体3名以内とし、出席者は議題に応じて各団体で任意に選出することとし、関係団体役職員の出席を求めることができた。また、同委員会には必要に応じて分科会を設置し、より詳細な検討を行なうようにしたほか、同委員会の下に場外発売場運営審議会を設置し、場外発売場の設置審議、ボートピア等の名称付与などを行うこととなった。

■待機行動におけるルールの一部変更 —お客さまに「わかりやすい競走」へ—



競艇における待機行動は、お客さまにとって舟券予想の大きな要素であるだけでなく、選手の心理や作戦の妙味が見られるとともに、選手が駆け引きを駆使していかに得意な、あるいは有利なコースを確保するかという醍醐味が味わえるものである。しかし当時、多くのレースでは、枠なり進入、時間稼ぎの航法による楽なインコース進入など、選手間で折り合いをつけた緊張感のない待機行動が見受けられ、特に内側艇（インコース艇）が後から進入してくるケースなど、お客さまから「わかりにくい進入方法ではないか」と、疑問の声が挙がっていた。そこで、競艇における待機行動本来の魅力をお客さまに提供するため、競技運営研究委員会、審判委員長・競技委員長会議等で検討を重ねた結果、お客さまにとって「わかりやすい進入方法」や時間稼ぎの航法の規制を導入することが望ましいと考え、平成21年5月1日より、「先行ラップ」「右転舵禁止」を中心に待機行動実施細則の一部改正等を行った。これにより、インコース艇は適正な助走距離となり、イン、センター、アウト、それぞれがもつ本来の戦法が明確化され、選手の個性が一層引き出されることが期待された。

主な条文改正理由

《第9条》待機航走のバックストレッチ側における航法について、低速航走しようとするモーターボートは速やかに内線へ寄せ、平行に航走することを規定化し、時間稼ぎの航法を規制する。

《第12条》「蛇行」の定義を、「右転舵」へ変更し、11条の「転舵」は他艇への妨害、12条の「右転舵」は時間稼ぎの航法として区別する。

《第18条》先行ラップ判定するに当たって、バウにより明確に判定する。

■「スター選手育成制度」を導入



平成18年2月からモーターボート競走事業活性化検討委員会（国土交通省海事局長の私的懇談会）において、競艇事業のあり方などについて検討され、その中で「スター選手の育成」が課題として挙げられた。魅力あるスター選手の活躍によって、お客さまの競艇への思いが深まり、より興味を持っていただくことにつながることから、スター選手の育成と選手が活躍できる環境整備について検討され、若手選手の強化・育成を目的とする「スター選手育成制度」を設けた。この制度は、自主訓練の充実を図るための環境整備や、プロ選手としてのメディア対応やマナー

に関する講習会、テレビ・新聞・インターネットでの選手広報、効果的な番組編成及びあっせん措置の各方面からスター選手づくりを図っていくものであった。スター候補選手は、スター選手育成検討委員会、スター選手育成実行部会を経て選出されることとなり、最初の選出となる平成22年のスター候補選手には89名を決定した。

スター候補選手は、「全国スター候補」「地区スター候補」「地元スター候補」「準地元スター候補」の4ランクで構成され、GI競走出場のチャンスや地元競艇場等への優先的なあっせん等の措置が与えられた。さらには、プロ選手に必要なメディア対応やマナーを身に付けるための講習会、操縦・整備の特別訓練なども受けられた。トップランクの「全国スター候補」は、登

録6年以内ですでにSG出場、GI優勝などの実績を持つ選手の中から選出され、平成22年は岡崎恭裕（福岡）、篠崎元志（福岡）、平山智加（香川）の3選手が選ばれた。「地区スター候補」以下は、原則として、それぞれの選出基準（登録年数、勝率）を満たす選手の中から、地元競艇場の推薦を参考に選出された。「地区スター候補」は、全国5地区から各3名（合計15名）、「地元スター候補」は、各場1名、「準地元スター候補」は、同2名ずつとされた。

■競走会運営型場外発売場「ミニボートピアみやき」がオープン

平成21年11月14日、佐賀県みやき町に、全国40カ所目の場外発売場として「ミニボートピアみやき」がオープンした。佐賀県内の場外発売場としては、「ボートピア三日月」、「前売専用場外ミニット」、「オラレ呼子」に続き4カ所目であった。施行者は唐津市で、唐津競艇場のレースを中心に、全国発売競走やGI競走、ナイターレースなど、年間360日・最大4場併売にて行った。1日あたりの売上目標は900万円、同利用者見込みは600名と設定された。なお、同施設の開設により、競走会運営型の場外発売場は12場（当時）となった。



平成21年優秀選手



最優秀選手	松井 繁(大阪)
最優秀新人選手	平山 智加(香川)
最多賞金獲得選手	松井 繁(大阪)
最高勝率選手	今垣光太郎(福井)
最多勝利選手	大嶋 一也(愛知)
優秀女子選手	濱村美鹿子(東京)
競艇記者大賞	松井 繁(大阪)
特別賞	加藤 峻二(埼玉)
特別賞	池田 浩二(愛知)

■登録第3159号江口晃生選手(群馬)が早稲田大学大学院に入学



平成21年4月2日、早稲田大学・戸山キャンパスにて、登録第3159号江口晃生選手(群馬)が、同級生となる元プロ野球選手・桑田真澄氏らとともに入学した。専攻は、スポーツ科学研究科トップスポーツマネジメントコース1年制で、平田竹男客員教授のもとスポーツビジネスについて学んだ。入学に際し、江口選手は「A1級の選手として競艇界で結果を出しながら、学校にも通うのがプライドであり、こだわりでもある。まずは、グランドチャンピオン決定戦出場に向けて選手としてパフォーマンスを

十分、発揮できるようなベース日程を組み、スケジュールを調整して授業にも出席していきたい。今後の競艇業界のさらなる発展のために、課題を見つけて大学院での勉強を通じて改善策を考えていきたいと思う。ゼミの仲間とは、空いている時間を使って、お互いのスポーツ分野の研究をする予定であり、私も同級生にできるだけ早く『競艇』を理解してもらいたいの、5月頃に自分が出走しているレースを見学してもらう予定です。」と、今後の抱負を力強く語った。

■丸亀競艇場で「ブルーナイター」が開幕 ―全国で5場目、中四国地区初―

全国で5場目、中四国地区では初となるナイターレースが、平成21年4月21日に丸亀競艇場で開幕した。第1節目の売上は節間で28億8,920万4,800円、利用者は同33万9,545人であり、前年同時期に開催されたオール女子戦と比較して、売上が238.9%、利用者が155.4%の大幅なプラスとなる幸先の良いスタートとなった。丸亀競艇場では、ナイターレース開幕に先立ち、ナイターレースを全国的に周知啓蒙していくため、レースの愛称を募集。全国から全3,774件の応募があり、その中から、青い海、瀬戸内海の四国・讃岐という土地柄をイメージしたという、「ブルーナイター」に決定した。この愛称は、ナイターレース開催の広報活動にも積極的に活用された。



■江戸川競艇場が本場レースを再開

江戸川競艇場では、中川(東京都江戸川区)に関する護岸工事のうち、同競艇場の競走水面にかかわる工事が完了し、平成21年6月4日に、約1年4か月(487日)ぶりに本場レースを再開した。この工事では、観覧席にもなっていた堤防部分が解体され、新しい堤防が再構築された。

■競艇振興会の支援制度を活用した外向発売所が続々開設

競艇振興会では、「お客さまの利便性を高めて購買意欲を向上させる」「場間場外発売時には、本場を開かず外向発売所のみのオープンとして経費を削減し、施行者の収益を確保する」を目的に、より効率的で効果的な外向発売所の設置を促進するため、支援制度を新設した。同制度を活用した外向発売所は、三国競艇場を皮切りに、平成21年度は浜名湖競艇場、蒲郡競艇場、常滑競艇場、大村競艇場が開設した。

《競艇振興会の支援制度》

競艇振興会では、競艇場における売上が年々減少している状況に鑑み、売上及び集客向上を図ることを目的に「外向発売所整備支援業務規程」を平成20年4月に新設し、施行者の収益改善や将来的な外向発売所のあり方を見据えた拡充支援に取り組んでいる。支援内容の大枠は、①申請者は施行者②支援物件は、投票・映像・情報システム関係等の設備機器及び施設③3億円を上限として競艇振興会が施設を設置し、施行者が無償で借り受け運営④開設3年経過後に施行者が所有を希望する場合は無償で譲渡となっており、施行者がより積極的に外向発売所の設置ができるようバックアップ体制を整えている。なお、この外向発売所の設置場所については、競艇場の敷地境界線から300m以内と定められている。



■場外発売場が開設

平成21年は「オラレ志布志」「ミニポートピア黒石」「オラレ美馬」「ミニポートピアみやき」「ミニポートピア長洲」と5つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で41カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
オラレ志布志	大村	鹿児島県	4月24日	県内3カ所目
ミニポートピア黒石	平和島	青森県	5月 2日	県内2カ所目
オラレ美馬	鳴門	徳島県	10月14日	県内初
ミニポートピアみやき	唐津	佐賀県	11月14日	県内4カ所目
ミニポートピア長洲	大村	熊本県	12月12日	県内では公営競技初の場外発売場



オラレ志布志



ミニポートピア黒石



オラレ美馬

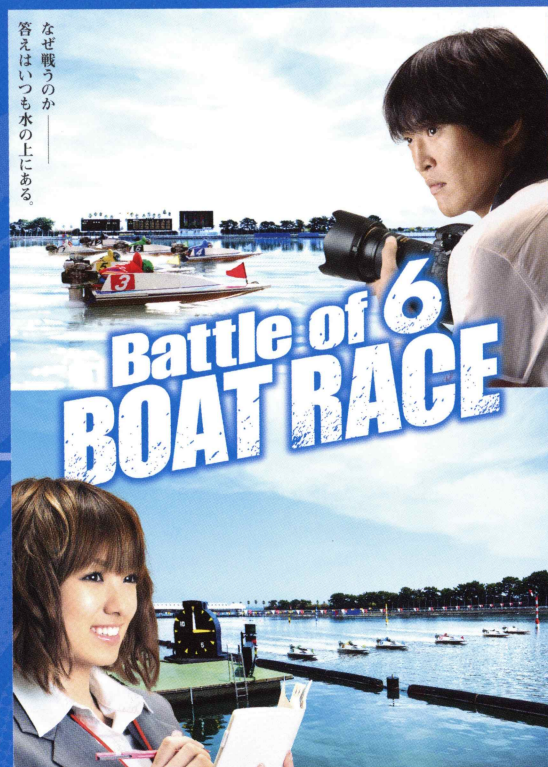


ミニポートピア長洲

競走会10年のあゆみ

2010

(平成22年)



当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

- 日本年金機構が発足、旧社会保険庁から組織と業務を移行
- 冬季五輪バンクーバー大会開催、
フィギュアスケートで浅田真央がキム・ヨナに及ばず銀メダル
- 南米チリでM8.8の地震発生、日本では17年ぶりに大津波警報を発表
- 高校授業料が無償化
(私立の生徒には親の収入に応じ12～24万円を支給)
- 小惑星探査機「はやぶさ」が7年60億キロの宇宙の旅を終え帰還
- サッカーワールドカップ南アフリカ大会で日本代表がベスト16入り
- 日本領海の尖閣諸島付近で
中国漁船が海上保安庁の巡視船2隻に体当たり
- 日銀が政策金利を0～0.1%とする実質的なゼロ金利政策に踏み切る
- 根岸英一、鈴木章がクロスカップリングの開発でノーベル化学賞受賞
- 東北新幹線が八戸駅から新青森駅まで延伸し、東京からの全線が開通



イラスト：池下卓裕
■小惑星探査機「はやぶさ」が帰還



■サッカーワールドカップで日本代表がベスト16入り



■東北新幹線が東京からの全線が開通

競走会のトピックス

■全国・地区スター候補選手を対象に講習会を開催

平成22年1月16日・17日の2日間、競艇業界を担う若手の有望な選手を対象とした「全国・地区スター候補選手講習会」が静岡県浜松市内のホテルで開催された。この講習会には、デビュー6年以内の若手選手の中から選抜された「全国スター候補選手」3名及び、「地区スター候補選手」13名の計16名が参加。受講した選手は、競艇の有力選手や他のスポーツ競技のアスリートによる講話、メディアトレーニング、マナー・ファッション講座を通じて、スター選手としての心構えやふさわしい振る舞いなどを学んだ。

初日は、植木通彦理事からスター選手としての心構えについての指導の後、メディアトレーナーによるマスコミの取材対応についての体験講習やファッションコーディネート、テーブルマナーといった実践的な講習や宣材写真撮影が行なわれた。

2日目には、登録第3010号大嶋一也選手(愛知)、登録第3779号原田幸哉選手(愛知)とのディスカッションが行なわれ、選手から、「1走の重みを意識して毎レース走ることが大切だ。勝つためには選手は様々な努力を惜しまないが、10年後を考えたときにコツコツ積み上げることの大切さに気付くだろう。」といった意識改革につながる有意義な助言を受けていた。

また、外部講師として招いた、日本競輪学校名誉教官で元競輪選手の滝澤正光氏からは「絶対に強くなるんだという意識を人一倍持って、困難に正面から立ち向かっていって欲しい。」、元プロ野球選手の小宮山悟氏からは「頑張るんだという強い熱意が感じられた。プロとしての意思をしっかりと持って成長していってください。」と、エールが送られた。トップアスリートとしての心構え、メンタル面の強化などを語った両講師の話に、受講した選手は熱心に聞き入っていた。

なお、同講習会終了後には、ファン交流イベント「スター候補選手との交流会」も実施された。



■5地区に支局を設置し、支部組織も改編

平成20年4月1日からスタートした新競走会であったが、全体的な組織体系は旧態依然としており、機能的な役割分担や人的資源の効率的配分等を行われていない状況にあった。国土交通省海事局に設置された「モーターボート事業活性化検討委員会」の報告書「競艇ルネサンスプラン」の指摘事項である、運営体制の合理化、意思決定の迅速化及び企画機能の強化を可能とするためにも、業務内容に応じたさらなる組織の見直しを行うとともに、事務所の集約、人事交流による運営体制等の整備により業務の効率化を図る必要があった。そこで、5地区に支局を設置し、支部組織の改編等の見直しが行われた。

1. 組織変更の概要について

一元化に伴う組織等見直しの基本方針について、第7回評議員会(平成21年12月10日開催)の同意及び第10回臨時理事会(平成21年12月11日)の議決を受け、平成21年度第5回常務理事会(平成22年1月15日開催)において、組織規程が一部改正された。

(1) 支局の設置

関東(桐生、戸田、江戸川、平和島及び多摩川)、東海(浜名湖、蒲郡、常滑及び津)、近畿(三国、琵琶湖、住之江及び尼崎)、

中四国（鳴門、丸亀、児島、宮島及び徳山）及び九州（下関、若松、芦屋、福岡、唐津及び大村）の各地区に新たに支局を設置した。

また、支局の事務所は、関東は大森、東海は名古屋、近畿は住之江、中四国は児島、九州は福岡に置くこととした。

(2) 場外運営事務所の設置

場外運営部場外運営課を廃止し、本会が運営する場外発売場に、事務局として場外運営事務所を新設した。

(3) 支局に、総務部（総務課、経理課）、事業部（事業課）の2部3課を置いた。

(4) 支部の組織を、総務部（総務課、経理課、企画課）、業務部（審判課、競技課、番組課、管理課）の2部7課から、審判部（審判課、番組課）、競技部（競技課、検査課、管理課）の2部5課に改めた。

(5) その他組織等見直しに伴う所要の変更

2. 寄附行為の一部変更

寄附行為の一部変更について、第7回評議員会（平成21年12月10日開催）の議決及び第10回臨時理事会（平成21年12月11日）の議決を経て、国土交通大臣に認可（国官総第248号、平成21年12月24日付）された。

【変更概要】

(1) 役員の定数

第14条 理事 25名以上35名以内⇒8名以上12名以内

監事 3名又は4名⇒2名又は3名

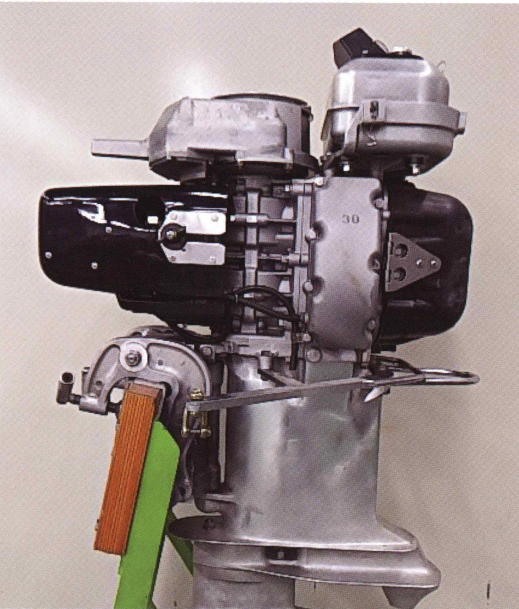
(2) 評議員の定数

第29条 評議員 25名以上35名以内⇒8名以上12名以内

(3) その他所要の改正

新制度において、特例民法法人は資産総額の登記が不要となったため、これに合わせて不要な文言の削除を行う等、所要の改正を行うものとする。

■全ボートレース場で減音モーター「ヤマト301型」導入



ボートレース場周辺の騒音問題に対応するため、昭和44年12月ボートレース平和島において、初めて富士モーター製減音型モーター「フジKC-2S」が導入され、さらに、同様の騒音問題を抱えていたボートレース多摩川やボートレース福岡等に導入された。その後、昭和49年、フジとヤマトが合併してできたワールドモーターボートにおいて「ワールド80S」が開発され、さらに同社を継承したヤマト発動機において昭和55年に「ヤマト101型」、昭和60年に「ヤマト201型」、平成4年に「ヤマト301型」と、減音型モーターの改良が進み、ナイトレース開催場の増加とともに導入が増えて、平成21年には11場で使用されるに至った。この間、平成19年に減音効果を約2dB高めて、50m先単艇全速航走時の騒音レベルを78dBとした大型吸気サイレンサが開発されたことを契機に、ボートレース場周辺の環境保全とモーターの仕様統一を図るために、ボートレース用モーターを減音型モーターで統一することとなり、平成22年に全場のモーターが「ヤマト301型」モーターに統一された。

■A1級選手の最低出走回数を90回以上に変更

級別ランクの最上位にあたるA1級選手の最低出走回数が見直され、平成22年11月1日から始まる級別審査対象期間から同級の出走回数が90回以上に変更された。これは、審査対象期間内にスタート事故を複数回起こす者に対する抑止効果と、A1級を目指す選手の不参加、出場取消、途中帰郷、出走調整の件数減少に効果を期待して行ったもので、レースへの参加意欲の助長につながる事となった。

■若松支部で新選手宿舍が完成

若松支部選手宿舍は、昭和47年8月の竣工から36年を経過し老朽化がかなり進んでいたため、平成21年5月より新宿舍の建設が計画され、同年12月に起工式を行い着工となった。用地は、競技棟付近を北九州市から借り入れた。新宿舍は平成22年10月30日に引き渡しを受け、同年11月10日に竣工式が行われ、同日より使用を開始した。

新宿舍の規模は、敷地面積1,667.47㎡、建築面積1,031.24㎡、延床面積2,315.95㎡で、鉄筋コンクリート造りの3階建てであった。1階には、食堂、監督室、大・小の浴室及びサウナ、エントランスホール、喫煙室、洗濯室等を設置。2階と3階は、選手の居室エリアとした。選手の居室は20室あり、室内には共有スペースと3つに分かれた個人スペースを設けた。また、これまでは、競技棟から選手宿舍までバスでの移動となっていたが、新宿舍完成により、徒歩で移動できるようになった。



平成22年優秀選手



最優秀選手	中島 孝平(福井)
最優秀新人選手	平高 奈菜(香川)
最多賞金獲得選手	中島 孝平(福井)
最高勝率選手	魚谷 智之(兵庫)
最多勝利選手	勝野 竜司(兵庫)
優秀女子選手	日高 逸子(福岡)
記者大賞	中島 孝平(福井)

■「競艇」から「BOAT RACE」へ呼称を変更



平成22年4月1日、親しみやすくし、レースの魅力をよりアピールするため、「競艇」から「BOAT RACE」へ呼称を変更した。これは、若年層にも好感を持ってもらうとともに、子どもから大人まで容易にイメージができるようにすること、さらには、国際社会でも通用する競技を目指して実施した。この呼称変更にあわせて、全国のボートレース場において、入場門や場内施設の改修を行った。競走会においても、ボートレーサー養成所である「やまと競艇学校」の「競艇」を取り「やまと学校」へ名称変更したほか、救助艇という呼称を「レスキュー艇」に変更した。

■登録第3861号岩永高弘選手が殉職

平成22年5月1日、ボートレース若松において、登録第3861号岩永高弘選手（長崎）が第1レース中に負傷し、病院に救急搬送され治療が施されたが、13日後の5月14日午前6時4分、殉職した。

■新ファンファーレが完成

ボートレース活性化委員会は、制作から19年が経過し新鮮味の薄くなったファンファーレをリニューアルした。競走演出の華として、レースへの期待や興奮を、より高めることが目的であった。新ファンファーレは5種別10曲の構成で、種別ごとに優勝戦とそれ以外の競走の2パターンが制作された。また作曲は、著名なアーティスト3名（SG：高橋千佳子氏、GI・GII・GIII：一般戦：マツオカヒロタカ氏、新鋭リーグ・女子リーグ：延近輝之氏）を起用し、壮大さや爽快感を感じる曲が生み出された。SG競走については平成22年5月25日より開催された第37回「笹川賞」から、その他の競走については同年6月1日以降を初日とする競走から、それぞれ使用された。

■ボートレース芦屋で業界初のモーニングレース「サンライズレース」が開幕

平成22年7月9日、ボートレース芦屋において業界初のモーニングレースが開始された。7月9日から10月19日までの全15節（開催日数75日）において実施。第1レースのスタート展示時刻が、これまでの午前10時45分から1時間40分早めた午前9時5分に、発売締切時刻は午前9時25分となり、最終第12レースの発売締切時刻は午後2時42分となった。

また、ボートレース芦屋は、モーニングレース開始に合わせて、モーニングレースの愛称を公募（募集期間：同年5月25日～6月15日）を経て、「サンライズレース」に決めた。

■パチンコ機「CRモンキーターン」がホールにデビュー



平成22年7月29日、ボートレース平和島のロイヤルルームにてパチンコの新機種「CRモンキーターン」の記者発表会が行なわれた（主催：株式会社エース電研）。発表会には、植木通彦執行役員、登録第4075号中野次郎選手（東京）、登録第4347号魚谷香織選手（山口）がゲストとして参加し、新機種のアピールに一役買った。

原作の「モンキーターン」（作者：河合克敏氏）は、小学館の「週刊少年サンデー」にて、平成8年から平成17年まで連載されたボートレースが題材の漫画。平成16年にはテレビ東京系でアニメ化、そのアニメを元に同年、ゲーム化もされた。パチンコ台は株式会社エース電研が製作し、同年9月上旬にホールにデビューした。

■「2連勝ナイトフェスタ」を開催

ナイターレース実施場5場（桐生、蒲郡、住之江、丸亀、若松）は、平成22年10月21日から11月2日の間の各場1節で、長引く売上低迷を打開する施策の1つとして、2連勝式のみを発売する企画レース「2連勝ナイトフェスタ」を開催した。これは、ボートレースの醍醐味である「当てやすさ」と「推理する面白さ」をお客さまに再発見していただき、既存ファンの活性化や休眠顧客の呼び起こしを図るとともに、当たりやすい2連勝式のみに限定することにより新規ファンの獲得も目指したものであり、ボートレース活性化委員会で企画・検討し、ナイターレース場の協力のもと実施した。



■場外発売場が開設

平成22年は「ボートピア栗橋」「ミニボートピア長崎波佐見」「ミニボートピア日向」「ミニボートピアさつま川内」と4つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で45カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
ボートピア栗橋	戸田	埼玉県	2月25日	県内2カ所目
ミニボートピア長崎波佐見	大村	長崎県	8月 4日	県内5カ所目
ミニボートピア日向	芦屋	宮崎県	12月25日	県内2カ所目
ミニボートピアさつま川内	大村	鹿児島県	12月26日	県内4カ所目



ボートピア栗橋



ミニボートピア長崎波佐見



ミニボートピア日向

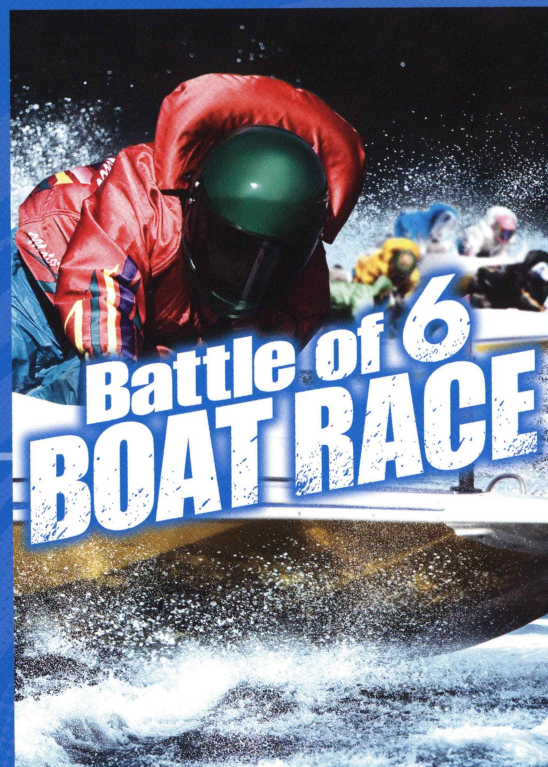


ミニボートピアさつま川内

競走会10年のあゆみ

2011

(平成23年)



当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

■観測史上最大M9.0の東日本大震災、

東京電力福島第一原発で津波による電源喪失でメルトダウン発生

■九州新幹線の博多駅―新八代駅間が開業、

博多から鹿児島までの全線が開通

■イギリスでウィリアム王子とキャサリン妃が挙式

■スパコン世界ランキングで、

日本が開発した「京(けい)」が7年ぶりに首位奪還

■平泉の仏国土を表す建築・庭園及び遺跡群が世界文化遺産に、

小笠原諸島が世界自然遺産に登録

■女子サッカーワールドカップドイツ大会で日本が優勝、国民栄誉賞も受賞

■アナログテレビ放送が終了し、地上デジタル放送へと完全移行

■円高続進、1ドル=75円32銭で戦後最高値を更新

■プロ野球セ・リーグで、経営譲渡により球団名が

「横浜DeNAベイスターズ」に

■大阪府知事選・市長選のダブル選挙で

「大阪維新の会」の松井一郎と橋下徹が圧勝



■観測史上最大M9.0の東日本大震災



■イギリスで、ウィリアム王子とキャサリン妃が挙式



■女子サッカーワールドカップドイツ大会で日本が優勝

競走会のトピックス

■GI賞金女王決定戦の新設

第89回競技運営研究委員会(平成22年12月1日開催)の答申に基づき、選手出場あっせん規程、選手出場あっせん規程実施細則、SG競走開催要綱、GI競走開催要綱、GII競走開催要綱及びGIII競走開催要綱の一部改正が、平成22年度第7回理事連絡会(平成22年12月16日開催)において承認・可決され、選手出場あっせん規程の一部改正については、国土交通大臣の認可(平成23年1月7日付国海総第399号)を受けた。

主な改正事項は、女子レースのさらなる活性化を目的とした年間獲得賞金上位選手による賞金女王決定戦競走の新設、平成22年度からモーターボート大賞競走がGII競走となり、A2級選手の上位グレードへの出場機会が拡充されたことでGIIIのモーターボート大賞トライアル競走を廃止する等、グレードレースの見直しであった。

■選手応募資格の改正 一身長体重制限緩和、スポーツ推薦試験の導入

選手募集に際し、全国からより多くの有資質者を確保し、応募者数の増加につなげるため、選手、審判員及び検査員養成訓練規程の一部改正について、第15回臨時理事会(平成22年11月2日開催)において承認・可決された後、国土交通大臣の認可(平成22年11月30日国海総第336号)を受けた。

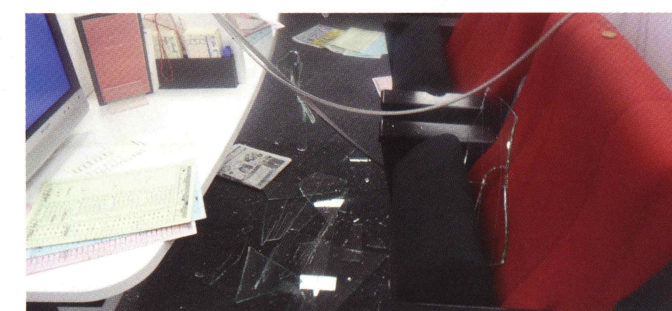
この規程の一部改正は、当時、少子高齢化現象や、食生活の変化による応募対象者の体格の大型化など、選手の応募者数を増加させる環境としては厳しい状況にあったことから、一般試験応募資格における「18歳未満の男子の身長168cm以下、体重52kg以下」の制限を廃止し、「18歳以上の者と同様に172cm以下、体重55kg以下」とした。さらに、一般試験の中にスポーツ推薦試験を設け、その対象を中学・高校・大学等のスポーツ活動(対象競技は不問)において優れた実績を収めた者1~2名(各ボートレース場ごとの応募総数が50名以上80名未満の場合は1名、80名以上の場合は2名以内)の推薦を可能とした。

試験の流れは、一般試験の応募申請は従来通りとし、スポーツ推薦については、まず施行者と競走会の募集担当者が受験申請書のスポーツ履歴から対象者数名を抽出し、その対象者のスポーツ歴等の詳細実績を取り寄せた後、施行者の部長、競走会の地区理事及び当該ボートレース場の競走会執行役員クラスによる人物試験を経て、規定数のスポーツ推薦者を決定することとした。それ以降は、一般試験・スポーツ推薦とも共通の流れとし、二次・三次試験の結果で入学の可否判定が行なわれることとなった。この一部改正は、第111期選手募集活動(平成23年2月1日開始)から適用され、この改正をきっかけに各ボートレース場に施行者の募集担当者等を配置されることとなった。

■東日本大震災の発生

平成23年3月11日に発生した、国内観測史上最大となるマグニチュード9.0もの規模で宮城県三陸沖を震源とした東日本大震災では、地震、津波の災害だけでなく、東京電力福島第一原発事故、首都圏の液状化現象や交通網麻痺、電力不足等、前代未聞となる被害が発生した。この震災により、ボートレース業界においても関東地区のボートレース場と東北・関東地区の場外発売場が大きな被害を受けた。

なお、BOATRACE振興会では「東日本大震災 被災地支援競走」の横断幕を制作し、ボートレース場へ配布した。またスローガンつきのロゴマークも制作し、被災地支援競走の出走表などの印刷物等に活用された。



《震災からの動向》

- 3月11日 地震発生後のボートレース多摩川において、第9レース以降安全確保のため中止。
- 3月12日 ボートレース平和島・多摩川・福岡で開催を中止、被害のあった場外発売場で発売中止。
- 3月13日 3月中旬以降の開催を中止することを発表(3月13日から3月31日まで中止、同期間内に開催予定であったSG第46回総理大臣杯競走(戸田)も中止)。
- 3月18日 第108期選手養成訓練卒業記念競走を自粛
- 3月19日 ボートレース業界として、関係21団体の協力のもと、都内9カ所において募金活動を実施。また、選手会では～21日 全国各支部において選手などが募金活動を行った。この募金活動により計約1,311万円を支援。
- 3月28日 4月1日以降を初日とする開催より「東日本大震災 被災地支援競走」として、レースを順次再開することを発表。(ただし、ナイターレースについては当分の間、自粛とした。)
- ボートレース業界全体として15億円の支援金を日本財団を通じて、被災地へ寄付することを決定。
- 3月29日 日本財団による被災者支援として、以下の3策を発表。
- (1)死者・行方不明者1人当たり5万円の弔慰金、見舞金を遺族・親族に支給
- (2)上限1億円の漁業者向け緊急支援融資制度新設
- (3)100万円以下のNPO・ボランティア活動を書類審査で迅速助成
- 4月 1日 レース再開(ボートレース桐生は4月中は開催中止、関東地区の他のボートレース場は1節目中止。)
- ボートピア大郷・玉川を除き場外発売場の発売を順次再開。
- 4月 7日 関東地区にてレース再開。
- 4月 8日 7日に発生した地震の影響による停電のため、ミニボートピア黒石、ボートピア河辺にて発売を中止。
- 4月18日 25日よりナイターレースが再開することを発表。
- (ボートレース若松は25日、丸亀は28日、蒲郡は29日、桐生・住之江は5月3日から再開)
- 4月20日 東日本大震災支援への支援金として競走会・皆川浩二会長(当時)から支援金1億円の目録を日本財団・笹川陽平会長に贈呈し、被災者の救済に役立てられた。

■人事考課要領及び嘱託人事考課要領の施行

職員等の処遇について、適切に反映する仕組を構築することで、業務への意欲助長及び組織の活性化を図ることを目的として、平成22年12月16日に人事考課要領及び嘱託人事考課要領を制定し、平成23年4月1日より人事考課制度を導入することとなった。同制度の骨子は、考課の対象を給与及び賞与とすること、被考課者の対象を職員、準職員及び嘱託とすること、考課の区分を能力考課、態度・姿勢考課及び成果考課とすること、考課表の考課点を5段階(嘱託は3段階)とすること、ランクを3段階(嘱託は2段階)とすること、考課結果のフィードバックを希望する被考課者には考課結果を説明すること等であった。

■ボートレース戸田でSG東日本復興支援競走を開催



SG東日本復興支援競走が、平成23年8月5日から10日まで、ボートレース戸田において開催された。このSG競走は、東日本大震災により開催中止となった第46回総理大臣杯競走の代替開催となり、日本財団を通じて被災地の復興を支援することを目的として総理大臣杯競走に出場を予定していた52名が出場し実施された。

優勝戦は、1号艇の登録第3995号重野哲之選手(静岡)が逃げ切って圧勝。重野選手は、SG競走2回目の優出にて、初優勝を飾った。

なお、ボートレース戸田では、この東日本復興支援競走を盛り上げるべく、開催全期間中、戸田市の友好都市である福島県白河市の「産直コーナー」と「東北6県

物産展」、また日本財団所有の支援状況等の写真を展示する「被災地写真展」が開催され、また、開催後半の3日間は、出場した全選手が関連グッズ等を出品したチャリティーオークションが実施され、その収益金は、日本財団を通じて被災地支援活動に寄付された。

■芦屋支部で新選手宿舎が完成

芦屋支部選手宿舎は、昭和47年8月の竣工から37年を経過し老朽化が進んでいたため、平成22年7月より新宿舎の建設が計画され、平成23年3月に起工式を行い着工となった。用地は、競技棟付近を芦屋町から借り入れた。新宿舎は平成23年12月20日に引き渡しを受け、同月26日に竣工式が行われ、同月29日より使用を開始した。

新宿舎の規模は、敷地面積1,876.41㎡、建築面積1,143.59㎡、延床面積2,466.92㎡で鉄筋コンクリート造りの3階建てであった。1階には、食堂、監督室、大・小の浴室及びサウナ、エントランスホール、喫煙室、洗濯室等を設置。2階と3階は、選手の居室エリアとした。選手の居室は20室あり、室内には共有スペースと3つに分かれた個人スペースを設けた。また、これまでは、競技棟から選手宿舎までバスでの移動となっていたが、新宿舎完成により、徒歩で移動できるようになった。



平成23年優秀選手



最優秀選手	池田 浩二(愛知)
最優秀新人選手	山田 康二(佐賀)
最多賞金獲得選手	池田 浩二(愛知)
最高勝率選手	瓜生 正義(福岡)
最多勝利選手	瓜生 正義(福岡)
優秀女子選手	田口 節子(岡山)
記者大賞	池田 浩二(愛知)

■「グッドモーニング徳山」「朝ドキ!からっ」が開幕 ― モーニングレース実施場が3場に ―

ボートレース徳山は平成23年2月9日より、ボートレース唐津では平成23年4月1日より、それぞれモーニングレースを開始した。モーニングレース実施場はボートレース芦屋・徳山・唐津の3場となり、平成23年4月以降においては、連日、3場のうち少なくともいずれかひとつのボートレース場で、モーニングレースが実施されることとなった。なお、それぞれのレース名称は、徳山が「グッドモーニング徳山」、唐津が「朝ドキ!からっ」となった。

■パチスロ機「モンキーターン」がホールの人気機種に



平成23年3月にテレビアニメ「モンキーターン」とタイアップしたパチスロ機が株式会社山佐から発売された。ホールデビュー当初は約3,000台導入と極めて厳しい状況であったが、口コミが口コミを呼び、根強い人気でじわじわと導入台数が増え、累計販売台数6万台超えというパチスロ業界でも驚異的なヒット機種になり、平成23年のパチスロ人気投票でも第1位を獲得した。これによりパチスロファンの主流である若年層にボートレースという競技が強く訴求され、これを機に新たにボートレーサーを志望したり、ボートレースファンになったという若者の増加につながった。

■全場で集計システムの集約化が完了

平成19年11月のボートレース平和島への導入を皮切りに、24カ所のボートレース場及びボートピアへの展開が進められてきた集計システムの集約化は、平成23年4月のボートレース常滑への導入をもって、全ボートレース場への展開が完了した。集計システムの集約化は、これまでは各ボートレース場に設置されたトータリゼータシステムで実施してきた舟券の集計、払戻金の計算等の処理を、中央情報処理センター（高崎センター）に設置された集計ユニットにて行なうもので、これにより各場の集計システム更新費用が大幅に削減された。

■スマートフォンによるWEB投票開始

平成23年6月に、スマートフォン向けサービス「BOAT RACE WEB投票」を開始。これは、スマートフォンのWEB機能を利用したもので、舟券の購入と予想の参考になるレース情報が一体になったサービスであった。また、同年11月には、iPhoneアプリによる投票サービスも開始された。舟券投票のさらなる利便性の向上が図られた。

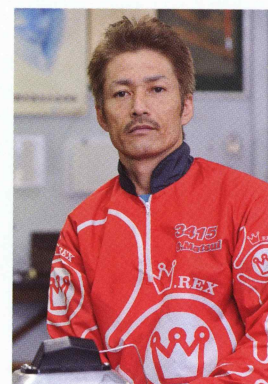
■ロンドンオリンピック日本代表選手団に協賛



BOAT RACEは、JOC及びオリンピック日本代表選手団を応援しています。

ボートレース業界は、世界的なイベントであるロンドンオリンピックの日本代表選手団を支援するため、公益財団法人日本オリンピック委員会（以下「JOC」）に協賛することを決定し、平成23年8月28日、第57回モーターボート記念競走開催中のボートレース福岡において、記者発表を行った。同年8月9日に日本財団が東日本大震災復興支援JOC「がんばれ!ニッポン!」キャンペーンの一環として、「ミニオリンピック」の開催を支援するとともに、選手強化活動を支援するための募金活動を行うことを記者発表した。この協賛においては、JOCの諸活動やスポーツ振興・普及活動に対して支援を行うとともに、ボートレース業界では、広告物等を通じて、支援活動を広くアピールも行った。

■登録第3415号松井繁選手（大阪）が生涯獲得賞金額30億円を突破



平成23年12月25日、第26回賞金王決定戦競走の優勝戦に出場し2着となった登録第3415号松井繁選手（大阪）がデビュー22年目にして、公営競技で初となる生涯獲得賞金額30億円を突破した。松井選手はそれまでに、賞金王決定戦3勝を含むSG10回優勝、GI46回優勝（いずれも現役最多）を誇り、平成22年9月には業界史上12人目となる優勝100回を達成した。松井選手は平成18年6月に3人目となる20億円突破を果たし、平成20年8月に公営競技界初となる25億円を突破、平成23年12月末時点で生涯獲得賞金額は30億1,948万502円に至った。

■場外発売場が開設

平成23年は「ミニボートピア鳥取」「ミニボートピア福島」「ミニボートピア山口あじす」「オラレ日南」「ミニボートピア阿賀野」と5つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で50カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
ミニボートピア鳥取	尼崎	鳥取県	4月 7日	県内初
ミニボートピア福島	桐生	福島県	6月15日	県内2カ所目、競輪場外発売場内
ミニボートピア山口あじす	下関	山口県	10月18日	県内3カ所目
オラレ日南	芦屋	宮崎県	10月29日	県内3カ所目
ミニボートピア阿賀野	戸田	新潟県	11月26日	県内初



ミニボートピア鳥取



ミニボートピア福島



ミニボートピア山口あじす



オラレ日南



ミニボートピア阿賀野

競走会10年のあゆみ

2012

(平成24年)



当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

- 東日本大震災からの復興を目的とした「復興庁」を設置
- 格安航空会社「ピーチ・アビエーション」「ジェットスター・ジャパン」が就航
- 金環日食、国内では25年ぶりに観測
- 高さ634mで自立式鉄塔としては世界一となる東京スカイツリー開業
- 大分・熊本・福岡・佐賀各県が記録的な「九州北部豪雨」に襲われる
- 夏季五輪ロンドン大会開催、三宅宏実が女子重量挙げで銀、日本史上初の父娘メダリストに
- 在日米軍が垂直離着陸輸送機「オスプレイ」を普天間飛行場に配備
- 京大の山中伸弥教授がiPS細胞の研究でノーベル医学生理学賞受賞
- 女子レスリング世界大会13連覇で吉田沙保里に国民栄誉賞
- 衆院選で民主党が大敗、自公が政権奪還し第2次安倍晋三内閣が発足



■世界一高い電波塔の東京スカイツリー(634m)開業



■京大の山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞受賞



■衆院選で民主党が大敗、第2次安倍内閣が発足

競走会のトピックス

■平成23年度のスタート事故率は0.290、21年ぶりにスタート事故防止目標を達成



平成23年度のスタート事故率は0.290となり、スタート事故防止目標としていた事故率0.30以内を達成した。スタート事故率の防止目標達成は、平成2年度以来で21年ぶりとなった。スタート事故件数で見ると、フライングは1,267件(前年度比27件増)、出遅れは54件(選手責任22件、選手責任外32件、前年度比8件増)であった。

また、スタート事故防止に対する意識を高めるため、表彰制度を実施しており、スタート事故防止目標(スタート事故率0.30以内、返還率1.000%以内)を達成した支部に対して表彰を行った。平成23年度はボートレース徳山・下関・鳴門・住之江・若松・児島の6場がスタート事故防止目標を達成した。さらに、選手会に対しても特別助成制度が設けられており、各級別審査対象期間において、スタート事故防止目標を達成した支部には、特別助成金が与えられた。

■財団法人から一般財団法人へ移行

公益法人制度改革による関連3法(法人法、認定法及び整備法)の施行を受け、この当時、公益法人であった競走会は、平成25年11月30日までに必要な手続きを行い、「公益財団法人」又は「一般財団法人」に移行することとなった。

競走会は、「補助金や負担金などを主要な財源とし、不足する部分については収益事業で獲得した利益によって補いながら公益目的事業を行う」といった認定法の趣旨に合う事業形態ではなく、認定法に定める18の公益認定基準(収支相償、公益目的事業比率、遊休財産の保有制限など)の全てに適合することが困難と考えられたことから、円滑な組織運営を行うため、平成24年4月1日より、一般財団法人へ移行することとなった。

■ボートレース公式Facebookページを開設



昨今のSNSの普及及び若年層の取り込みを踏まえ、ボートレース広報の公式Facebookページを立ち上げた。擬人化キャラクターのけん玉「伊藤くん」がSGやプレミアムGIの開催場を現地レポートする形式の写真をメインとする記事のほか、新人選手のデビュー戦情報、ボートレーサー養成所の訓練生情報など投稿は多岐にわたった。



■新「プロペラ制度」を開始 一個人持ちからモーター備え付けプロペラへー

平成24年4月より、当時、適用していた「選手持ちプロペラ制度」を廃止し、モーター1基につきプロペラを2枚ずつ配備する新制度へ改正した。従来の「選手持ちプロペラ制度」は、選手のプロペラ修整技術の向上もあって迫力あるレースの具現化に寄与した反面、モーターと選手持ちプロペラがどのようにマッチングするかが複雑で、推理が難しいという声も多くあった。そこで、各モーターに備え付けのプロペラを使用する新制度を導入し、交換状況をシンプルで分かりやすくすることで、お客さまが推理しやすい情報提供を図った。

【新プロペラ制度の実施概要】

(1)実施時期

- ①ボートレース浜名湖：平成24年4月12日（先行実施）
- ②他のボートレース場：平成24年4月27日
（当日以降を初日として開催される全レース）

(2)内容

- ①各ボートレース場のモーター1基につき、異なるメーカーのプロペラを1枚ずつ、合計2枚を配備
- ②メーカーはヤマト製及びナカシマ製
- ③プロペラ使用期間は原則2年

(3)お客さまへの情報公開

①プロペラ使用状況

出場選手が使用するプロペラのメーカー名（ヤマト／ナカシマ）を発表

②プロペラ交換

選手はプロペラを破損した場合等に、競技委員長の判断により、予備（新）プロペラへの交換が認められる。

**新プロペラ制度
スタート!!**

より予想しやすく、面白く
新時代レースの幕開け!!

プロペラ制度が変わります。

選手持ちプロペラ制度を廃止し、ボートレース場のモーターに備え付けのプロペラを使用する制度に変わります。
ボートレーサーは、それぞれのモーターに付いている2種類（ヤマト製、ナカシマ製）の中からレースに使用するプロペラを選択してレースに挑みます。

新プロペラ制度

選手持ちプロペラ制度廃止 → 2種類のプロペラから選択 → 選手使用のプロペラが明確になる → モーターの競争の透明度UP!! → レースがより予想しやすく楽しくなる!!

平成24年4月27日 以後の日を初日とする開催から実施
ボートレース浜名湖は平成24年4月12日から先行実施

日本モーターボート競走会

■番組編成基本方針の見直し 一枠番公平性にとらわれない魅力ある番組編成へー

お客さまに魅力ある競走を提供するために、番組編成のあり方を見直し、平成24年11月1日以降を初日とする競走から、節間を通して枠番の公平性やバランスを斟酌しないこととした（ただし、GⅡ競走以上の予選4日間は除く）。ボートレース場の特徴、あっせん選手の個性あるいはコース取りが活発となるような番組編成とし、お客さまに推理・予想を楽しんでもらえるよう、節間における枠番のバランス（1～6を均等に割り振る）に囚われ、枠番を埋め合わせたように見える編成ではなく、「魅力ある番組」が可能となるように明快に示したものであった。一方で、GⅡ競走以上のグレードレースにおいては、SG競走の選考に関係することや賞金が高額で級別上位選手のみが出場することから、その予選競走は、枠番のバランスに配慮することが必要であり、現行どおりとした。

■ボートレース大村でGI第1回賞金女王決定戦を開催

平成24年12月11日より、GI第1回賞金女王決定戦競走がボートレース大村で開催され、売上は、90億6,508万8,200円で、目標の70億円を大きく上回る好結果となった。優勝戦は、登録第4208号三浦永理選手（静岡）が3コースからまくり差しを決め、初代賞金女王となった。また、開催に先立ち、同年11月12日には、第1回賞金女王決定戦競走のPRを目的に、「Road to 賞金女王決定戦」と題したイベントを品川グースにて開催し、事前の盛り上げを図った。



平成24年優秀選手



最優秀選手	山崎 智也(群馬)
最優秀新人選手	該当者なし
最多賞金獲得選手	山崎 智也(群馬)
最高勝率選手	白井 英治(山口)
最多勝利選手	深川 真二(佐賀)
優秀女子選手	三浦 永理(静岡)
記者大賞	山崎 智也(群馬)
特別賞	井口 佳典(三重)
特別賞	田口 節子(岡山)

■チャリティーイベント「エールFOR日本 ～ロンドンに力を。被災地に笑顔を～」を実施



ボートレース業界のみならず、ボートレースファンにもチャリティーイベントによる募金活動に参加いただくことで、ボートレーサーとの触れ合いを楽しんでいただくとともに、ボートレースの社会的認知度と貢献度を広く社会にPRすることにより、ボートレースのイメージアップにつなげていくチャリティーイベント「エールFOR日本 ～ロンドンに力を。被災地に笑顔を～」を実施した。

《イベント概要》

- ・実施期間：平成24年3月から8月
- ・実施協力団体：選手会、施行者、施設会社、BP施設会社、
BOAT RACE 振興会、競走会
- ・内容：①選手とのチャリティー記念写真撮影会
②選手チャリティーオークション
③募金箱設置（各ボートレース場及び場外発売場にて設置）

■全国総合払戻サービスの開始



平成24年4月1日から、全国24のボートレース場及び一部のボートピア等で舟券の払い戻しができる総合払戻サービスが開始された。サービス開始にあたり、サービス可能な窓口をお客さまに案内するために、「どこでもはらいおん」マークを制定した。このマークが設置された窓口では、その対象施設で発売された的中・返還券の払い戻しが可能となった。

■SGレース等の前日発売の開始

発売時間の拡大によりお客さまの利便性向上を図るため、本場の発売締切時間の3分前に設定していた場間場外発売・電話投票の締切時間を、平成24年4月1日より、同2分前に短縮した。また、4月24日よりボートレース下関で行なわれたGI第13回名人戦競走を皮切りに、同年度開催のSG・全国発売のGIレース（全12競走72日間）にて、電話投票の前日発売を開始した。インターネット即時銀行に登録している電話投票会員が対象で、昼間開催は18時から23時、ナイター開催は21時30分から23時まで発売を行なった。さらに、同年3月22日からは、投票ベット数を拡大したり、パソコン・携帯電話からの投票では一度に複数場の舟券が購入可能となるなど、投票機能の強化が図られた。

■ボートレース丸亀で新スタンドがオープン

平成24年7月28日、ボートレース丸亀はメインスタンドを一新し、リニューアルオープンした。家族連れや若者が集い安心して遊べる、また新しいファンの開拓にもつながる、地域に根付いた施設づくりをコンセプトとし、楽しく、

明るく、遊べるボートレース場を目指した。

新スタンドでは快適にレースを観戦していただけるよう、全席にテーブルを設置。また、女性専用席も設けた。さらにキャッシュレス投票機器を導入し、事前に会員登録を行い、専用カードに入金をしておけば、現金を使用せずにスムーズな投票ができるようになった。また、購入額に応じてポイントが貯まり、現金やオリジナルグッズと交換できる新サービスも導入した。

場間場外発売では、ボートレース丸亀が開催する全レースをはじめ、全国で展開されるグレードレースやナイターレースなどの舟券を朝10時からナイターレース終了まで、年間最大350日、1日最大4場・48レースを発売。スタンドエリアは区切って利用できるようになっており、節電省エネルギーでの運営も可能となった。



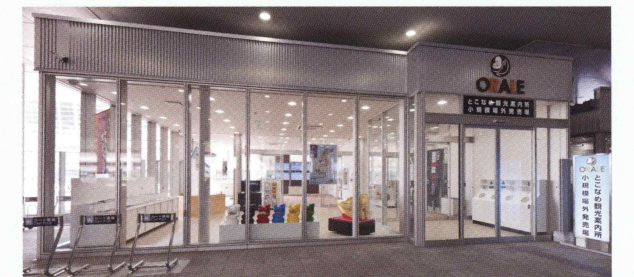
■場外発売場が開設

平成24年は「オラレ上越」「オラレセントレア」「ミニボートピア嘉麻」「ミニボートピアりんくう」と4つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で54カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
オラレ上越	平和島	新潟県	2月 2日	県内2カ所目
オラレセントレア	常滑	愛知県	5月17日	県内2カ所目、空港施設内としては公営競技初
ミニボートピア嘉麻	芦屋	福岡県	5月19日	県内3カ所目
ミニボートピアりんくう	住之江	大阪府	12月15日	府内2カ所目



オラレ上越



オラレセントレア



ミニボートピア嘉麻



ミニボートピアりんくう

競走会10年のあゆみ

2013

(平成25年)

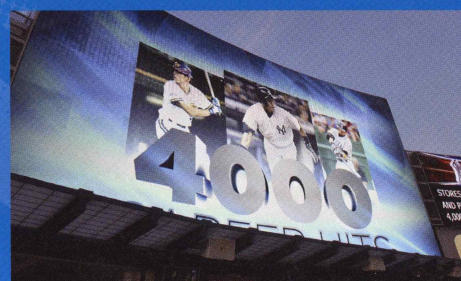


当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

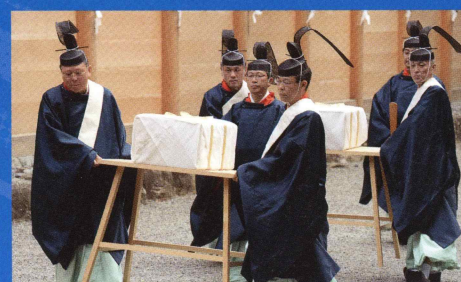
- 朴正熙・元大統領の長女朴槿恵(パク・クネ)が韓国初の女性大統領に
- 大相撲の大鵬、読売ジャイアンツ師弟コンビの長嶋茂雄と松井秀喜に国民栄誉賞
- 富士山と三保の松原などが世界文化遺産に登録
- 米大リーグ・ヤンキースのイチローが日米通算4千本安打
- 2020年夏季五輪会場として東京開催が決定
- 日本シリーズ優勝の楽天イーグルス・田中将大投手が28連勝のプロ野球新記録
- 東京湾南方1千キロの西ノ島付近で噴火、新島が誕生し成長続く
- 出雲大社と伊勢神宮がそろって遷宮
- SNSのLINEが若年世代を中心に急速に普及、女子高生の95%以上が使用



■ 富士山と三保の松原などが世界文化遺産に登録



■ ヤンキースのイチローが日米通算4千本安打



■ 出雲大社と伊勢神宮がそろって遷宮

競走会のトピックス

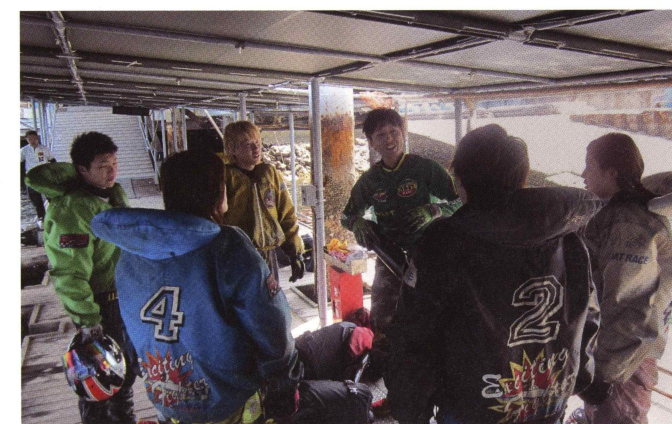
■ 45歳以上の選手を出場対象とする「匠シリーズ」を開始

平成25年6月より新設した45歳以上の選手を出場対象とするレースのシリーズ名称が、公募により「匠シリーズ」に決定。BOATRACEオフィシャルWebサイト内で名称を募集したところ、2,200名を超える応募があった。名称が「匠シリーズ」に決定した理由は、ベテラン選手の持つ巧妙な技術が「優れた技術を持ち合わせた人」である「匠」を想起させることから。「匠シリーズ」は、年間5節開催され、GI名人戦(48歳以上対象)と若干の差異を持たせて、45歳以上に出場選手の対象年齢の幅を広げたことで、グレードレースで活躍する多くの選手をあっせんできるようにして、さまざまな組み合わせでの開催が可能となった。また、高速モンキーターンを駆使し、近代ボートレースのパイオニアとなった世代と名人戦クラスの世代とが同じ土俵に上がることで、白熱するベテラン同士の戦いが期待された。

■ 地区別合同自主訓練を全国で実施

地区別合同自主訓練は、業界の重点施策であるスター候補選手育成の一環として、BOATRACE振興会と協力し、競走会各支局管内で年間2回開催された。各地区内における若手選手の合同自主訓練による技量向上と電話投票会員・地元ファンへのファンサービスを併せて実施した。この合同自主訓練には、デビュー6年未満の若手選手が参加し、指導選手の下、模擬レース等の実技訓練を行った。模擬レースでは指導選手が各班に同乗し、レース後には一人一人がアドバイスを受けることができた。また、競技本部でのVTRを参考にした指導は、若手選手が熱心に質問できる機会となった。こうした指導が、次世代のスター選手づくりへの一助となった。

また、電話投票会員や地元ファンへのファンサービスとして行われたイベントでは、ペアボート試乗会、競技棟見学会が行われた。ペアボート試乗会では、大時計を起動させ、3艇～4艇で本番同様にピットアウトからレース形式で実施し、参加者からは「迫力があつた」等の好評を得られた。競技棟見学会では、各施設の見学や、指導教官によるプロペラ叩き体験等があり、参加者の関心も高かった。



■ グレード競走の活性化

一賞金王及びチャレンジカップ見直し、ヤングダービー、イースタン・ウエスタンヤングの新設等

業界関係者間で議論・検討された平成26年度実施に向けてのグレード競走の活性化に基づき、選手出場あっせん規程の一部改正について、第8回理事会(平成25年6月11日開催)において承認・可決された後、国土交通大臣の認可(同年6月18日付国海総第136号)を受けた。また、選手出場あっせん規程実施細則、SG競走開催要綱、GI競走開催要綱、GII競走開催要綱及びGIII競走開催要綱の一部改正についても、平成25年度第2回理事連絡会(同年6月11日開催)において承認・可決された。これらの選手出場あっせん規程等の一部改正は、平成25年6月18日からの施行となった。

主な概要は次のとおり。

(1) チャレンジカップ競走の見直し

年末のSG賞金王決定戦競走及びGI賞金女王決定戦競走へのチャレンジステージと位置付け、従来のチャレンジカップ競走に併せて、女子選手によるGⅡレディースチャレンジカップ競走を新設するもので、1つの競走開催期間の中で2つのチャレンジカップを同時に開催し、それぞれの優勝者を輩出する。

(2) 賞金王決定戦競走の見直し

SG賞金王決定戦のさらなる盛り上げを図るために従来の4日間開催から6日間開催に拡大し、1日2レースのトライアル戦を初日から2日目までの第1ステージと3日目から5日目までの第2ステージによる2ステージ制とする。なお、第1ステージでは獲得賞金額上位7位から18位までの12名により争い、そこで勝ち上がった6名は第2ステージへ進出し、他の6名は賞金王シリーズ戦へ移る。第2ステージでは3日目から出場する獲得賞金額上位1位から6位までの6名と第1ステージから勝ち上がった6名の計12名により最終日の賞金王決定戦（優勝戦）への進出をかけて争う。

(3) ヤングダービー競走、イースタンヤング競走及びウエスタンヤング競走の新設

新鋭王座決定戦競走が創設より30年弱を経て、同競走の所期の目的を達成したものと考え、これを一新して年齢30歳未満の勝率上位の男女選手によるGI競走を新設し、名称もヤングダービーと装いを新たにヤングレーサーの迫力あるレースを提供する。なお、新鋭王座決定戦競走については、ヤングダービーの新設にともない廃止とする。また、ヤングダービーのプレシリーズとして、ヤングダービーの開催前に東西のヤングレーサー覇者を決定するGⅢイースタンヤング競走及びGⅢウエスタンヤング競走を新設し、ヤングダービーへの勝ち上がり競走として位置付ける。

(4) 賞金女王シリーズ戦競走、新鋭リーグ戦競走、女子リーグ戦競走及びオール女子競走の見直し

一般競走である賞金女王シリーズ戦のグレードをGⅢ競走に変更する。ただし、今回のグレード競走の活性化に伴う見直し等が平成26年度からの実施となっているが、この賞金女王シリーズ戦のグレード変更のみは平成27年度から実施する。また、新鋭王座決定戦競走の廃止及び女子選手に係る競走の見直しに伴い、GⅢ競走である新鋭リーグ戦及び女子リーグ戦のグレードを一般競走に変更し、一般競走であるオール女子戦の競走名称をオールレディース競走と改め、グレードをGⅢ競走に変更する。

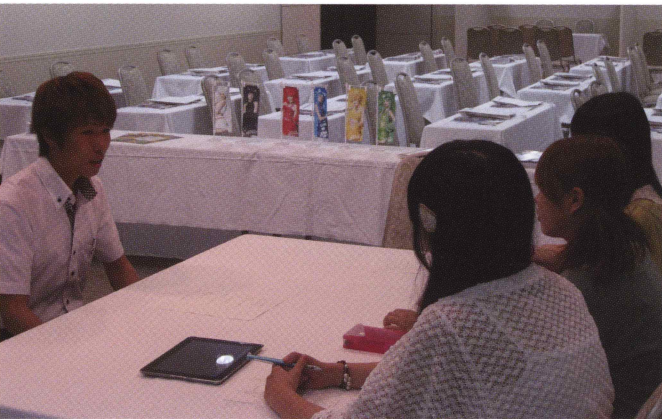
なお、このグレード競走の活性化に係る概要については、平成25年6月30日にボートレース常滑（SG第23回グランドチャンピオン決定戦競走最終日）において、報道関係者等約50名を招いた記者発表会を催し、同概要が報告された。

■ 職員等の人員配置モデルの策定と推進

業務配分の平準化及び効率化、並びに採用計画の適正化及び明確化を目的として、平成24年7月24日に策定された基本モデルに次いで、平成25年7月29日に各事務局の施設・設備等の特殊な事情を勘案した事務局モデルをそれぞれ策定した。基本モデルでは、本部、支局、支部及び場外運営事務所における職種、配置人数、職制及び主な職種を規定していた。事務局モデルでは、各事務局における配置人数をそれぞれ規定した。

■ 札幌・那覇にてボートレーサー募集説明会を開催

競走会とBOATRACE振興会は、選手会協力のもと、北海道札幌市及び沖縄県那覇市において、ボートレーサー募集説明会を開催した。受験者負担の軽減を目的に平成26年5月に実施する第一次試験より新たに札幌・那覇会場が追加されたことに合わせての開催であった。同説明会はアンテナショップを拠点として開催され、ボートレースの認知拡大とボートレーサー発掘を目的として行われた。



■ 「非常識なフライング」に対する処置の運用を開始

スタートタイミング0.05以上のフライング（約3分の1艇身）をした選手がいる場合には、約75%の確率で複数艇によるフライングを誘引していたことから、平成25年9月27日開催の第97回競技運営研究委員会において、スタートタイミング0.05以上のフライングを非常識なフライングと定義し、これを起こした選手に対し、当該開催については原則、即日帰郷処分とし、併せて当該事象1回につき選手会主催の特別訓練への参加を義務付けた。

平成25年優秀選手



最優秀選手	池田 浩二（愛知）
最優秀新人選手	岩瀬 裕亮（愛知）
最多賞金獲得選手	池田 浩二（愛知）
最高勝率選手	瓜生 正義（福岡）
最多勝利選手	守田 俊介（滋賀）
優秀女子選手	平山 智加（香川）
記者大賞	池田 浩二（愛知）

■登録第1485号加藤峻二選手が最年長優勝記録を更新

ボートレース戸田にて、平成25年3月21日から25日まで開催された「第8回JCN埼玉杯・新鋭VS名人」において、登録第1485号加藤峻二選手（埼玉）が71歳2カ月で優勝し、これまでの最年長優勝記録であった登録第2014号高塚清一選手（静岡）の65歳10カ月を大幅に更新した。選手生活53年の最古参選手が偉業を達成した。



■ボートレーサー写真集を制作

BOATRACE振興会は、競走会と男女ボートレーサー写真集を共同制作し、全施行者に配布するとともに、ボートレーサーの訴求及びGI女子王座決定戦、並びにGI新鋭王座決定戦を盛り上げるためのファンサービスツールとして活用した。平成25年4月から両王座決定戦までに開催される「新鋭リーグ」「女子リーグ」「オール女子」を開催するボートレース場を対象とし写真集を配布したほか、各ボートレース場、ホームページ、出走表などでのサービス告知や、選手のサインを入れて配布する等、工夫を凝らして、ファンサービスに活用した。



■ボートレース江戸川で指定席「MIYABI(みやび)」がリニューアルオープン

ボートレース江戸川では平成25年4月18日、場内の4・5階にあった指定席（旧名称：エグゼ）を全面改修し、指定席「MIYABI(みやび)」としてリニューアルオープンした。年間最大350日、午前10時からナイター終了まで、1日最大5場・60レースを発売。“和”をイメージした落ち着いた装飾の投票ホールを設け、観覧席は従来の2倍のスペースを確保した。全50席のリクライニング席をはじめ、全112席のレギュラー席、ベア席、グループ席、個室、カラオケルームも設置し、お客さまの多様なニーズに対応した。また、ライトユーザー向けに、ベンチ席が利用できる入場券を用意したほか、4階には女性専用ルーム「kaguyahime」やリラクゼーションルーム「Powerspot」等を併設した。リクライニング及びレギュラー席には大型モニターを1台ずつ設置。さらに、キャッシュレス端末を新設する等、新たなサービスを充実させ、女性や新規のお客さまの開拓を図った。



■登録第2988号鈴木詔子選手が殉職

平成25年11月2日、ボートレース下関において、登録第2988号鈴木詔子選手（埼玉）がレース前の試運転中に負傷し、病院に救急搬送され治療が施されたが、同日午前11時9分、殉職した。

■場外発売場が開設

平成25年は「ミニポートピア津幡」「ミニポートピア井原」と2つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で56カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
ミニポートピア津幡	桐生	石川県	6月10日	県内初
ミニポートピア井原	児島	岡山県	12月14日	県内初



ミニポートピア津幡

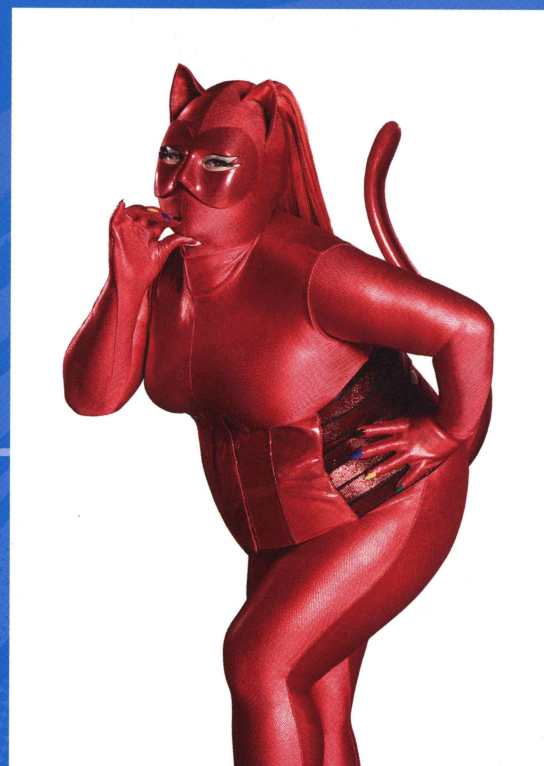


ミニポートピア井原

競走会10年のあゆみ

2014

(平成26年)



当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

■冬季五輪ソチ大会開催、

羽生結弦がフィギュアスケート男子日本初の金メダル

■大阪市阿倍野区に高さ300mで日本一高いビル「あべのハルカス」開業

■宇宙飛行士・若田光一が日本人で初めて

国際宇宙ステーションの船長に就任

■32年続いたフジテレビ系列の平日昼の帯番組

「笑っていいとも!」が放送終了

■消費税が5%から8%にアップ

■富岡製糸場と周辺の養蚕関連史跡が世界文化遺産に登録

■広島市北部の住宅地等で豪雨により大規模土砂災害、死者74人

■全米オープンテニスの男子シングルスで

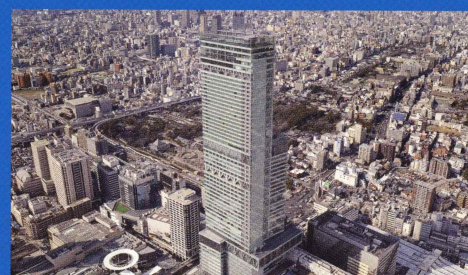
錦織圭が日本人初となる4大会のシングルス決勝に進出

■長野・岐阜県境の御嶽山が噴火、

死者行方不明者63人で戦後最悪の火山災害に

■赤崎勇、天野浩、中村修二が

青色発光ダイオードの発明でノーベル物理学賞受賞



■日本一高いビル「あべのハルカス(300m)」開業



■宇宙飛行士若田光一が日本人初となる
国際宇宙ステーションの船長に就任



■富岡製糸場と周辺の養蚕関連史跡が
世界文化遺産に登録

競走会のトピックス

■津支部で新選手宿舍が完成

津支部の選手宿舍は、昭和44年12月の竣工から42年を経過し老朽化が進んでいたため、平成24年3月より新宿舍の建設が計画され、平成25年3月に起工式を行い、着工となった。用地は、競技棟付近を津市から借り入れた。新宿舍は平成26年1月15日に引き渡しを受け、同月24日に竣工式が行われ、同月29日より使用を開始した。

新宿舍の規模は、敷地面積1,870.52㎡、建築面積1,322.72㎡、延床面積2,726.11㎡で、鉄筋コンクリート造りの3階建てであった。1階には、食堂、監督室、大・小の浴室及びサウナ、エントランスホール、喫煙室、洗濯室等を設置。2階と3階は、選手の居室エリアとした。選手の居室は20室あり、室内には共有スペースと3つに分かれた個人スペースを設けた。また、これまで、競技棟から選手宿舍までバスでの移動となっていたが、新宿舍完成により、徒歩で移動できるようになった。



■選手応募資格を改正 一身長・体重基準の緩和等一

養成と訓練の充実、及び競走の公正安全を図るべく、選手、審判員及び検査員養成訓練規程の一部改正について、第10回理事会(平成25年10月18日開催)において承認・可決された後、国土交通大臣の認可(同年11月6日付国海総第310号)を受けた。今回の改正は少子化が進む中、応募者数の減少に歯止めをかけ、さらなる有資質者を確保すべく、今まで応募資格のなかった者に門戸を開くため、身体基準を緩和したことをはじめ、特別選抜入学試験の受験回数に制限を設けたこと、入学試験種目の柔軟な変更を可能とする見直しを行ったほか、競走の公正安全確保に関する見直しを行った。なお、同規程の一部改正は、第117期募集活動から適用された。

主な改正点は以下のとおり。

(1) 今まで応募資格のなかった者に門戸を開き、さらなる有資質者を確保するため、「身体測定」の検査項目のうち、身長、体重の基準を緩和する改正を行った。

*身長:172cm以下⇒175cm以下 体重:男子47kg以上55kg以下⇒男子47kg以上57kg以下

(2) 特別選抜入学試験において複数回以上不合格となっている応募者の受験回数を制限する改正を行った。

*受験回数を1回のみに制限

(3) 競走の公正安全を確保するため、モーターボート競走事業からの暴力団等の排除に対応し、応募者の資格を有しない者及び養成を取りやめる者に、反社会的勢力に関係する者等、競走の公正を害するおそれのある者を追加する改正を行った。

(4) 入学試験種目の柔軟な変更を可能にすることで、時代に応じたより効果的な試験を行えるようにするため、「種目」を削除する改正を行った。

■平成25年度のスタート事故率が0.273に ―平成2年度の記録を塗り替える新記録を達成―

平成25年度のスタート事故率は0.273となり、平成2年度に記録した0.283を上回る新記録となった。なお、返還率は1.268%で目標である1.000%を下回することは出来なかった。スタート事故件数で見ると、フライングは1,178件（前年度比103件減）、出遅れは43件（選手責任18件、選手責任外25件、前年度比22件減）であった。

ボートレース場別では、スタート事故率0.30以内を17場が達成した。そのうち返還率1.000%以内を達成したボートレース場は、住之江、琵琶湖、福岡、児島、戸田、下関、大村、津の8場となった。また、スタート無事故連続20日以上を達成したボートレース場は、桐生、戸田、蒲郡、常滑（3度達成）、津（2度達成）、住之江（3度達成）、尼崎（2度達成）、鳴門（2度達成）、徳山、福岡、唐津の11場となった。また、連続スタート無事故記録として、津が26日間、住之江が42日間を達成し、自場記録を更新した。

■SG審判員制度の導入

平成26年4月15日からボートレース唐津で開催されたプレミアムGI第15回マスターズチャンピオンより、SG審判員制度が導入された。当時、全国24のボートレース場において、年間4,400日を超える開催、そして53,000を超えるレースを実施していた中、審判判定は公正なルールのもとに行われ、すべてルールに適合した運用がなされていた。しかしながら、それぞれ24名の審判委員長の判定は、許容される範囲内で若干の差異があるのは否めなかった。そこで、お客さまからの注目度の最も高いSG競走及びプレミアムGI競走について、慎重かつ的確な判定をより前面に押し出して公正さをアピールし、その個人差を解消するため、平成26年3月4日、「SG審判員規程」を制定した。SG審判員は、審判委員長と副審判委員長の2名構成となった。全国の審判委員長の中から、SG審判委員長に清水正一・津支部審判部部长（当時）が、SG副審判委員長に古賀泰三・大村支部審判部部长（当時）が、競走会皆川浩二会長（当時）より任命された。今後、SG審判員は、SG競走及びプレミアムGI競走の審判判定を行うとともに、全国24場で行われている審判判定の統一に向けた業務を行っていく。

■小池保夫専務理事が新会長に就任

皆川浩二会長は、平成26年5月29日をもって退任し、小池保夫・専務理事（当時）が、主務官庁である国土交通省の認可を受けて、同年5月29日より新会長に就任した。

小池新会長は、就任に際し、「平成26年はボートレース業界においては、『変化の年』と位置付けており、SG審判員制度の導入、SG競走等のグレードレースの見直し等がなされております。また、必要があれば様々なことを見直していこうと考えておりますので、いいアイデアがあれば、積極的に検討していきたいと思っております。競技運営面においては、我々の業務は公正・安全なレースを実施しなければなりません。特に人身事故防止、スタート事故防止になお一層の努力を続けていきたいと思っております。」と所信表明した。

■レバースペーサーの導入



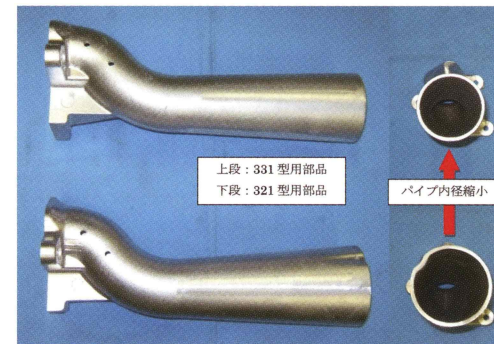
平成26年5月30日のボートレース下関より、レバースペーサーの導入を開始した。これは、平成25年11月2日に発生した鈴木詔子選手の死亡事故を受け、不測の人身事故の発生を未然に防止する対策として、揚降装置等でボートを水面に降ろしてからエンジンを始動しピットまで走行する間に装着するものであった。

■新設グレードレースの開催 ―GIヤングダービー、GIIレディースチャレンジカップ、GIIIイースタンヤング、GIIIウエスタンヤング―

若手選手の登竜門であったGI新鋭王座決定戦競走に替わる新設競走であるGIヤングダービーと、同レースのグレード体系に紐づいたGIIIイースタンヤング、ウエスタンヤングが、それぞれ初開催された。また、女子レースでは、年末のGIクイーンズクライマックスに向けた「女子選手版のチャレンジカップ」であるGIIレディースチャレンジカップも初開催となった。



■出力低減型モーター「ヤマト331型」導入



ボート・モーター等改善研究委員会では、人身事故防止を目的に、レースタイムの抑制を図るため、エンジン出力の低減を含めてモーターの仕様変更について検討を行ってきた。まず圧縮比を下げて全回転域の出力を低減した試作モーターの航走試験を開始し、その後、圧縮比低減に加えてエキゾーストパイプの長さや出口径を変更しながら特定回転域の出力を調整して、最終的に回り足を維持しながら最高速を落とした仕様のモーターで、レースタイムを約2秒抑えることが確認されて最終仕様が決定された。そして、ヤマト発動機株式会社で、出力低減（331型）モーターとして量産体制が整ったことから、平成26年12月12日（前検日）のボートレース常滑以降、各ボートレース場で「ヤマト331型」が順次導入された。

平成26年優秀選手

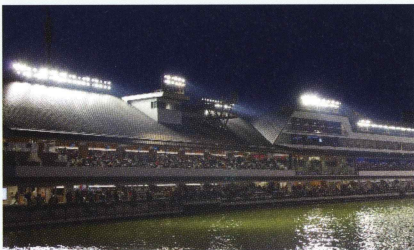


最優秀選手	菊地 孝平（静岡）
最優秀新人選手	江崎 一雄（福岡）
最多賞金獲得選手	菊地 孝平（静岡）
最高勝率選手	瓜生 正義（福岡）
最多勝利選手	田頭 実（福岡）
優秀女子選手	日高 逸子（福岡）
記者大賞	菊地 孝平（静岡）

■ボートレース鳴門が2年間の休催へ

ボートレース鳴門は、撫養港海岸保全施設整備事業が実施されることに伴い、本場施設の改善に取り組むため、平成26年2月23日の開催をもって、2年間の休催期間に入った。なお、外向発売所「エディウィン鳴門」は、当該事業に影響を受けなかったことから、当該期間においても常時、場間場外発売を実施した。平成26年度は、ボートレース宮島で5節30日、ボートレース丸亀で1節6日の計6節36日の代替競走が開催された。

■ボートレース蒲郡で新スタンドがオープン



平成26年4月26日、ボートレース蒲郡はスタンドを一新し、リニューアルオープンした。家族や友人、カップルで楽しめる「エンタテインメント施設」をコンセプトとし、幅広い年代のお客さまが安心してご利用いただけるボートレース場を目指した。新スタンドは海の街・蒲郡をイメージし、ヨットの帆、ウッドデッキなどでマリニリゾートを感じさせるとともに、コンパクト化を図り、省エネルギー化を目指した施設配置と、バリアフリー化、完全分煙化を行い、社会や地域との「関わり」を意識した造りとした。また、このリニューアルオープンに合わせ、キャッシュレス投票も導入された。

■5SG競走メダル表彰制度の導入



BOATRACE振興会は、平成26年5月20日、笹川記念会館において、マスコミ関係者を集め、5SG競走メダル表彰制度に関する記者発表会を実施した。業界の最高峰グレードに位置するSG競走の中にあって、特に歴史と格式の高い5競走（ボートレースオールスター、ボートレースメモリアル、ボートレースダービー、グランプリ、ボートレースクラシック）において、優勝戦の1～3着の選手に対し、その栄誉を称え、メダルを贈呈する制度であった。

記者発表会では、ボートレース福岡で開催される第41回ボートレースオールスターから実施すること、さらに、当該5競走全てで優勝を達成し、5種類のメダルを獲得した選手には、3億円相当のインゴット（金塊）を贈呈することも発表した。また選手会からは、業界の一員として、万が一当該5競走の優勝戦において返還を伴う事象が発生した場合及び3連単が不成立となった場合は、振興会及び日本財団からの副賞金を辞退することで、スタート事故防止にさらなる努力を重ねていく、との説明があった。

■SGの通称名称を使用

平成26年3月開催のSG第49回総理大臣杯より、グレードレースの通称名称を以下のとおり使用することとなった。若年層や女性層に対して、明るく楽しいイメージでより親しみを感じていただくため、漢字表記からアルファベット表記とカタカナ表記とした。

《SG競走》

名 称	通称名称	名 称	通称名称
賞金王決定戦競走	グランプリ	笹川賞競走	ボートレースオールスター
全日本選手権競走	ボートレースダービー	グランドチャンピオン決定戦競走	グランドチャンピオン
モーターボート記念競走	ボートレースメモリアル	オーシャンカップ競走	オーシャンカップ
総理大臣杯競走	ボートレースクラシック	チャレンジカップ競走	チャレンジカップ

《プレミアムGI競走》

名 称	通称名称
名人戦競走	マスターズチャンピオン
女子王座決定戦競走	レディースチャンピオン
ヤングダービー競走	ヤングダービー
賞金女王決定戦競走	クイーンズクライマックス

■広島土砂災害への支援活動を実施

平成26年8月20日未明に広島市で、豪雨による土砂災害が発生し、多くの死者、行方不明者が出るなど、甚大な被害となった。捜索活動・復旧活動が難航する中、多くの被災者が避難所で不安な時を過ごしていたことを受けて、日本財団では現地で支援活動を行った。

《主な支援活動》

- (1) 災害に係る救助犬及びハンドラーの緊急派遣
自衛隊、消防、警察との連携のもと、他の救助犬団体と合同チームを組み、生存者および行方不明者の捜索を行った。
- (2) 広島土砂災害に係るスペシャルニーズ調査及び支援へのマッチング（自主事業として実施）
ボランティアセンターと連携し、保健師・介護福祉士等の専門家を派遣し、個別訪問によるニーズ調査と支援者へのマッチングを担い、地元の支援体制構築をサポートした。
- (3) 広島市土砂災害ボランティア搬送プロジェクト
ボランティアを活動現場まで効率的に運ぶため、専用のマイクロバス3台を約1カ月間運行。安佐北区等のボランティアセンターの受入れ機能を強化した。
- (4) 広島土砂災害被災者への見舞金給付（自主事業として実施）
死亡または行方不明となった方の遺族・親族に対し、1人あたり10万円の見舞金を給付。
- (5) 全国ネットワークによる災害発生・救援時初動対応
震災がつなぐ全国ネットワークから長期で滞在できる現地スタッフを常時5名程度派遣し、広島市災害ボランティア本部等においてニーズマッチング、支援者連絡会の企画、情報収集等の運営サポートを行った。
- (6) 広島土砂災害に係る大学生ボランティア隊派遣
各大学等とのネットワークを活かし、大学生を“Gakuvo長ぐつ隊”として派遣。現地派遣していたスタッフ等と連携し、ニーズに基づいた活動を行った。

■場外発売場が開設

平成26年は「ミニボートピア新潟」「ミニボートピア大和ごせ」「ミニボートピア朝来」「オラレ下関」「ミニボートピア宮崎」と5つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で61カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
ミニボートピア新潟	戸田	新潟県	2月18日	県内3カ所目
ミニボートピア大和ごせ	住之江	奈良県	2月23日	県内初
ミニボートピア朝来	尼崎	兵庫県	4月19日	県内5カ所目
オラレ下関	下関	山口県	8月 9日	県内3カ所目
ミニボートピア宮崎	芦屋	宮崎県	11月15日	県内4カ所目



ミニボートピア新潟



ミニボートピア大和ごせ



ミニボートピア朝来



オラレ下関



ミニボートピア宮崎

競走会10年のあゆみ

2015

(平成27年)



当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

■大相撲1月場所で横綱白鵬が大鵬の記録を破る史上最多の33回目の優勝

■長野新幹線が長野駅から金沢駅まで延伸、
名称も「北陸新幹線」に切り替え

■明治日本の産業革命遺産として軍艦島などが世界文化遺産に登録

■又吉直樹の「火花」が第153回芥川賞受賞、著者は吉本興業所属の芸人

■オバマ、カストロ両首脳会談を受け、
米国とキューバが54年ぶりに国交回復

■ギリシャの経済危機に対しEU(欧州連合)が金融支援、
デフォルト(債務不履行)は回避

■ラグビーワールドカップで日本が南アフリカから歴史的勝利

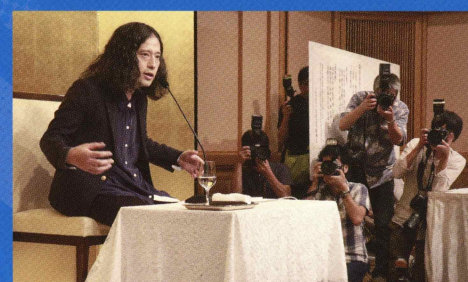
■日本国内の全住民に個人番号を指定する「マイナンバー制度」がスタート

■横浜市内のマンションの杭打ち基礎工事で、
旭化成建材のデータ不正が発覚

■大村智が新たな抗生物質の発見でノーベル医学生理学賞、
梶田隆章がニュートリノの質量観測により物理学賞受賞



■長野新幹線が長野駅から金沢駅まで延伸



■又吉直樹の「火花」が第153回芥川賞受賞



■ラグビーワールドカップで南アフリカから歴史的勝利

競走会のトピックス

■GIIレディースオールスターの新設

平成26年10月27日に開催された第27回ボートレース活性化委員会でとりまとめられた女子グレードレースの新設に関する方向性を受け、その概要について検討された競技運営研究委員会の答申に基づき、選手出場あっせん規程の一部改正について、第18回理事会(平成27年2月19日開催)において承認・可決された後、国土交通大臣の認可(同年3月6日付国海総第481号)を受けた。また、同規程の一部改正に伴う選手出場あっせん規程実施細則、SG競走開催要綱、GI競走開催要綱及びGII競走開催要綱の一部改正についても、平成26年度第6回理事連絡会(平成27年2月19日開催)において承認・可決された。これら諸規程等の一部改正は、平成27年4月1日からの施行とし、平成28年4月1日以降の競走からの適用となった。

《女子グレードレースの新設に係る概要》

選手出場あっせん規程等の一部改正は、平成28年度実施に向けての女子グレードレースの新設に基づくものであり、その他所要の改正を行った。

主な概要は、次のとおり。

(1)新設の理由

年末のプレミアムGIクイーンズクライマックス(賞金女王決定戦)を頂点とするグレード体系とし、年間を通した女子レースの盛り上げを図るとともに、新たな話題性を提供することを目的とする。

(2)新設女子グレードレースの概要

- ①名称は「レディースオールスター競走」
- ②グレードは「GII競走」
- ③開催時期は「春ごろ」とし、平成28年度から実施
- ④出場資格は「A1級、A2級及びB1級の女子選手」
- ⑤選出方法は「ファン投票」とし、実施方法は別途検討

■嘱託等の無期労働契約への転換

有期労働契約が繰り返し更新されて通算5年を超えたときは、労働者の申込みにより、期間の定めのない無期労働契約に転換できるとする改正労働契約法が平成24年8月10日に公布され、平成25年4月1日に施行された。この法改正に伴い、平成25年4月1日以後に開始する有期労働契約の通算5年を待つことなく、平成27年4月1日に嘱託就業規則を一部改正し、嘱託の有期労働契約を無期労働契約(定年制)に転換した。また、平成27年3月17日に雇員(パート)就業規則及び臨時雇員(アルバイト)就業規則を制定し、在職する臨時雇員の職制を嘱託、雇員又は臨時雇員に区分するとともに、雇員については、嘱託と同様に有期労働契約を無期労働契約に転換した。

■スタート事故防止強化運動を実施 ―ゴールデンウィーク、お盆、正月―

スタート事故の発生状況を分析した結果、選手の地元ボートレース場での事故が多い傾向にあったことから、平成27年度の新しい取組みとして、スタート事故防止強化運動を、特に多くの選手が地元ボートレース場に出場するゴールデンウィーク競走やお盆競走、年末年始競走に限定して実施した。

スタート事故防止強化運動の主な内容としては、各ボートレース場独自のスタート事故防止に関する指導方法を、全国のボートレース場に発信して指導方法の参考とすることや、お盆競走期間に作成したスタート事故防止喚起のうちわ等のポップツールを作成することなどがあり、過去にない強化運動となった。結果として、同強化運動が、全ボートレース場で終了した平成28年1月24日時点でのスタート事故率は0.286と、前年度同時期の0.308から0.022ポイント減少することができた。また、それぞれに設定した表彰基準を達成したボートレース場には、競走会本部業務部業務課から表彰を行った。

■全国各地の大学においてボートレースセミナーを実施



平成27年7月10日、日本女子体育大学（東京都世田谷区）にて開催されたキャリア支援プログラム「キャリア・カフェ」に、登録第4781号西館果里選手（東京）と登録第4784号向井田真紀選手（広島）が参加した。このキャリア支援プログラムへの参加は、選手会の山崎昭生理事より同大学の影山陽子准教授の紹介があって実現したもので、進路を考える学生たちに転職経験がある西館果里選手と向井田真紀選手の経験をもとにキャリア形成について、また、ボートレーサーという職業について等を伝える企画であった。当日は同大学の学生15名へ向けて、選手がキャリアを考えていくうえでの選択肢のひとつとして、ボートレーサーという職業を紹介するとともに、プロアスリートとしての生き方を語った。また、競走会企画部広報課では、平成27年6月1日、帝京大学経済学部経営学科スポーツ経営コースの学生・教授及びOB・OG約120名が集う「2015年度第1回スポーツマネジメント研究会」（会長：帝京大学経済学部経営学科 谷崎敦彦教授）において、「公営競技のしくみと広報戦略」と題してスポーツマネジメントを学ぶ学生たちに「公営競技の意義」「ボートレースとボートレーサー」「ボートレースの広報戦略」をテーマにする講演が行われ、ボートレース事業の仕組み、ボートレース収益金による社会貢献に関する活動等を知っていただく機会となった。学生たちは終始、熱心に耳を傾け、多くの質問が飛び交った。その他、東京海洋大学、神奈川大学、徳山大学においてもボートレースセミナーが実施された。

■レスキュー講習会を実施



全国のボートレース場に勤務するレスキュー艇要員を対象に、さらなる操船技術の向上と救助体制の充実を目的として、平成27年度レスキュー講習会を5地区・5場（ボートレース桐生・ボートレース浜名湖・ボートレース尼崎・ボートレース宮島・ボートレース若松）において実施した。この講習会は、主にボートレース場に勤務するレスキュー艇要員3名以上と、審判員または検査員の登録者1名以上の参加を得て、実施した。採点形式による救助実技審査では、大村支部、浜名湖支部、児島支部、徳山支部、多摩川支部が厳正な審査の結果、各地区において1位となった。

《講習課目》

- ①業界の一般情勢・人身事故の傾向について
- ②レスキュー操船時の各種確認事項について
- ③救助時の注意事項について
- ④レスキュー艇操船時のVTR検証・指導について
- ⑤救助実技

■男子の最低体重基準値を51.0kgへ

ボートレーサーの最低体重については、昭和63年11月から「男子選手50.0kg、女子選手45.0kg」を基準値とした最低体重制度が導入され、その後、女子選手の技量向上等に伴い、5.0kgの基準値の差によるハンデ面の見直しが必要となったことから、平成15年5月より女子選手の基準値を2.0kg引き上げ、「男子選手50.0kg、女子選手47.0kg」として、競走が行われてきた。他のスポーツ経験において優秀な成績を残し、ボートレーサーとなった者も増加していた中、他のスポーツで活躍した選手が減量により、その身体能力を十分に活かしきれていないことや健康維持等が危惧されたことから、一般成人男性との体重差が大きい男子選手の基準値の引き上げが必要な状況となっていた。そこで、ボートレース業界の各団体の代表者によって構成される競技運営研究委員会では、平成15年に基準値の男女差を2.0kg縮小した経緯も

踏まえ、選手の体重の実状をもとに、男子選手の基準値の引き上げについて種々検討された。

主な変更理由は以下のとおり。

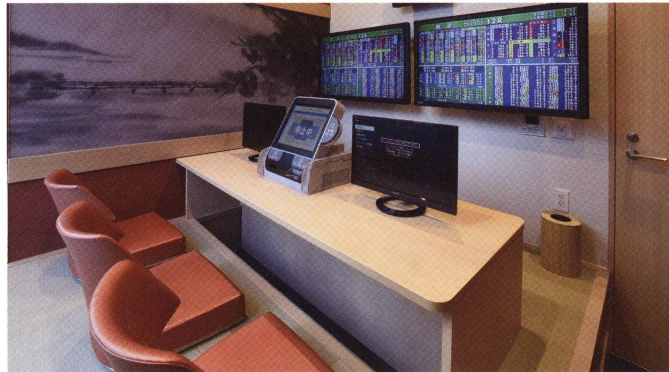
- 1.現在の選手の平均体重は、男子が約54kg、女子が約48kgとなっており、特に男子選手は平均体重と基準値との差が大きい。
- 2.厚生労働省の統計データ（平成24年）では、日本人男性の平均体重（18歳）は約61kg、同様に女性の平均体重（同）は約51kgとなっており（男女ともに加齢とともにさらに平均体重は増加）、統計データと男子選手平均体重との差が大きい。なお、平成26年12月より出力低減モーターを順次導入しており、今後、実戦での体重差による影響も考えられること、男子選手の約9割が体重51kg以上である現状で、少数とはいえ重量調整負担増となる男子選手がいること等からも、基準値の大幅な変更は行わず、男子選手の基準値を1.0kg引き上げることとした。「選手の最低体重に関する重量調整要領」を下記のとおり改正することで答申書をまとめ、平成26年度第8回理事連絡会（平成27年2月19日開催）で了承された。

◎最低体重基準値：男子選手 50.0kg ⇒ 51.0kg（1.0kg増） 女子選手47.0kg（現行どおり） 男女差3.0kg ⇒ 4.0kg

◎適用開始：平成27年11月1日以降を初日とする競走から適用する

■競走会運営型ボートレースチケットショップ「ミニボートピア栄」がオープン

競走会運営型のボートレースチケットショップ「ミニボートピア栄」が、平成27年12月24日、ボートレース業界初の会員制場外舟券発売場としてオープン。ボートレース蒲郡、ボートレース常滑の全レースをはじめ、モーニングレースからナイターレースまで、一日最大8場96レースを発売した。

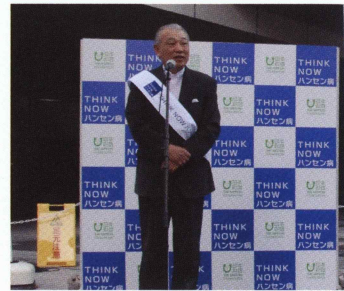


平成27年優秀選手



最優秀選手	山崎 智也（群馬）
最優秀新人選手	村上 遼（長崎）
最多賞金獲得選手	山崎 智也（群馬）
最高勝率選手	峰 竜太（佐賀）
最多勝利選手	峰 竜太（佐賀）
優秀女子選手	寺田 千恵（岡山）
記者大賞	山崎 智也（群馬）

■「THINK NOW ハンセン病」街頭キャンペーンを実施



日本財団では、ハンセン病の制圧及び回復者に対する支援活動に長年取り組んでおり、平成27年1月27日には、10回目となるハンセン病の差別撤廃を求めるグローバル・アピールを東京で発表した。この活動に合わせ、ハンセン病を知らない方々に関心を持っていただくために、「世界ハンセン病の日」(1月最終日曜日)にあたる平成27年1月25日、日本財団をはじめボートレース関係団体は、東京都内6カ所で「THINK NOW ハンセン病」街頭キャンペーンを実施した。同キャンペーンのメイン会場となった秋葉原駅のサボニウス広場では、12時30分より、オープニングイベントとして日本財団の笹川陽平会長、安倍昭恵首相夫人、ハンセン病回復者の森元美代治氏、平沢保治氏が挨拶し、ハンセン病に対する正しい理解を訴えた。そのほか、渋谷のスペイン坂、お台場のヴィーナスフォート、東京スカイツリー、池袋駅、原宿駅(チラシ配布のみ)にて、「THINK NOW ハンセン病」の一般の方々による動画撮影、メッセージの寄せ書き、著名人による動画放映、チラシの配布が行われた。また、日本財団では、グローバル・アピールのサイドイベントとして、上記街頭キャンペーンのほか、さまざまな団体と連携し、多種多様なイベントを各地で開催。同年1月22日には、早稲田大学にて「ハンセン病でつながる若者と世界 合同シンポジウム」を、同月24日から28日には、丸の内オアゾにて写真展「ハンセン病を考えることは人間を考えること」を、同月30日には、日本財団ビルにて朗読・講演会「文芸から見るハンセン病～作家北条民雄について語る～」を開催する等、1人でも多くの方にハンセン病への理解を深め、偏見や差別について考えていただく機会を創出した。

■ボートレース大村で新スタンドがオープン



ボートレース大村は、平成25年3月から工期2年1カ月を経て、平成27年3月28日、新スタンドをオープンした。メインスタンドのデザインは、帆をなびかせた新たなボートレースへと出航する帆船をイメージし、コンパクトで効率的な施設として生まれ変わった。メインスタンド1階には、軽食を楽しみながらゆっくりレース観戦ができる「ビューイングカフェ」や長崎特産の食事が楽しめる「フードコート」があり、5店舗が出店。また、プロジェクションマッピングを活用したレース体験、さまざまなお客さまが楽しめる「発祥の地記念館」、玩具やアニメDVDなどがありお子さま連れのお客さまにご利用いただける「キッズルーム」、トイレの設計で著名な小林純子氏の手により生み出されたユニバーサルデザインの化粧室には、パウダーコーナーや授乳ブースも設置された。メインスタンド2階の室外には、レースの臨場感や迫力を体感できる「ビューイングデッキ」、室内には、女性同士やカップル限定の無料席「レディースカップルシート」、シングル・ペア・グループ各席を用意した「特別観覧席」等、多様な席を設けた。

■ナイトレース発売時間の拡大

ー ナイター締切時間5分繰下げ、モーニング開始時間6分繰上げー

第28回ボートレース活性化委員会(2月23日開催)において、7月～9月の間を試行期間として、ナイトレースの本場最終締切時間を5分繰り下げ、20時45分とするように取り組んでいること、平成27年4月よりモーニングレースのスタート展示開始時刻を6分繰り上げることが全施協より報告された。なお、ナイトレースについては平成28年度上半期にも、締切時間を5分繰り下げて試行実施され、平成29年度より年間を通して最終締切時刻を20時45分として実施されている。

■歴代最高齢ボートレーサーの加藤峻二選手が引退



昭和34年のデビュー以来、常に第一線で活躍してきた登録第1485号加藤峻二選手(埼玉)が、平成27年5月7日をもって引退した。加藤選手は現役生活56年間でSG競走を4回制覇。平成15年にはSG第30回笹川賞競走(現在のボートレースオールスター)に61歳4カ月で出場(当時のSG最年長出場記録)し、優出を果たす快挙を成し遂げた(SG最年長優出記録)。翌年の平成16年には業界史上4人目となる3,000勝を達成。平成25年には地元のボートレース戸田で最高齢優勝記録(71歳2カ月)を打ち立てた。同日、笹川記念会館で行われた引退記者会見で加藤選手は、引退のきっかけとして、前日まで出場していた地元のボートレース戸田でのフライングを挙げ、「突然のフライングで、この気持ちではとてもレースができないと感じ、引退を決意しました」と説明した。また、ボートレーサー人生での誇りは「自分の中では多く出走しているというのが最大の誇り」と語った。「ありがとうございましたという言葉しかない」と、声援を送り続けてくれたファンに感謝の言葉を述べ、笑顔で会見を締めくくった。会見の最後には落語家の立川談春さんが登場し、加藤選手に「プロは同業者に影響を与えるけど、それ以上に異業種の人にも影響を与えた」という賛辞とともに花束を贈り、「長い間お疲れ様でした」とねぎらった。なお、引退シリーズとなったボートレース戸田で行われた一般戦(平成27年5月1日から6日)では、初日こそフライングであったが、1節間の成績は「F・2・3・3・1・2・2・1」と上位着を並べ、最後の最後までファンを魅了した。

■場外発売場が開設

平成27年は「ミニボートピア富士おやま」「ボートレースチケットショップミニボートピア名張」「ボートレースチケットショップ長崎佐々」「ボートレースチケットショップ旭川」「ボートレースチケットショップ西予」「ボートレースチケットショップ鹿島」「ボートレースチケットショップミニボートピア栄」と7つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で68カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
ミニボートピア富士おやま	浜名湖	静岡県	3月24日	県内初
BTSミニボートピア名張	津	三重県	8月11日	県内初
BTS長崎佐々	大村	長崎県	8月23日	県内6カ所目
BTS旭川	戸田	北海道	9月19日	道内2カ所目 ※1カ所目BP釧路は平成11年廃止
BTS西予	丸亀	愛媛県	10月26日	県内2カ所目
BTS鹿島	大村	佐賀県	11月10日	県内5カ所目
BTSミニボートピア栄	常滑	愛知県	12月24日	県内3カ所目

※BTSはボートレースチケットショップの略称



ミニボートピア富士おやま



BTSミニボートピア名張



BTS長崎佐々



BTS旭川



BTS西予



BTS鹿島

競走会10年のあゆみ

2016

(平成28年)



当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

- 大相撲1月場所で大関琴奨菊が初優勝、10年ぶりの日本人力士の優勝
- 北海道新幹線(新青森駅—新函館北斗駅間)が開業
- 熊本を中心に巨大地震発生、
気象庁で初めて震度7を2回観測、熊本城も倒壊
- 井山裕太九段が史上初めて囲碁の全棋戦タイトルを独占する7冠達成
- 小池百合子、女性初の東京都知事誕生
- 夏季五輪リオデジャネイロ大会開催、
レスリング女子で伊調馨が個人種目では五輪史上初の4連覇。
国民栄誉賞も受賞
- 大隅良典が細胞内におけるオートファジーの解明で
ノーベル医学生理学賞受賞
- 衆院本会議で統合型リゾート(IR)推進法が成立、
カジノ法制化への道開ける
- アイドルグループのSMAPが28年間の活動に終止符を打ち解散
- ピコ太郎「PPAP」が世界的なヒットに



■小池百合子、女性初の東京都知事誕生



■大隅良典がノーベル医学生理学賞受賞



■ピコ太郎「PPAP」が世界的なヒットに

競走会のトピックス

■ファン感謝3Days「BOAT RACEバトルトーナメント」を開催



さらなる売上向上を目指すうえで、ボートレース場周辺半径30km圏内の新規顧客の掘り起こしと、既存ファンへの日頃の感謝を表すことを目的に、平成28年1月9日から11日の3日間、「ファン感謝3Days」を設定し、業界初の3日間のトーナメント戦として企画された「BOAT RACEバトルトーナメント」をボートレース平和島で開催するとともに、全ボートレース場及び場外発売場にてイベントを実施した。3日間にわたり白熱した「BOAT RACEバトルトーナメント」のファイナルでは、単騎のダッシュからまくり差した登録第4611号今井美亜選手(福井)が初代チャンピオンの座を獲得した。

《BOAT RACEバトルトーナメント概要》

新規・既存ファン共々、分かりやすく、かつ興味を持っていただくことを目的として、レース編成は、3日間の勝ち抜き戦とした。参加選手は、A1、A2級選手48名で、勝ち上がりの方式は、初日のトーナメント予選では1～3着までが2日目のセミファイナルへ進出。セミファイナルでは1着選手の4名がファイナル進出、残り2名枠はセミファイナルの2着選手の中から、及び敗者復活戦の中から1名ずつをそれぞれ得点順で進出とし、同点の場合は抽選にてファイナルへ進出できる形とした。

■徳山支部で新選手宿舍が完成

徳山支部選手宿舍は、昭和44年の竣工から44年を経過して老朽化が進行していたため、平成26年8月より新宿舍の建設が計画され、平成27年3月に起工式を行い着工となった。用地はレース場駐車場の競技棟付近を周南市から借り入れた。新宿舍は、平成28年2月20日に引き渡しを受け、同月24日に竣工式が行われ、同月29日より使用を開始した。

新選手宿舍の規模は、敷地面積1,663.24㎡、建築面積987.20㎡、延床面積2,361.37㎡で鉄筋コンクリート造りの3階建てであった。1階には、食堂、監督室、大・小の浴室及びサウナ、エントランスホール、喫煙室、洗濯室のほか、多目的に利用できるよう、仕切りにより応接室を分離できる大会議室も設けた。2階と3階は選手の居室エリアとした。選手の居室は20室あり、室内には共有スペースと3つに分かれた個人スペースを設置。また、これまでは競技棟から選手宿舍までバスでの移動となっていたが、新宿舍完成により、徒歩で移動できるようになった。



■GⅢマスターズリーグ戦の新設、女子選手の産休・育休特例の制定、
B1級の級別決定基準の見直しを実施

第102回競技運営研究委員会(平成27年12月10日開催)において検討され、マスターズ世代の選手を対象としたレースの魅力向上、女子選手の産休・育休後の円滑なレース復帰、B1級の定率割れに伴う諸問題の解消を目的とする答申がなされた。その答申に基づき、選手出場あっせん規程の一部改正については、第23回理事会(平成28年2月25日開催)において承認・可決された後、国土交通大臣の認可を受けた。また、GI競走開催要綱、GⅢ競走開催要綱選手出場あっせん規程実施細則及び選手級別決定基準の一部改正については、平成27年度第7回理事連絡会(平成28年2月25日開催)において承認・可決された。

《GⅢ競走の新設に係る概要》

(1)新設の理由

マスターズ世代の選手を対象とするレースは、プレミアムGI「マスターズチャンピオン(名人戦)」のほか、一般競走の「匠シリーズ」を年間10節開催しているが、上記レースには関連性が図られておらず、お客さまに魅力を訴求できていない現状にあることから、このマスターズ世代の選手を対象としたレースのグレード体系を創出し、個性ある同世代の活躍の場を広げ、お客さまに魅力あるレースを提供するため。

(2)レースの概要

①グレードは「GⅢ競走」

②名称は「マスターズリーグ戦競走」

③開催回数は競走場ごと「年1回」を限度とし、平成29年度から実施(当面は、全国で年間10節程度予定)

④出場資格は「満45歳以上の選手(当該年の4月1日現在)」

⑤マスターズリーグ戦競走の優勝者は、マスターズチャンピオン(名人戦)の優先出場者とするとともに、マスターズチャンピオン(名人戦)の出場資格の年令も「満45歳以上の選手(当該年の4月1日現在)」に統一する。

《女子選手の産休・育休特例の制定に係る概要》

(1)制定の理由 ①一般社会において女性の躍進が顕著にみられる現状、円滑な産休・育休の取得及びその後の復帰を支援することは社会的な要請である。②現状、妊娠・出産・育児により長期間レースに参加しなかった場合、復帰後の級別はB2級となり、多くのレースを走ることができない状況から、復帰を待っていたお客さまの要望を満たすことができず、また、選手自身もレース勘を取り戻すのに時間がかかっている。以上のことから、長期間レースを休んでいた女子選手に対し、復帰後、当該選手が産休を開始した時の級別に応じた出場機会を付与する特例を設けることにより、安心して産休・育休を取得し、レース復帰ができるような環境を整えるため。

(2)特例の概要 ①名称は「産休・育休特例」②内容は「産前・産後や育児等によるレースの不出場開始日における級別がA1、A2、B1級であったが、レース復帰において降級している者が特例を申請し、これを競走会が認めた場合に、不出場開始日の級別と同等のあっせん日数を6カ月間適用する。」③適用要件は、不出場開始日の級が「A1級、A2級又はB1級」で「不出場期間が90日以上1年6カ月未満」の女子選手④手続方法は、現在運用されている公傷特例の制度に準ずる。

《B1級の級別決定基準の見直しに係る概要》

(1)見直しの理由 ①選手級別決定において、B1級の定率50%割れが続き、これによりB1級となる選手数が減少し、その分、B2級が増加している状況にあり、あっせん面等に支障が生じていること。②登録6年未満の若手選手がB1級の基準をクリアできない者が多い状況にあり、実戦経験の機会が少なく、技量向上が図りづらく、スター選手の育成に影響を与えていること。

(2)見直しの概要

B1級昇級への壁となっている2連対率・3連対率を削除し、A1級・A2級を除く勝率上位者による定率50%を確保するよう見直し、B1級の適正な選手数を確保する。ただし、選手のモチベーション低下を防ぐためにも、B1級となる最低勝率2.00以上を設定することとする。それにより、円滑で効率的なあっせんを行うとともに、若手選手の育成、各種事故防止、審査対象期間期末の不参加、出場取消、途中帰郷等の防止を図ることを目的とする。

■やまと学校にて操縦訓練中に死亡事故

平成28年5月19日、やまと学校において、第119期選手養成の水城佑理訓練生(九州支局推薦)が操縦訓練の模擬レースにおいて負傷し、病院に救急搬送され治療が施されたが、同日午後6時22分、死亡した。

■潮田政明専務理事が新会長に就任

小池保夫会長の逝去に伴い、平成28年9月9日開催の第28回理事会において、新たに会長、専務理事及び常務理事が選定され、国土交通大臣の認可(平成28年9月13日付け)を経て、各役員が就退任の運びとなった。新会長には、潮田政明専務理事(当時)が就任した。

潮田新会長は、就任に際し「これまでボートレース業界を大きく育てていただいた諸先輩方を見習い、この重責を全うすべく精励してまいります。平成27年度、ボートレース業界の売上は平成19年度以来8年ぶりに1兆円を超え、平成28年度はさらなる飛躍の年と位置付けて、モーターボート競走の公正かつ円滑な実施はもちろんのこと、魅力ある競走をお客さまに提供するための諸施策の推進について、関係団体と協力し全力で取り組んでいきたい。」と所信表明した。

■スター候補制度の見直し スター候補の名称、選出基準の変更ー

平成28年11月15日に開催された、第17回スター選手育成実行部会において、スター候補の名称と選出基準の変更が決定した。これまで、4つの区分であったスター候補を、2つの区分としたうえで、「全国スター候補」を「トップルーキー」に、「地元スター候補」を「フレッシュルーキー」と、それぞれ名称を新たにした。また、選出基準は、トップルーキーについては「登録6年以内かつA2級以上、各地区3名以内」、フレッシュルーキーについては「登録5年以内の各レース場における推薦選手(人格、技量、期待度等総合的に勘案)各場2名以内」と変更された。

平成28年優秀選手



最優秀選手	瓜生 正義(福岡)
最優秀新人選手	山田 祐也(徳島)
最多賞金獲得選手	瓜生 正義(福岡)
最高勝率選手	峰 竜太(佐賀)
最多勝利選手	渡辺 浩司(福岡)
優秀女子選手	松本 晶恵(群馬)
記者大賞	瓜生 正義(福岡)
特別賞	石野 貴之(大阪)

■平成27年度売上が8年ぶりに1兆円を超える

平成27年度の売上は前年度比4.7%増の1兆422億8,240万9,300円となり、平成19年度(1兆75億円)以来、8年ぶりに1兆円超えを達成した。また、平成27年度の一日平均売上は、同4.6%増の2億3,677万4,741円となった。なお、売上は3年連続で、一日平均売上は4年連続で前年比増となった。

■発売時間の拡大 ― 場外発売・電話投票の発売締切時間を本場締切1分前へー

平成28年4月1日より、場外発売・電話投票の発売締切時刻が、これまでの本場締切2分前から1分前へと、全国で一斉に変更された。これにより、本場以外で舟券を購入するお客さまの検討時間がさらに確保されるとともに、レース開始時間までの待ち時間が短縮されることで、利便性が向上し、より本場に近い条件でボートレースを楽しむことができるようになった。

■熊本地震への支援活動を実施

平成28年4月14日以降に相次いで発生した、熊本県を震源とする一連の大地震は、熊本市内を中心に、九州全域に大きな被害をもたらした。この震災に際し、日本財団による支援策や各ボートレース場のレース参加選手による寄付や募金活動が実施された。

《日本財団の支援策(概要)》

- (1) 緊急対策支援: 3億円
 - ① 要援護者(障害者や高齢者、乳幼児等)に対するニーズ調査・支援
 - ② 簡易トイレの配備(500台)
- (2) 100万円を上限としたNPO、ボランティア活動支援: 10億円
- (3) 家屋損壊(全半壊)等に対する見舞金の支給: 20億円
 - ① 一世帯20万円②死者/行方不明者の遺族・親族に対する弔慰金、見舞金一人10万円
- (4) 住宅・事業再建資金のための融資制度の創設: 30億円
- (5) 熊本城再建のための支援: 30億円
- (6) 「日本財団災害復興支援センター 熊本本部」の開設

■ボートレース鳴門で新スタンドがオープン ― レースも2年ぶりに再開ー



平成28年4月28日、ボートレース鳴門は、平成26年3月からの2年間の休催を経て、新スタンドをオープンした。小鳴門海峡を背景とした豊かな景観との調和を図り、高さを抑えたコンパクトな造りとなった。

新スタンドは、平成27年1月に着工、工期1年3カ月を経て、リニューアルされた。メインスタンド1階にはフードコート、売店、キッズルームが設置され、お子さま連れのお客さまも安心して過ごすことができる環境が整った。また、有料指定席では、タブレット投票端末の貸し出しを行ったり、在席キャッシュレス投票端末を設置する等、利便性を向上させた。屋外テラスでは、風光明媚な小鳴門海峡の景色を臨みながら、臨場感溢れるレース観戦できるようになった。

■ボートレース江戸川の外向発売所「BOAT RACE365」にて最大12場併売を開始

平成28年7月16日より、ボートレース江戸川の外向発売所「BOAT RACE365」及び場内指定席(GOLD・MIYABI)では、全国初となる最大で12カ所のボートレース場の舟券が購入できる「12場併売」を開始した。従来の最大8場併売から最大12場併売に拡大したことで、同施設では、ボートレース江戸川が開催する全レースをはじめ、全国で開催されているモーニングレースからナイターレースまで日本で最も多くのボートレース場の舟券が購入できる、まさに「ボートレースのデパート」として生まれ変わった。

■ボートレース若松で東スタンドがリニューアルオープン



ボートレース若松では、平成27年3月から1年7カ月の改修を経て、平成28年10月1日、東スタンドがリニューアルオープンした。建築後35年の経過により老朽化していた同スタンドの耐震化を図るとともに、来場促進に向けて30億円を投じた施設改修であった。

同スタンドの改修は、「女性の快適性」「親子のふれあい」「食の魅力」の3つのキーワードをテーマに行われ、多様な層のファンが楽しめる施設へと生まれ変わった。同スタンドの1階には、女性専用の「リラックススペース」のほか、子どものあそび場としての「わかわくらんど」や「フードコート」等を整備した。

■場外発売場が開設

平成28年は「ボートレースチケットショップミニポートピア京丹後」「ボートレースチケットショップ松浦」「ボートレースチケットショップオラレ刈羽」「ボートレースチケットショップオラレ田布施」と4つの場外発売場が開設。場外発売場は全国で72カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
BTSミニポートピア京丹後	尼崎	京都府	3月26日	府内2カ所目
BTS松浦	大村	長崎県	7月23日	県内7カ所目
BTSオラレ刈羽	平和島	新潟県	8月23日	県内4カ所目
BTSオラレ田布施	徳山	山口県	12月10日	県内4カ所目

※BTSはボートレースチケットショップの略称



BTSミニポートピア京丹後



BTS松浦



BTSオラレ刈羽



BTSオラレ田布施

競走会10年のあゆみ

2017

(平成29年)

当時のニュース(※文中の人物名などは敬称略)

■ドナルド・トランプが第45代米大統領に就任

■大相撲1月場所で初優勝の大関稀勢の里が19年ぶりの日本人横綱に昇進

■月末の金曜日は15時で仕事を切り上げよう「プレミアムフライデー」始まる

■フィギュアスケート女子浅田真央が現役引退

■上野動物園で5年ぶりにジャイアントパンダ(雌のシャンシャン)誕生

■中学生で将棋プロデビューの藤井聡太四段が負け知らずで29連勝

■神宿る島、宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録

■北朝鮮が大陸間弾道ミサイル(ICBM)を相次いで発射、

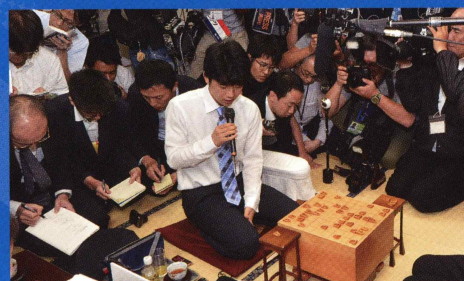
Jアラートも発令されるなど緊張高まる

■陸上100mの桐生祥秀が日本人で初めて10秒を切る9秒98を記録

■SNSへの写真投稿が日常化し、「インスタ映え」を競う風潮広がる



■ドナルド・トランプ、アメリカ大統領に就任



■藤井聡太四段が30年ぶりに最多連勝記録を更新



■桐生祥秀選手が日本人初の9秒台となる9秒98を記録

競走会のトピックス

■番組編成基本方針の見直し —より自由度の高い番組編成へ—

平成28年12月13日に、平成28年度番組編成業務検討会が開催され、(1)1日2回走り選手の枠番の「1-5」「2-5」「2-6」の組み合わせを可とする、(2)GⅢ競走のうち、イースタンヤング・ウエスタンヤング・賞金女王シリーズ戦については、選出基準に基づいて選出される競走であることから、節間を通じて枠番の公平性やバランスを考慮する、(3)原則4~6枠を割り振る選手のうち、「新規登録日から3年未満のB2級選手」という部分について、「新規登録日から1年未満のB2級選手」に改める、以上の事項について了承され、平成29年1月1日以降を初日とする競走から適用した。

《番組編成基本方針》

番組編成の基本方針は、売上を考えつつ、魅力あるレース(番組)を提供するため、番組編成委員の創意工夫が活かされる編成とする。編成においては、1日2回走り選手の枠番の組み合わせ、枠番の公平性やバランスに捉われないことで統一し、具体的には以下のとおりとする。

- (1)1日2回走り選手の枠番の組み合わせは、番組編成要領に定める「賞典レースの選出と枠順」によって選出されたレースの出場者を除き、「1-6」を原則として割り振らない。
- (2)節間を通して枠番の公平性やバランスを斟酌しない。ただし、GⅡ競走以上及びGⅢイースタンヤング競走・ウエスタンヤング競走・賞金女王シリーズ戦競走の予選期間は除く。
- (3)次に該当する選手は、原則として「4枠~6枠」を割り振る。

- ・出走調整希望者
 - ・選手責任によるスタート事故者(概定版の配布後に発生した者は除く)
 - ・外コース希望者
 - ・新規登録日から1年未満のB2級選手
- ※概定版の配布後に番組を変更する場合は例外とする。

この基本方針は、平成29年1月1日以降を初日とする競走から適用した。

■ボートレース宮島でGⅡ第1回レディースオールスターを開催

平成28年度より新設されたGⅡ第1回レディースオールスターが、平成29年2月28日から3月5日まで、ボートレース宮島において開催された。A1級・A2級・B1級の女子選手から、ファン投票(平成28年12月1日から31日まで実施)によって選出された52名で争われた。優勝戦は、節間オール2連対の勝率トップで駒を進めた1号艇・登録第3232号山川美由紀選手(香川)が1コースから進入、トップスタートを決め、1周1マークで逃げ切り、初代覇者に輝いた。

なお、開催前には、同競走出場選手の発表当日であった平成29年1月17日に、BOATRACE振興会により、記者発表会が開催され、同競走出場予定の3選手が参加したほか、スペシャルゲストとして、ロンドン・リオデジャネイロオリンピック女子重量挙げメダリストの三宅宏実選手が出席した。



■ 桐生支部で新選手宿舎が完成

桐生支部選手宿舎は、昭和41年10月の竣工から48年を経過し老朽化が進んでいたため、平成27年5月より新宿舎の建設が計画され、平成28年3月に起工式を行い着工となった。新宿舎は平成29年2月28日に引き渡しを受け、同年3月23日に竣工式が行われ、同年4月7日より使用を開始した。用地はかつての対岸外向前売場「ミズアム」跡地を関東開発株式会社から借り入れた。

新宿舎の規模は、敷地面積1,809.39㎡、建築面積961.05㎡、延床面積2,324.40㎡で鉄骨造りの3階建てであった。1階には、エントランスホール、監督室、喫煙室、大・小の浴室およびサウナ、洗濯室、食堂、厨房等があり、2階と3階は選手の居室エリアとした。選手の居室は20室あり、室内には共有スペースと3つに分かれた個人スペースを設置。また、これまでは競技棟から選手宿舎までバスでの移動となっていたが、新宿舎完成により、徒歩で移動できるようになった。



■ 養成訓練費用の無償化及び「やまと学校」の名称を「ボートレーサー養成所」へ変更

有資質者の確保を目的として、平成29年4月に入学する第122期選手養成員より、養成訓練にかかる費用（従来は、宿泊費・食費など自己負担費用として月額10万円×12カ月＝年間120万円）を無償化し、ボートレーサー志願者の門戸を広げた。

また、ボートレーサー養成機関「やまと学校」（福岡県柳川市）の名称を、世間一般の学校との差別化を図り「プロボートレーサー養成」に特化した内容を明示するため、平成29年4月より「ボートレーサー養成所」へ名称変更した。

《ボートレーサー養成所の概略》

昭和26年 「琵琶湖国際モーターボート選手・審判員養成所」が開所

昭和31年 「琵琶湖国際モーターボート選手・審判員養成所」が閉所

昭和32年 各地ボートレース場を利用して選手養成を開始

昭和41年 「本栖研修所」（山梨県）が開所

平成13年 「本栖研修所」を閉所し、「やまと競艇学校」（福岡県）へ移転

平成22年 「やまと競艇学校」から「やまと学校」へ名称変更

平成29年 「やまと学校」から「ボートレーサー養成所」へ名称変更

■ 選手養成員入所者数の拡大及び訓練体制の充実 一元選手の実技教官2名体制へ

さらなる有資質者の確保に向けて、従来は1期当たり35名程度であったボートレーサー養成所の入所受け入れ人数を、平成29年4月入所の第122期生より、50名以上に拡大した。また、養成訓練の充実を図るため、元選手の実技教官を2名体制（登録第2833号荘林幸輝選手、登録第3121号占部彰二選手）とし、各選手養成期に対して1名ずつ担当することとなった。

■ 東海支局の事務所を移転

東海支局の事務所であった花車ビル（愛知県名古屋市中区）は、昭和47年に建築されてから築44年が経過しており、旧耐震基準を満たしていないため、大地震があった場合に倒壊の危険性があった。そこで、職員の安全性確保のため、移転先に浜名湖支部を選定し、平成29年4月1日より業務を開始する計画のもと、約2カ月を要して移転を行った。なお、花車ビルの事務所は同ビルのテナント企業に売却し、平成29年6月に引き渡しを完了した。

■ ルーキーシリーズ出場対象選手等の見直し ―オーバーエイジ枠導入―

ルーキーシリーズについては、お客さまや各ボートレース場関係者等から、①出場対象となるA級選手数が少なく、選手層の薄いあっせんとなっている、②スタート事故、転覆及び落水等の各種事故や違反が多発し、レースの魅力を阻害している、③売上が低迷している、といった指摘を受けており、同競走の所期の目的である「若手選手の教育・育成の場」とは言い難い状況となる恐れが懸念された。そこで、同競走の出場対象選手に関しては、レースの質や整備作業への取組み等、若手選手の模範となる、登録6年以上で経験・技量の高いA級選手と一緒に出場させることにより、同競走の所期の目的を果たし、前述の懸念の解消を図ることが望ましいと、第105回競技運営研究委員会（平成28年12月14日開催）において答申され、さらに、平成28年度あっせん事務連絡会議（同年12月13日開催）において了承され、平成29年4月のボートレース宮島の第1戦より、同内容のとおりあっせんを行うこととなった。

1. 出場対象選手

- (1) 当該年1月1日現在で登録6年未満の者
- (2) 当該年1月1日現在で登録6年以上かつ満30歳未満の者のうち、当該競走前検日においてA1級及びA2級の者（1開催あたり原則6名以内とし、SG競走優勝戦出場経験者は除く）

2. あっせん方法

当該競走にあっせん可能な上記（1）のA1級及びA2級選手をまず充当し、当該競走のあっせん依頼人数に対するA1級及びA2級選手の占める割合が30～40％程度となるよう、あっせん可能な上記（2）の選手を充当

（例）あっせん依頼人数45名の場合、（1）のA1級・A2級9名、（2）のA1級・A2級5名であれば、A級の占める割合は約31％

3. その他

年度のシリーズ開催を年次のシリーズ開催に変更。

平成29年優秀選手



最優秀選手	桐生 順平（埼玉）
最優秀新人選手	羽野 直也（福岡）
最多賞金獲得選手	桐生 順平（埼玉）
最高勝率選手	峰 竜太（佐賀）
最多勝利選手	吉川 昭男（滋賀）
優秀女子選手	遠藤 エミ（滋賀）
記者大賞	桐生 順平（埼玉）
特別賞	石野 貴之（大阪）
特別賞	長嶋 万記（静岡）

■ボートレース業界におけるギャンブル等依存症対策

平成28年12月15日に特定複合観光施設区域の整備に関する法律（IR推進法）が成立したが、国会の附帯決議において「IRにおけるカジノにとどまらず、他の公営競技・遊戯等に起因する依存症を含めたギャンブル等依存症対策の抜本的な強化」が盛り込まれた。政府において、IR推進法の成立を契機に、ギャンブル等依存症全般について包括的な対策を推進すべく「ギャンブル等依存症対策推進関係閣僚会議」が設置され、今後、同会議において関係省庁が連携し、政府としての具体的な方針を早急に取りまとめることとなった。

1.主な課題

- (1) 公営競技ごとの相談窓口の設置、明示・周知、依存症対策担当の設置及び依存症に関する従業員教育の実施
- (2) 一元的・専門的に対応できる共通相談窓口の設置
- (3) インターネット投票サイトにおいて、ギャンブル等依存症の注意喚起表示・相談窓口の案内等の実施
- (4) 購入限度額の設定を可能とするシステムの整備
- (5) 場内・場外発売場のATMのキャッシング機能の廃止

2.主な対策

- (1) 電話相談窓口の設置（平成29年6月）、責任者・依存症担当者に対しての研修を実施（平成29年9月）
- (2) 「一般財団法人ギャンブル依存症予防回復支援センター」を設立（平成29年6月）、支援センター内に無料相談コールセンターを開設（平成29年10月）
- (3) インターネット投票サイトに相談窓口の案内を掲載（平成29年6月）、各競走場等のウェブサイトに相談窓口の案内を掲載（平成29年8月）
- (4) 本人申告により、購入限度額の設定を可能とするシステム改修（平成34年度）
- (5) キャッシング機能の廃止またはATMの撤去（平成29年度末）

※（）内は実施時期及び実施予定時期

■ボートレース下関で「海響ドリームナイター」が開幕 ― 全国で6場目、中国地区初―

全国で6場目、中国地区では初となるナイターレースが、平成29年4月1日にボートレース下関で開幕した。ボートレース下関では年間を通じてナイターレースを開催し、平成29年11月21日から26日には初のナイター開催となる「SG第20回チャレンジカップ」「GⅡ第4回レディースチャレンジカップ」が開催された。ボートレース下関では、ナイターレースを全国のファンに親しんでいただけるよう、ナイターレース愛称の一般募集を行ない、全6,935件の応募の中から、「海響ドリームナイター」に決定した。この愛称は海峡の街・下関が響き渡る「海響」と、ボートレース下関のイメージCM「Make a Dream」、およびボートレーサーやお客さまの夢をのせて下関で繰り広げられる潮風香るナイターレースを表現したものであった。

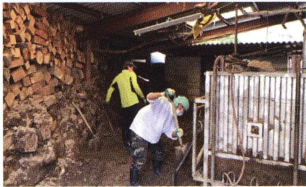


■無料インターネットテレビ局「AbemaTV」でSG競走を生中継



平成29年6月25日15時から17時、無料で楽しめるインターネットテレビ局「AbemaTV」の「AbemaSPECIAL2チャンネル」にて、BOATRACE振興会の提供により、ボートレースの中継番組を放送した。なお、「AbemaTV」にて公営競技の中継番組が放送されるのは初めてであった。本番組では、6月20日から25日にボートレース鳴門で開催したSG第27回グランドチャンピオンの優勝戦の模様を、現地リポートを交えて生中継した。さらに、スタジオではMCにお笑いコンビ・次長課長を迎え、ゲストとして登録第4900号 中田夕貴選手（埼玉）も登場。そのほか、さまざまな出演者が独自の視点から優勝戦のレース予想のプレゼンテーションを繰り広げ、レース解説や舟券予想はもちろん、ボートレースの基礎知識講座など盛りだくさんの内容となった。

■九州北部豪雨災害への支援活動を実施



平成29年7月5日から6日にかけて発生した九州地方における豪雨は、福岡県、大分県を中心に甚大な被害をもたらした。家を失った方も多く、避難所や仮設住宅などでの生活は長期化しており、特に幼い子どもや高齢者、病気や障害のある方への支援が必要となった。また、住宅に流れ込んだ土砂の撤去には多くのボランティアのサポートが求められることとなった。そこで、日本財団は「九州北部豪雨」被災地に対する支援のため募金口座を開設し、寄付を募った。全国から寄せられた寄付金は、以下の支援活動に役立てられた。

(1) NPO・ボランティア活動支援

福岡県、大分県の被災地で、NPOやボランティア団体が緊急支援活動（特別なニーズへの支援や専門性を活かした活動）を行うために必要な経費を支援。

(2) 避難生活環境の改善支援（ポータブルトイレの提供）

避難生活を余儀なくされている被災者の生活環境を改善するため、特に困りごとの多いトイレ事情を解消する、使いやすいポータブルトイレの提供。

(3) 特別な配慮が必要な被災者ニーズの調査・支援

災害関連死を防ぐため、高齢者や障害者、乳幼児や病気を抱えた方々など、特別な配慮を必要とする被災者のニーズを把握し、必要な支援を実施。

■ボートレース徳山で新スタンドがオープン



ボートレース徳山の新中央スタンドは、平成27年10月に着工、工期2年を経て、平成29年10月9日にリニューアルオープンした。新中央スタンドは、若者や女性、ファミリー層にも配慮したコンパクトな新空間となり、1階には、ステージやラウンジ、ウッドデッキ、キッズルームを設置。2階には、カフェや売店、観覧席、半個室のスペースを設けた。さらに、3階には、特別観覧施設「ROKU」が設置された。

また、このリニューアルに伴い、同スタンド内にはキャッシュレス投票機が多数導入され、利便性の向上が図られた。また、同スタンドの前には、広々とした芝生広場が作られた。この芝生広場は、入場料無料のため、フリーマーケットや各種イベントへの利用が期待された。同場では、ボートレースをより身近に感じつつ、くつろぎながら楽しむことができるようになった。

■場外発売場が開設

平成29年は「ボートレースチケットショップ養老」が開設。場外発売場は全国で73カ所となった。

名 称	レース場	所在地	開設日	備 考
BTS養老	津	岐阜県	3月24日	県内初

※BTSはボートレースチケットショップの略称



BTS養老

年表

	競走会トピックス	業界トピックス	他公営競技トピックス
H19	11.30 財団法人日本モーターボート競走会が設立		
H20	2.20 競走実施機関の指定 4. 1 財団法人日本モーターボート競走会に一元化 4. 1 競走実施業務規程の施行 4. 1 選手応募資格年齢を30歳未満へ引き上げ、特別試験の導入 5. 1 著しく異なる進入航走の規制を廃止 6.30 やまと競艇学校 現地訓練を6年ぶりに再開 8. 2 ポートピア名古屋リニューアル 1階に特別席を新設 9. 2 NHK「ドキュメント挑戦」に登録第4387号平山智加選手出演 12. 1 決まり手から「つけまい」を廃止 12.15 やまと競艇学校 1号館宿泊棟改修工事を実施	2. 4 江戸川競艇場 護岸工事のため休催 3.21 ミニポートピア双葉が開設 3.31 平成19年度売上 4年ぶりに売上1兆円を回復 4. 1 競艇広報センター解散(広報事業は、競艇振興会が引継ぎ実施) 8.23 「ポートピア市原」の2階に競輪専用場外発売場「サテライト市原」が開設 10. 4 オラレ徳山が開設 10. 8 三国競艇場に外向発売所が設置(平成27年7月に名称「ディアポート三国」に決定) 10.14 オラレ島原が開設 10.30 浜名湖競艇場 南スタンドリニューアル 12. 3 ミニポートピア天文館が開設	1. 5 「JRAプレミアム」「JRAプラス10」実施 4. 1 財団法人日本自転車振興会と日本小型自動車振興会が合併し、「財団法人JKA」に 4.15 平塚競輪で「チャリロト」(重勝式投票)が開始 7.19 JRAにおいてすべてのレースで3連単の発売開始 10.16 旭川競馬場が廃止 12.31 スーパースター王座決定戦が初の大晦日開催
H21	2. 9 モーターボート大賞をGⅡ競走に変更 4. 1 昇任基準の施行 4. 1 新会長に皆川浩二常務理事が就任 4.27 競艇活性化委員会発足 5. 1 待機行動におけるルールの一部変更(お客さまに「わかりやすい競走」へ) 5.23 NHK「青春リアル」に登録第4561号藤山翔太選手出演 6.13 スター選手育成制度を導入 11.14 競走会運営型ミニポートピアみやきが開設	3.26 浜名湖競艇場に外向発売所「ウインピア」が設置 4. 2 登録第3159号江口晃生選手(群馬)が早稲田大学大学院に入学 4.21 丸亀競艇場「ブルーナイター」開幕(全国で5場目、中四国地区初) 4.24 オラレ志布志が開設 5. 2 ミニポートピア黒石が開設 6. 4 江戸川競艇場が本場レースを再開 6.23 常滑競艇場に外向発売所「ウインボとこなめ」が設置 10. 1 大村競艇場の外向発売所「ブルードラゴン」がリニューアル 10. 7 蒲郡競艇場に外向発売所「ポートウイング&南ウイング」が設置 10.14 オラレ美馬が開設 12. 5 大村競艇場で業界初のキャッシュレスサービスが開始 12.12 ミニポートピア長洲が開設	4. 3 オートレースの競走車用消音機の導入 5.20 門別競馬場がナイターレース「グランシャリオナイター」開始 7.24 高知競馬場がナイターレース「夜さ恋ナイター」開始 10.17 「JRAクイックピック投票」を導入し、期間・場所を限定して発売開始
H22	1.16 全国・地区スター候補選手を対象に講習会を開催 1.31 丸亀支部 選手宿舍改築 2.18 SG競走開催要綱等を改正(GⅡ競走優勝者に総理大臣杯の出場権利) 4. 1 5地区に支局の設置、支部組織を改編 4. 1 「やまと競艇学校」から「やまと学校」へ名称変更 8. 1 WEBによる受験申請書類請求開始(110期より) 9. 9 全オートレース場で減音モーター(ヤマト301型)導入	1.31 平和島競艇場に外向発売所「オートレース平和島劇場」が設置 2.25 ポートピア栗橋が開設 4. 1 競艇からBOAT RACEへ 4. 1 電話投票発売時間が午前10時から午前9時に変更 4. 3 ポートレース唐津に外向発売場「ドリームビット」が開設(業界初となるドライブスルーでの舟券購入が可能) 5.14 登録第3861号岩永高弘選手 殉職 5.25 新ファンファーレ完成	1. 8 帯広競馬場でオッズパークを利用した重勝式投票が開始 1. 9 JRAが前日発売と夜間発売の通年実施を開始 3.31 花月園競輪場が廃止

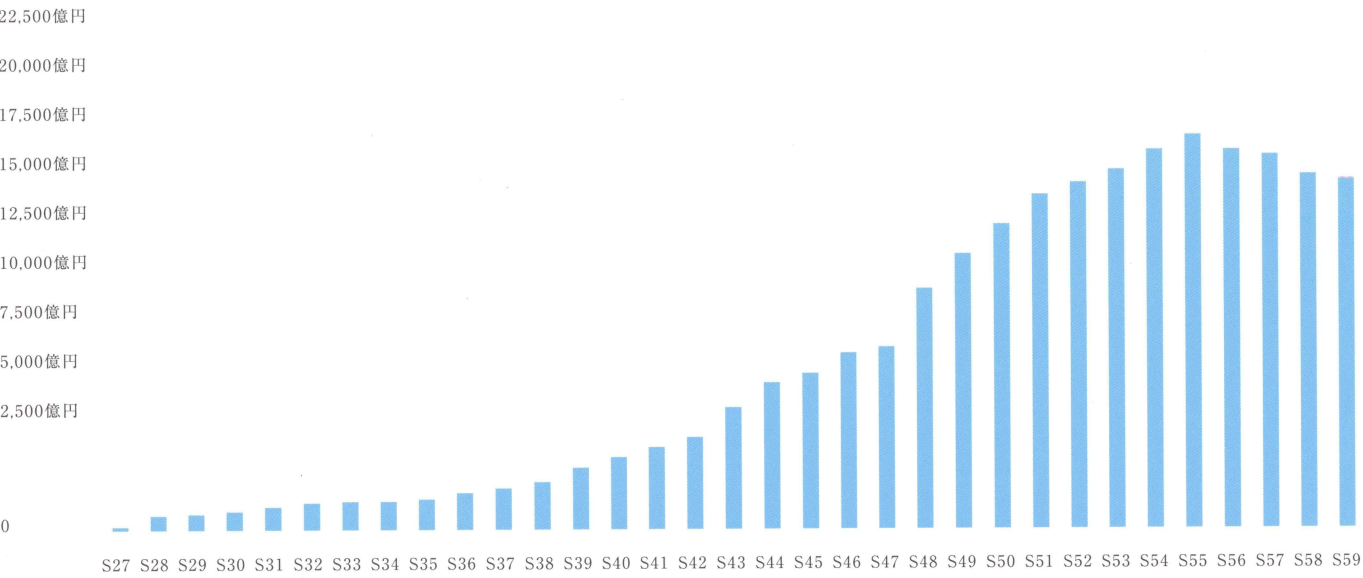
	競走会トピックス	業界トピックス	他公営競技トピックス
H22	9.18 ミニポートピアみやきが発売窓口を増設しポートピアへ 11. 1 A1級の最低出走回数を90回以上へ 11.10 若松支部 選手宿舍完成 12. 8 多摩川支部 選手宿舍増改築	7. 5 ポートレース芦屋に外向発売所「アシ夢テラス」が設置 7. 9 ポートレース芦屋で「サンライズレース」開幕(業界初のモーニングレース) 8. 4 ミニポートピア長崎波佐見が開設 9. 6 パチンコ「CRモンキーターン」ホールにデビュー 10.21 2連勝ナイトフェスタを開催 12.25 ミニポートピア日向が開設 12.26 ミニポートピアさつま川内が開設	
H23	1. 7 GⅠ賞金女王決定戦の新設 2. 1 選手応募資格の改正(身長体重制限緩和、スポーツ推薦試験の導入) 2. 9 ポートピア横浜 公営競技初の5場併売開始 3.11 東日本大震災の発生 4. 1 人事考課要領及び嘱託人事考課要領の施行 6.18 モーターボート競走法制定60周年 8. 1 ハラスメント防止に関する要領及び賞罰委員会設置要領の施行 8. 5 SG東日本復興支援競走開催(戸田) 8.31 役員幹部職員研修会の開催 12.26 芦屋支部 選手宿舍完成	2. 9 「グッドモーニング徳山」開幕(モーニングレース実施場が2場に) 3. 7 パチスロ「モンキーターン」ホールにデビュー 4. 1 「朝ドキ!からっ」開幕(モーニングレース実施場が3場に) 4. 1 全場で集計システムの集約化が完了 4. 3 BSフジにて毎週日曜日16:00~16:56まで初のポートレースレギュラー番組「BOAT RACE ライブ勝利へのターン」の放送が開始 4. 7 ミニポートピア鳥取が開設 4.15 ポートレース福岡に外向発売所「ベラポート福岡」が設置 6. 1 スマートフォンによるWEB投票開始 6.15 ミニポートピア福島が開設 8. 1 電話投票発売開始時刻を9時から8時30分に繰り上げ 8.28 ロンドンオリンピック日本代表選手団に協賛 9.10 ポートレース津に外向発売所「津インクル」が設置 9.20 ポートレース児島に外向発売所「児島ガァ〜コピア」が設置 10.18 ミニポートピア山口あじすが開設 10.22 ポートレース鳴門に外向発売所「エディウイン鳴門」が設置 10.29 オラレ日南が開設 11.26 ミニポートピア阿賀野が開設 12.10 ポートレース徳山に外向発売所「すなっちゃ徳山」が設置 12.10 ポートレース若松に外向発売所「カッパ☆ピア」が設置 12.25 登録第3415号松井繁選手(大阪)が生涯獲得賞金額30億円を突破	1.14 小倉競輪場で公営競技初ミッドナイトレースを開催 3.11 東日本大震災により、各公営競技も開催を中止するなど大きな影響を受ける 3.31 大津競輪場が廃止 4.14 オートレースにおいて全場を対象に重勝式投票を開始 4.22 指定のクレジットカードを利用したインターネット投票「JRAダイレクト」導入 4.24 JRAが重勝式投票「WIN5」開始 7.11 オートレース界に44年ぶりに女子選手がデビュー 12.23 荒尾競馬場が廃止
H24	3.31 23年度スタート事故率0.290 21年ぶりにスタート事故防止目標を達成 4. 1 財団法人から一般財団法人へ移行 4. 1 ポートレース公式Facebookページ開設 4. 4 減音モーター(ヤマト321型)導入 4.12 新「プロベラ制度」開始(個人持ちからモーター備え付けプロベラへ) 7. 4 執行役員連絡会の開催 8. 1 実技教官規程の施行 9. 3 人事労務研修会の開催 9.15 ポートピア習志野リニューアル 5場併売開始 9.19 ポートピア名古屋リニューアル 5場併売開始 11. 1 番組編成基本方針の見直し(枠番公平性にとられない魅力ある番組編成へ) 12.11 GⅠ第1回賞金女王決定戦開催(大村)	2. 2 オラレ上越が開設 3. 1 チャリティイベント「エールFOR日本〜ロンドンに力を。被災地に笑顔を〜」の開始 4. 1 全国総合払戻サービスの開始 4. 1 電話投票、場間場外発売の締切時間を短縮(2分前) 4. 3 ポートレース江戸川に外向発売所「BOAT RACE 365」が設置 4.24 SGレース等の前日発売の開始 4.28 ポートレースアンテナショップROKU軽井沢が開設 5.17 オラレセントレアが開設 5.19 ミニポートピア嘉麻が開設 7. 7 ポートレースアンテナショップROKU札幌が開設 7. 7 ポートレースアンテナショップROKU那覇が開設 7.28 ポートレース丸亀 新スタンドオープン 7.28 ポートレース丸亀に外向発売所「Bポートまるがめ」が設置 8.12 ROKU江戸川が設置 10.13 ポートレース下関に外向発売所「ふく〜る下関」が設置 12.15 ミニポートピアりんくうが開設	3.31 観音寺競輪場が廃止 5. 4 岸和田競輪場で初のモーニングレースを試行実施 6. 9 オートレースで払戻率を引き下げ70%に変更 7. 1 48年ぶりに女子競輪が復活し「ガールズケイリン」として開催 10. 3 JRAのインターネット投票システム(IPAT)を活用した地方競馬の馬券発売開始

	競走会トピックス	業界トピックス	他公営競技トピックス
H25	2. 7 内部監査を実施 3.27 職員の本部による一括採用の実施 4.23 45歳以上の選手を対象とする「匠シリーズ」開始 5. 3 ミニボートピア洲本リニューアル 5場併売開始 5.25 地区別合同自主訓練を全国で実施 6.18 グレード競走の活性化(賞金王及びチャレンジカップ見直し、ヤングダービー、イースタン・ウエスタンヤングの新設等) 7.29 職員等の人員配置モデルの策定と推進 8.10 札幌・那覇にてボートレーサー募集説明会を開催 11. 1 「非常識なフライング」に対する処置の運用開始 11. 1 プロベラ制度を一部変更(ヤマト製のみとなる)	3.25 登録第1485号加藤峻二選手が最年長優勝記録を更新 4. 1 ボートレーサー写真集を制作 4. 7 ROKU尼崎が設置 4.16 ボートレース住之江に外向発売所「ボートパーク住之江」が設置 4.18 ボートレース江戸川 指定席「MIYABI(みやび)」リニューアルオープン 6.10 ミニボートピア津幡が開設 8. 7 ROKU丸亀が設置 9.25 ボートレース尼崎に外向発売所「センブルピア」が設置 10.11 ボートレース桐生に外向発売所「ドラショップ」が設置 11. 2 登録第2988号鈴木詔子選手 殉職 12.12 ボートレースアンテナショップROKU仙台が開設 12.14 ミニボートピア井原が開設	3. 8 ガールズケイリンに短期登録の海外選手が初めて出場 3.24 福山競馬場が廃止 10.21 全レース7車立ての「オートレース7」を実施 11. 1 「2013日韓競輪対抗戦」が開催 12.19 トップクラスの競輪選手18人が選手会を退会、新選手会を発足を発表
H26	1.24 津支部 選手宿舍完成 2. 1 選手応募資格の改正(身長・体重基準の緩和等) 3.31 平成25年度スタート事故率0.273(平成2年度の記録を塗り替える新記録達成) 4. 1 SG審判員制度の導入 4. 1 レスキュー操船業務に従事する臨時雇員の嘱託への職制変更 5.29 新会長に小池保夫専務理事が就任 5.30 レバースペーサーの導入 7.25 新設グレードレースの開催(GⅠヤングダービー、GⅡレディースチャレンジカップ、GⅢイースタンヤング、GⅢウエスタンヤング) 9.22 ボートピア横浜リニューアル 8場併売開始 12.12 出力低減型モーター(ヤマト331型)導入	2.18 ミニボートピア新潟が開設 2.23 ミニボートピア大和ごせが開設 2.24 ボートレース鳴門 2年間の休催へ 4. 7 ボートレースアンテナショップ名古屋・栄が開設 4.19 ミニボートピア朝来が開設 4.26 ボートレース蒲郡 新スタンドオープン 5.20 5SG競走メダル表彰制度の導入 8. 9 オラレ下関が開設 9. 1 広島土砂災害への支援 10. 3 SGの通称名称を変更 10.10 ボートレースアンテナショップ大阪・アメ村が開設 11.15 ミニボートピア宮崎が開設	1.26 国際競技大会を規範とした「KEIRIN EVOLUTION」を開催 4. 1 一宮競輪が場外発売場として存続 6. 8 JRAが「WIN5」の払戻金の上限金額を現行の2億円から6億円に引き上げ 10.28 競輪において「オールガールズシリーズ」開催
H27	2. 2 新潟で選手募集説明会の実施 3. 6 GⅡレディースオールスターの新設 3.13 新型救命胴衣(TY-7型)の導入(フィット感の改善、軽量化) 3.31 26年度スタート事故率0.297 2年連続スタート事故防止目標達成 4. 1 嘱託等の無期労働契約への転換 GWスタート事故防止強化運動を実施(GW、お盆、正月) 6.10 全国各地の大学においてボートレースセミナーを実施	1.25 「THINK NOW ハンセン病」街頭キャンペーンを実施 2.22 ボートレース宮島に外向発売所「PALBOAT宮島」が設置 3.24 ミニボートピア富士おやまが開設 3.28 ボートレース大村 新スタンドオープン 4. 1 ナイター発売時間の拡大(ナイター締切時間5分繰下げ、モーニング開始時間6分繰上げ) 5. 7 歴代最高齢ボートレーサー 加藤峻二選手が引退 8.11 BTSミニボートピア名張が開設	9. 5 川口オートレース場でナイターレースを初開催 11.16 飯塚オートレース場でミッドナイトレースを初開催

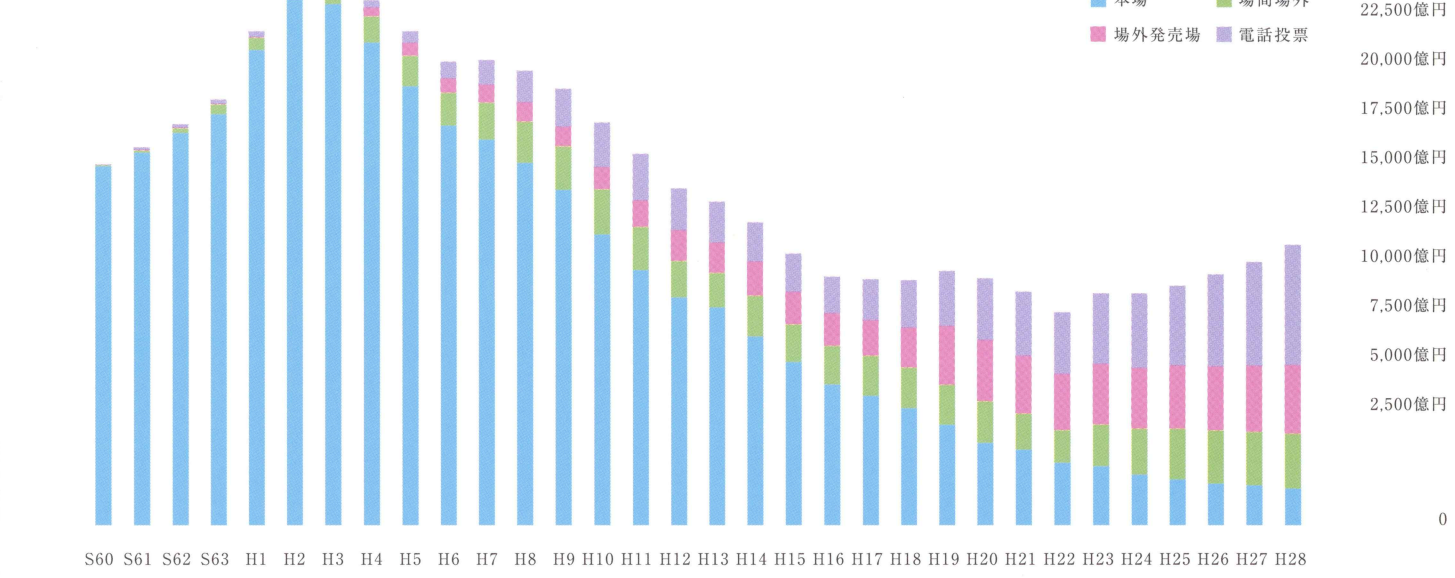
	競走会トピックス	業界トピックス	他公営競技トピックス
H27	7. 8 NHK「探検バクモン」にて2週にわたりボートレース特集 8.20 NHK「おはよう日本」にて大山博美・千広選手母娘特集が放映 9. 6 ボートピア京都やわたりニューアル 6場併売開始 9.11 レスキュー講習会を実施 10. 5 特定個人情報取扱規程の施行 11. 1 男子の最低体重基準値を51.0kgへ 12.16 ボートピア梅田リニューアル 6場併売開始しキャッシュレス投票導入 12.24 競走会運営型BTSミニボートピア栄が開設	8.23 BTS長崎佐々が開設 9.19 BTS旭川が開設 10.26 BTS西予が開設 11.10 BTS鹿島が開設	
H28	1. 9 ファン感謝3Days「BOAT RACEバトルーナメント」開催 2.24 徳山支部 選手宿舍完成 2.25 GⅢマスターズリーグ戦の新設、女子選手の産休・育休特例の制定、B1級の級別決定基準の見直し 3.20 ミニボートピア栄リニューアル 4.5階を増設 3.31 27年度スタート事故率0.295 3年連続スタート事故防止目標達成 4.12 ミニボートピア滝野リニューアル 6場併売開始 5.19 やまと学校にて操縦訓練中に死亡事故 9.13 新会長に潮田政明専務理事が就任 11.15 スター候補制度の見直し(名称をトップルーキー、フレッシュルーキーへ)	3.26 BTSミニボートピア京丹後が開設 3.31 平成27年度売上が8年ぶりに1兆円を超える 4. 1 発売時間の拡大(場外発売・電話投票の発売締切時間を本場締切1分前へ) 4. 1 共通マークカードの順次導入 4.28 ボートレース鳴門 新スタンドオープン(レースも2年ぶりに再開) 7.16 ボートレース江戸川 BOAT RACE365にて最大12場併売を開始 7.23 BTS松浦が開設 8.23 BTSオラレ刈羽が開設 10. 1 ボートレース若松 東スタンドリニューアルオープン 10. 1 ボートレースびわこに外向発売所「レイクルびわこ」が設置 12.10 ボートレースアンテナショップ名古屋・大須が開設 12.10 BTSオラレ田布施が開設	3. 3 藤田菜七子が中央競馬で16年ぶり7人目の女性騎手として川崎競馬場でデビュー 3.31 船橋オートレース場が廃止 9. 2 JKAが経験、実績等から選ばれた審判長3人による審判長団が全てのGP・GⅠ・GⅡ開催を執務する新審判体制を発表 9.12 地方競馬教養センター騎手養成課程の募集要項の変更(養成費用無償化、1年2期養成)を発表 10. 2 JRAが凱旋門賞において国内初となる海外競馬の発売を開始 12.14 オートレースで重勝式投票「当たるんです」を発売開始 12.15 IR整備推進法が国会で成立
H29	1. 1 番組編成基本方針の見直し(より自由度の高い番組編成へ) 2.27 新型ヘルメット(AH-1016型)導入(衝撃吸収性、耐切削性アップ) 2.28 GⅡ第1回レディースオールスター開催(宮島) 3.14 ボートピア習志野リニューアル キャッシュレス投票導入 3.23 桐生支部 選手宿舍完成 3.31 28年度スタート事故率0.289 4年連続スタート事故防止目標達成 4. 1 養成訓練費用の無償化と「やまと学校」の名称を「ボートレーサー養成所」へ変更 4. 1 東海支局の事務所移転 4. 2 ルーキーシリーズ出場対象選手等の見直し(オーバーエイジ枠導入) 4. 5 選手養成員入所者数の拡大及び訓練体制の充実(実技教官2名体制) 6. 2 ボートピアみやきリニューアル キャッシュレス投票導入 7.21 ボートレーサー養成所で選手入所試験体験セミナーを実施 9. 9 ボートピア名古屋リニューアル 12場併売開始 10.17 ボートピア京都やわたりニューアル キャッシュレス投票導入	2.11 ボートレース戸田に外向発売所「WINWINパーク戸田」が設置 3.12 丸亀、鳴門爆破予告事件 3.24 BTS養老が開設 4. 1 ボートレース下関「海響ドリームナイター」開幕(全国で6番目、中国地区初) 4.25 ROKU福岡が設置 6.25 無料インターネットテレビ「Abema TV」でSGの中継番組を放送 7. 5 九州北部豪雨災害への支援 10. 6 ボートレース多摩川に外向発売所「ウェイキープーク」が設置 10. 9 ボートレース徳山 新スタンドオープン	9.13 千葉競輪場が国際規格バンクに建替えて存続が決定

ボートレース統計資料

売上推移

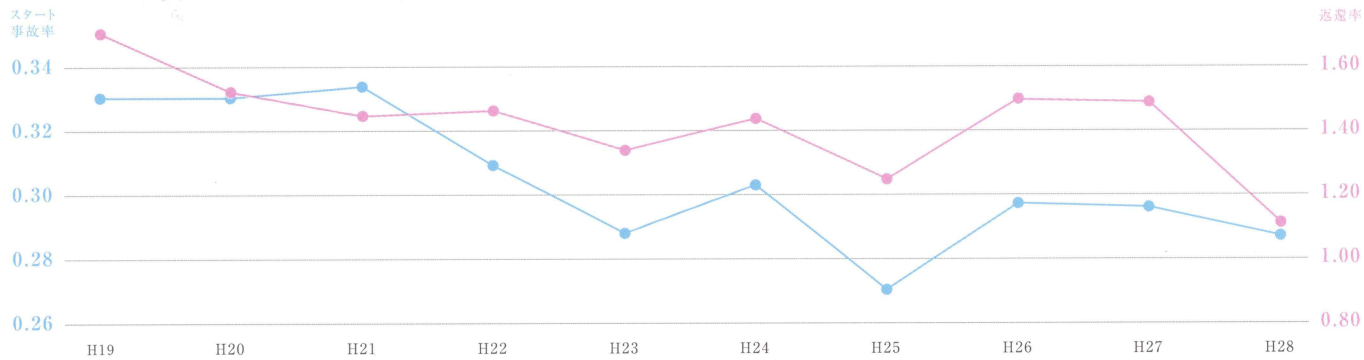


年度	本 場			場間場外			場外発売場			電話投票			全 体	
	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比
S27	2,421,031,800	—	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,421,031,800	—
S28	10,935,366,100	351.7	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10,935,366,100	351.7
S29	13,854,837,400	26.7	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13,854,837,400	26.7
S30	17,139,612,400	23.7	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17,139,612,400	23.7
S31	20,420,258,100	19.1	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20,420,258,100	19.1
S32	22,521,091,100	10.3	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22,521,091,100	10.3
S33	22,608,920,900	0.4	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22,608,920,900	0.4
S34	24,456,154,700	8.2	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24,456,154,700	8.2
S35	29,523,599,000	20.7	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29,523,599,000	20.7
S36	39,936,211,700	35.3	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	39,936,211,700	35.3
S37	48,212,635,100	20.7	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	48,212,635,100	20.7
S38	54,832,565,100	13.7	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	54,832,565,100	13.7
S39	73,033,113,100	33.2	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	73,033,113,100	33.2
S40	98,396,856,400	34.7	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	98,396,856,400	34.7
S41	138,597,272,300	40.9	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	138,597,272,300	40.9
S42	194,601,385,800	40.4	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	194,601,385,800	40.4
S43	257,667,187,500	32.4	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	257,667,187,500	32.4
S44	347,515,341,300	34.9	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	347,515,341,300	34.9
S45	427,018,901,800	22.9	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	427,018,901,800	22.9
S46	526,125,682,900	23.2	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	526,125,682,900	23.2
S47	654,273,756,300	24.4	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	654,273,756,300	24.4
S48	895,648,795,700	36.9	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	895,648,795,700	36.9
S49	1,078,697,546,200	20.4	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,078,697,546,200	20.4
S50	1,174,533,764,600	8.9	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,174,533,764,600	8.9
S51	1,258,281,790,000	7.1	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,258,281,790,000	7.1
S52	1,369,635,251,500	8.8	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,369,635,251,500	8.8
S53	1,450,752,656,300	5.9	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,450,752,656,300	5.9
S54	1,555,296,384,200	7.2	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,555,296,384,200	7.2
S55	1,630,961,345,200	4.9	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,630,961,345,200	4.9
S56	1,564,001,969,600	▲ 4.1	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,564,001,969,600	▲ 4.1
S57	1,529,203,673,800	▲ 2.2	100.0%	297,761,200	—	0.0%	—	—	—	—	—	—	1,529,501,435,000	▲ 2.2
S58	1,455,189,422,400	▲ 4.8	100.0%	501,704,900	68.5	0.0%	—	—	—	—	—	—	1,455,691,127,300	▲ 4.8
S59	1,395,153,422,700	▲ 4.1	99.9%	882,119,900	75.8	0.1%	—	—	—	—	—	—	1,396,035,542,600	▲ 4.1



年度	本 場			場間場外			場外発売場			電話投票			全 体	
	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比	占有率	売 上	前年度比
S60	1,424,623,583,100	2.1	99.7%	2,066,547,400	134.3	0.1%	—	—	—	2,518,532,100	—	0.2%	1,429,208,662,600	2.4
S61	1,478,921,696,000	3.8	98.8%	7,189,060,300	247.9	0.5%	700,734,900	—	0.0%	10,161,941,300	303.5	0.7%	1,496,973,432,500	4.7
S62	1,552,964,340,900	5.0	97.6%	21,866,260,000	204.2	1.4%	1,835,141,900	161.9	0.1%	14,008,165,300	37.8	0.9%	1,590,673,908,100	6.3
S63	1,629,545,425,400	4.9	96.6%	38,345,352,100	75.4	2.3%	2,990,329,000	62.9	0.2%	16,784,795,800	19.8	1.0%	1,687,665,902,300	6.1
H1	1,883,058,278,400	15.6	96.1%	50,491,230,000	31.7	2.6%	3,503,671,300	17.2	0.2%	21,814,644,200	30.0	1.1%	1,958,867,823,900	16.1
H2	2,088,184,242,400	10.9	95.2%	71,927,887,200	42.5	3.3%	6,951,245,500	98.4	0.3%	26,404,916,200	21.0	1.2%	2,193,468,291,300	12.0
H3	2,069,865,080,800	▲ 0.9	93.5%	90,054,663,500	25.2	4.1%	23,750,338,700	241.7	1.1%	30,076,207,900	13.9	1.4%	2,213,746,290,900	0.9
H4	1,912,935,061,000	▲ 7.6	91.9%	105,837,681,400	17.5	5.1%	34,227,327,500	44.1	1.6%	29,653,073,400	▲ 1.4	1.4%	2,082,653,143,300	▲ 5.9
H5	1,738,709,898,100	▲ 9.1	88.8%	122,101,377,300	15.4	6.2%	54,312,071,500	58.7	2.8%	43,399,304,000	46.4	2.2%	1,958,522,650,900	▲ 6.0
H6	1,583,522,291,400	▲ 8.9	86.1%	131,014,178,100	7.3	7.1%	59,455,391,000	9.5	3.2%	64,457,557,100	48.5	3.5%	1,838,449,417,600	▲ 6.1
H7	1,528,655,022,200	▲ 3.5	82.9%	145,484,570,100	11.0	7.9%	71,289,491,000	19.9	3.9%	97,807,080,500	51.7	5.3%	1,843,236,163,800	0.3
H8	1,436,332,993,000	▲ 6.0	79.6%	162,654,566,600	11.8	9.0%	79,067,995,700	10.9	4.4%	125,816,282,200	28.6	7.0%	1,803,871,837,500	▲ 2.1
H9	1,328,177,866,500	▲ 7.5	76.7%	171,863,237,300	5.7	9.9%	80,440,668,000	1.7	4.6%	151,153,640,000	20.1	8.7%	1,731,635,411,800	▲ 4.0
H10	1,152,227,116,900	▲ 13.2	72.2%	177,767,259,600	3.4	11.1%	89,993,156,700	11.9	5.6%	176,140,648,700	16.5	11.0%	1,596,128,181,900	▲ 7.8
H11	1,009,972,585,000	▲ 12.3	68.7%	170,606,377,800	▲ 4.0	11.6%	109,172,533,100	21.3	7.4%	180,864,424,900	2.7	12.3%	1,470,615,920,800	▲ 7.9
H12	903,394,609,100	▲ 10.6	67.7%	144,193,030,300	▲ 15.5	10.8%	121,755,102,900	11.5	9.1%	165,442,576,100	▲ 8.5	12.4%	1,334,785,318,400	▲ 9.2
H13	863,937,159,100	▲ 4.4	67.4%	138,071,518,400	▲ 4.2	10.8%	119,993,689,400	▲ 1.4	9.4%	159,166,573,800	▲ 3.8	12.4%	1,281,168,940,700	▲ 4.0
H14	748,955,475,200	▲ 13.3	62.5%	158,829,395,800	15.0	13.2%	139,411,524,500	16.2	11.6%	151,899,876,600	▲ 4.6	12.7%	1,199,096,272,100	▲ 6.4
H15	647,258,116,600	▲ 13.6	60.2%	146,748,090,500	▲ 7.6	13.6%	130,300,147,400	▲ 6.5	12.1%	150,826,500,400	▲ 0.7	14.0%	1,075,132,854,900	▲ 10.3
H16	558,647,867,900	▲ 13.7	56.8%	149,886,553,200	2.1	15.2%	131,461,577,700	0.9	13.4%	143,781,107,900	▲ 4.7	14.6%	983,777,106,700	▲ 8.5
H17	512,653,589,600	▲ 8.2	52.6%	158,618,966,400	5.8	16.3%	141,531,997,400	7.7	14.5%	161,533,541,200	12.3	16.6%	974,338,094,600	▲ 1.0
H18	462,988,042,400	▲ 9.7	47.7%	160,272,567,000	1.0	16.5%	161,016,065,000	13.8	16.6%	186,110,142,800	15.2	19.2%	970,386,817,200	▲ 0.4
H19	399,389,320,700	▲ 13.7	39.6%	156,696,131,500	▲ 2.2	15.6%	235,513,714,500	46.3	23.4%	215,914,731,100	16.0	21.4%	1,007,513,897,800	3.8
H20	327,811,035,100	▲ 17.9	33.5%	163,995,700,800	4.7	16.8%	243,664,264,300	3.5	24.9%	241,735,082,100	12.0	24.7%	977,206,082,300	▲ 3.0
H21	299,559,015,700	▲ 8.6	32.4%	143,410,422,000	▲ 12.6	15.5%	231,976,462,500	▲ 4.8	25.1%	250,799,653,400	3.7	27.1%	925,745,553,600	▲ 5.3
H22	248,019,319,600	▲ 17.2	29.4%	128,682,971,400	▲ 10.3	15.3%	224,428,019,400	▲ 3.3	26.6%	242,332,476,600	▲ 3.4	28.7%	843,462,787,000	▲ 8.9
H23	235,332,312,100	▲ 5.1	25.6%	163,514,890,500	27.1	17.8%	234,229,058,000	8.4	26.4%	297,765,985,100	14.6	30.2%	919,842,245,700	9.1
H24	201,178,655,100	▲ 14.5	21.9%	180,870,918,300	10.6	19.7%	243,712,326,400	0.2	26.6%	291,795,928,700	5.1	31.8%	917,557,828,500	▲ 0.2
H25	183,572,048,100	▲ 8.8	19.4%	198,505,150,200	9.7	20.9%	251,178,730,000	3.1	26.5%	314,337,618,300	7.7	33.2%	947,593,546,600	3.3
H26	167,810,736,800	▲ 8.6	16.9%	208,097,463,600	4.8	20.9%	256,134,381,900	2.0	25.7%	363,245,609,800	15.6	36.5%	995,288,192,100	5.0
H27	158,673,460,300	▲ 5.4	15.2%	211,611,795,000	1.7	20.3%	264,909,126,700	3.4	25.4%	407,088,027,300	12.1	39.1%	1,042,282,409,300	4.7
H28	147,084,971,000	▲ 7.3	13.2%	214,686,573,400	1.5	19.3%	274,389,322,100	3.6	24.7%	474,990,198,100	16.7	42.7%	1,111,151,064,600	6.6

スタート事故率及び返還率



年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
防止目標	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.29
スタート事故率	0.334	0.334	0.336	0.312	0.290	0.304	0.273	0.297	0.295	0.289
返還率	1.646%	1.575%	1.441%	1.451%	1.367%	1.426%	1.268%	1.494%	1.439%	1.167%
F 件数	1,356	1,338	1,399	1,240	1,267	1,281	1,178	1,261	1,261	1,272
L (責) 件数	21	15	20	17	22	18	18	29	15	17

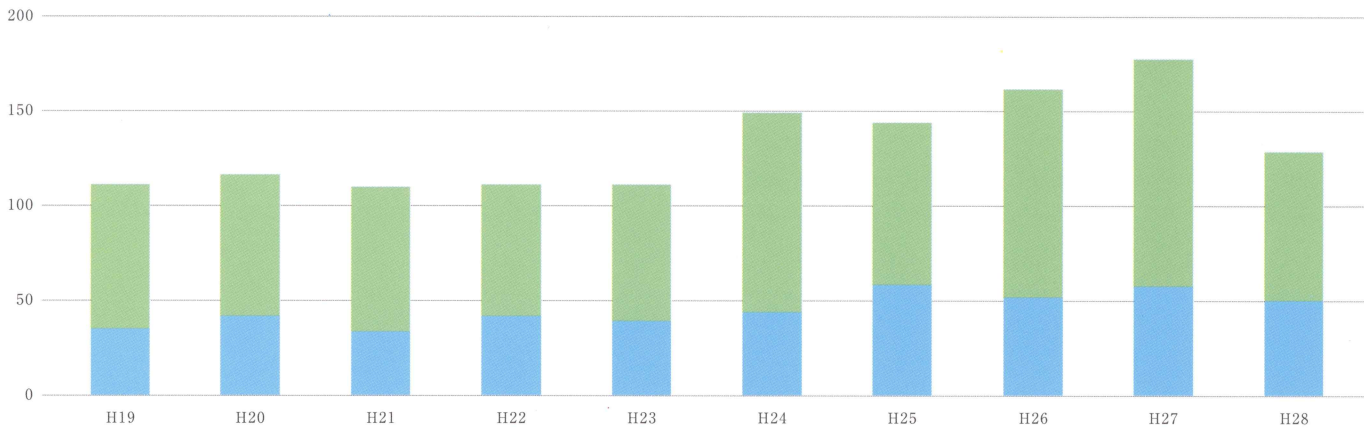
防止目標達成

ボートレース場別スタート事故率

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
桐生	0.211	0.263	0.267	0.328	0.207	0.269	0.226	0.230	0.196	0.232
戸田	0.322	0.422	0.360	0.259	0.283	0.306	0.247	0.349	0.382	0.435
江戸川	0.387	—	0.429	0.432	0.444	0.617	0.456	0.450	0.433	0.617
平和島	0.272	0.383	0.394	0.359	0.342	0.317	0.323	0.312	0.226	0.355
多摩川	0.422	0.392	0.272	0.358	0.346	0.250	0.233	0.406	0.172	0.356
浜名湖	0.415	0.383	0.354	0.284	0.258	0.305	0.333	0.223	0.296	0.220
蒲郡	0.366	0.266	0.255	0.347	0.314	0.312	0.322	0.312	0.263	0.281
常滑	0.278	0.285	0.237	0.264	0.282	0.252	0.185	0.261	0.260	0.205
津	0.400	0.392	0.350	0.460	0.392	0.355	0.292	0.380	0.411	0.328
三国	0.261	0.372	0.306	0.268	0.312	0.289	0.274	0.309	0.356	0.242
びわこ	0.250	0.308	0.263	0.185	0.229	0.220	0.213	0.244	0.256	0.242
住之江	0.494	0.441	0.467	0.477	0.267	0.294	0.145	0.263	0.183	0.312
尼崎	0.317	0.344	0.322	0.207	0.305	0.258	0.242	0.263	0.280	0.204
鳴門	0.222	0.333	0.411	0.293	0.258	0.333	0.226	—	—	0.269
丸亀	0.517	0.333	0.398	0.422	0.286	0.385	0.328	0.299	0.431	0.273
児島	0.361	0.222	0.425	0.246	0.276	0.286	0.237	0.316	0.313	0.302
宮島	0.269	0.288	0.308	0.383	0.321	0.352	0.389	0.273	0.389	0.318
徳山	0.263	0.185	0.272	0.231	0.227	0.214	0.242	0.214	0.250	0.208
下関	0.256	0.333	0.371	0.201	0.258	0.215	0.283	0.365	0.291	0.226
若松	0.400	0.414	0.333	0.280	0.270	0.313	0.288	0.270	0.292	0.219
芦屋	0.346	0.288	0.222	0.223	0.214	0.328	0.339	0.305	0.285	0.344
福岡	0.378	0.300	0.344	0.320	0.299	0.215	0.220	0.245	0.210	0.219
唐津	0.378	0.430	0.389	0.368	0.310	0.355	0.247	0.323	0.344	0.328
大村	0.189	0.269	0.285	0.288	0.256	0.253	0.290	0.246	0.255	0.222

防止目標達成

人身事故件数



年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
重傷事故	36	43	35	43	40	45	60	55	59	50
その他	76	74	75	69	71	104	85	111	120	87
総合計	112	117	110	112	111	149	145	166	179	137

ボートレース場別人身事故件数

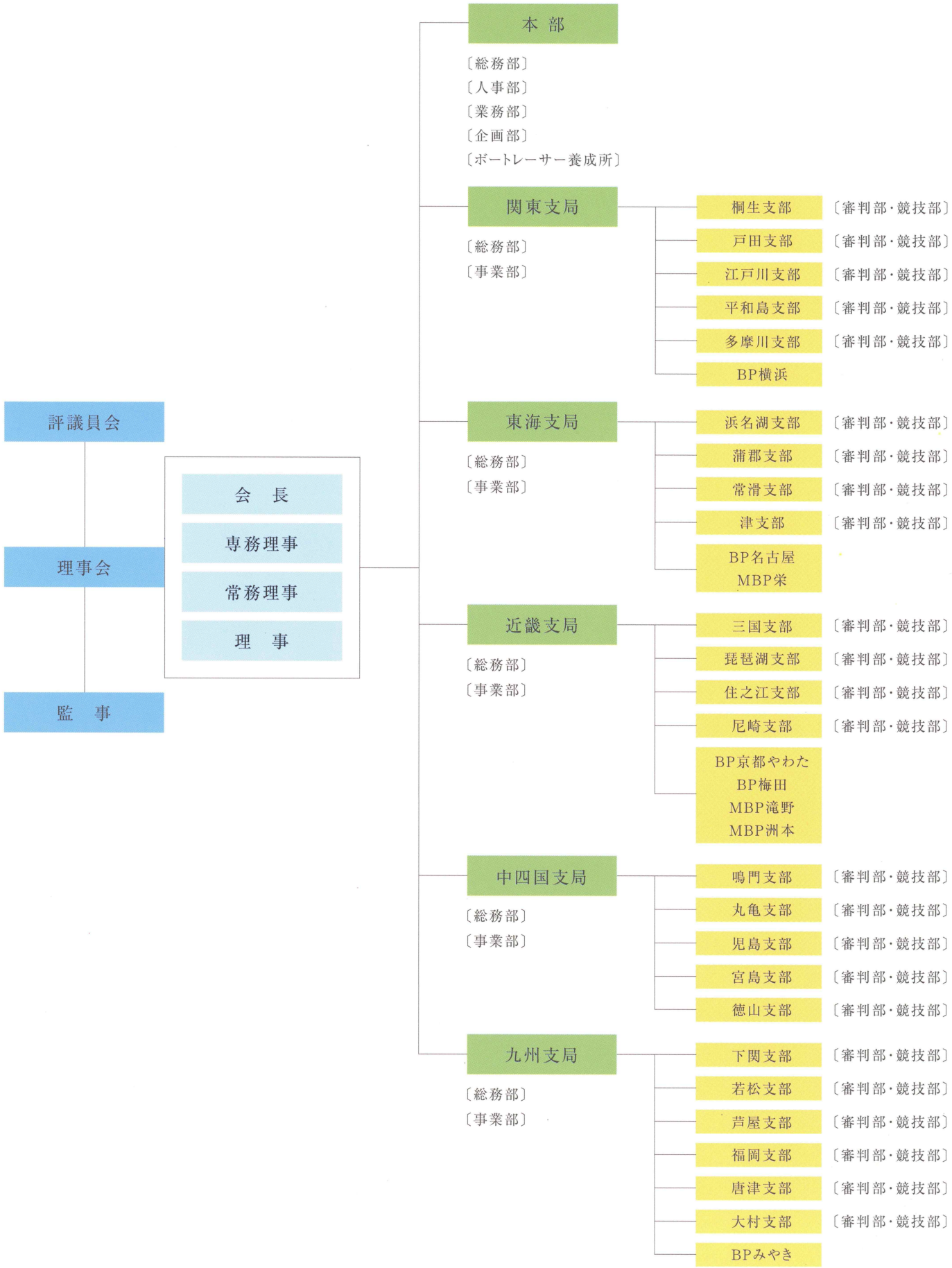
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
桐生	2	11	5	9	3	4	2	5	11	3
戸田	5	4	5	7	6	7	9	11	21	13
江戸川	12	—	5	6	6	9	7	6	6	9
平和島	9	8	9	5	6	5	5	5	12	4
多摩川	10	6	7	6	3	10	7	10	13	6
浜名湖	1	4	3	2	3	4	5	8	7	2
蒲郡	4	2	5	1	3	2	14	5	9	3
常滑	2	6	4	2	8	5	7	5	1	3
津	8	5	2	6	10	8	6	7	6	7
三国	4	4	7	5	7	2	3	7	4	7
びわこ	5	1	4	3	6	14	6	6	10	5
住之江	1	4	4	6	3	4	9	9	4	3
尼崎	6	13	11	11	8	7	4	5	3	1
鳴門	6	3	2	5	3	4	2	—	—	9
丸亀	6	3	2	1	3	3	3	6	11	15
児島	5	5	5	8	3	8	6	10	7	10
宮島	3	4	2	4	3	5	8	11	5	4
徳山	5	5	2	3	2	2	7	4	5	6
下関	5	4	4	0	5	6	6	3	4	5
若松	3	5	4	7	5	5	2	7	8	4
芦屋	3	6	4	2	4	11	9	5	9	5
福岡	1	3	8	3	2	8	11	11	8	5
唐津	4	4	3	4	5	8	1	10	8	4
大村	2	7	3	6	4	8	6	10	7	4
総合計	112	117	110	112	111	149	145	166	179	137

法人概要・組織図

法人概要

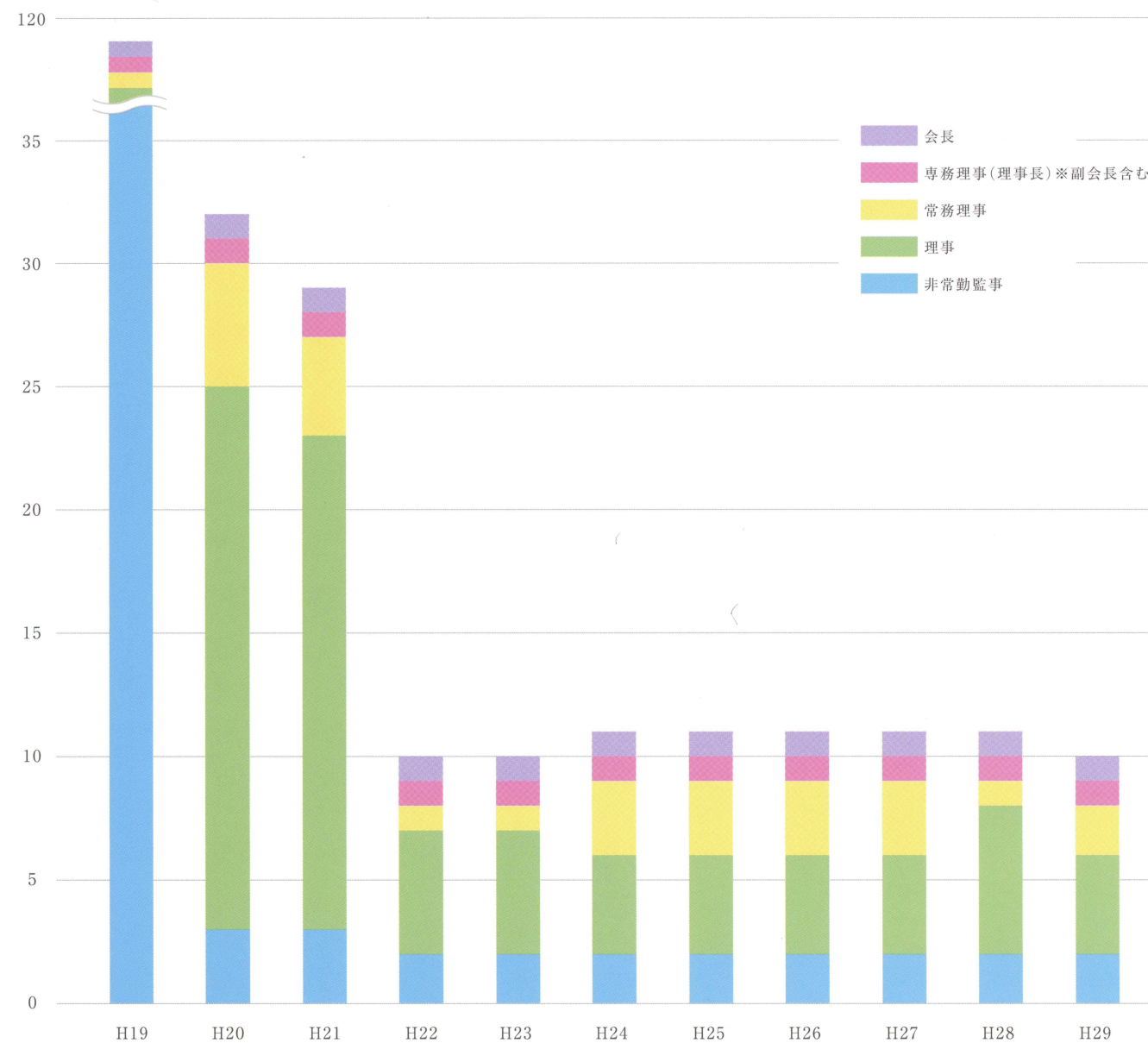
法人名	一般財団法人日本モーターボート競走会
設 立	2007年11月30日
代表者	会長 潮田政明
役員・評議員	理事8名、監事2名、評議員5名(2017年6月1日現在)
従業員数	922名(2017年4月1日現在)
事務局	■本部 ■支局：関東、東海、近畿、中四国、九州 ■支部：桐生、戸田、江戸川、平和島、多摩川、浜名湖、蒲郡、常滑、津、三国、琵琶湖、住之江、尼崎、鳴門、丸亀、児島、宮島、徳山、下関、若松、芦屋、福岡、唐津、大村 ■場外運営事務所：BP横浜、BP名古屋、BP京都やわた、BP梅田、ミニBP滝野、ミニBP洲本、BPみやき、ボートレースチケットショップミニBP栄
組 織	■本部 [総務部] 総務課、経理課、管財課 [人事部] 人事課、労務課 [業務部] 業務課、あっせん課、公正課、技術課 [企画部] 企画課、広報課 [ボートレーサー養成所] 養成課、訓練課、庶務課 ■各支局 [総務部] 総務課、経理課 [事業部] 事業課 ■各支部 [審判部] 審判課、番組課 [競技部] 競技課、検査課、管理課 ■場外運営事務所
事業目的	モーターボート競走法によるモーターボート競走の競技、選手等の登録、選手の出場のあっせん等の業務を行うことにより、競走の公正かつ円滑な実施に資するとともに、競走の健全な発展を図り、併せて海事知識の普及に寄与することを目的とする。
事業内容	(1) 競技関係事務 (2) 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録 (3) 選手の出場のあっせん (4) 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練 (5) 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒 (6) ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究 (7) 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案 (8) 海事知識の普及 (9) その他本会の目的を達成するために必要な事業

組織図



※2018年4月現在

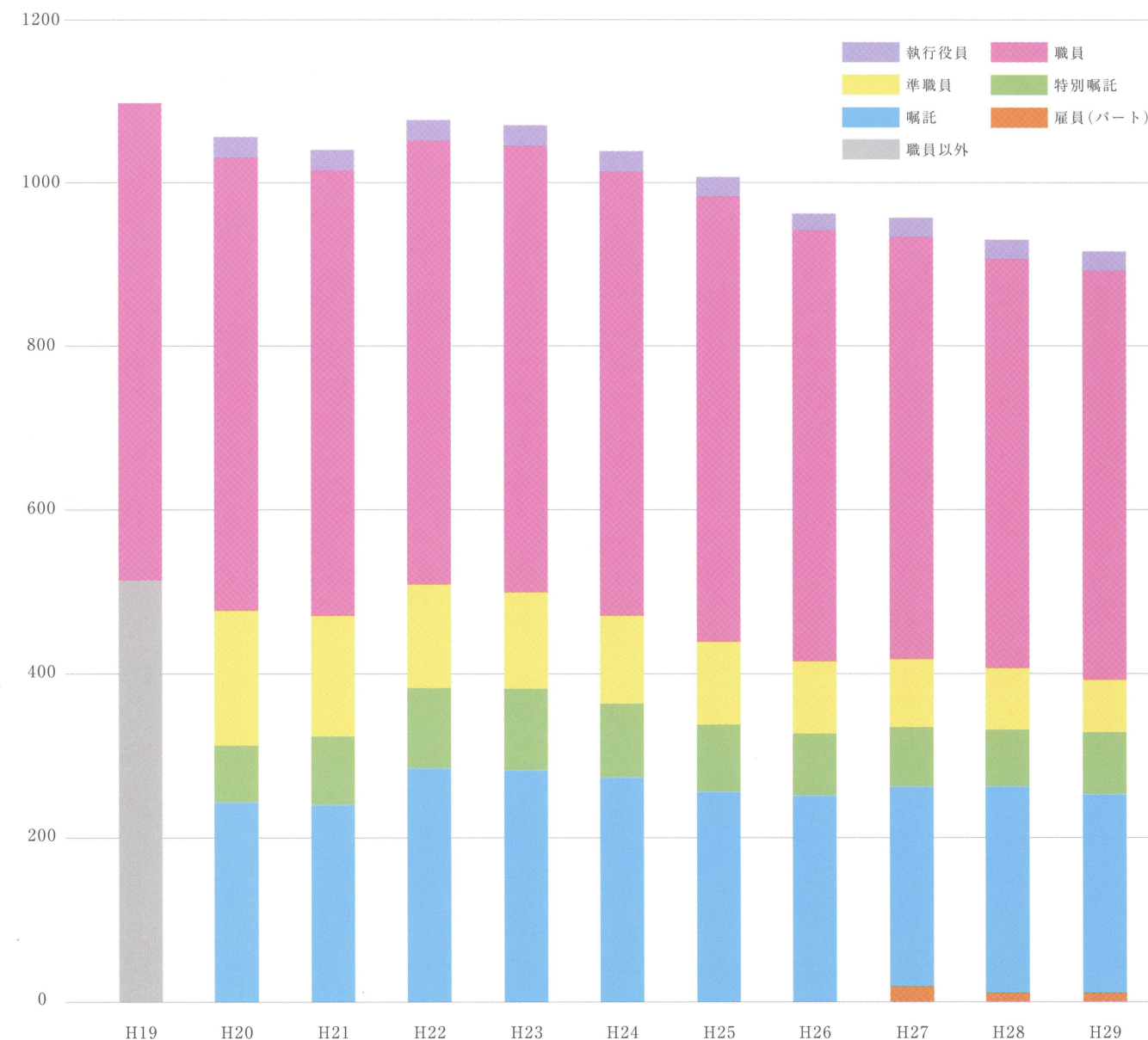
役員等総数の推移



年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
役員総数	113	32	29	10	10	11	11	11	11	11	10
会長	18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
専務理事(理事長) ※副会長含む	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
常務理事	24	5	4	1	1	3	3	3	3	1	2
理事	21	22	20	5	5	4	4	4	4	6	4
非常勤監事	38	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2

〔注〕表中の人数は、各年6月1日現在のものです。

職員等総数の推移



年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
職員等総数	1096	1060	1045	1083	1077	1046	1013	969	962	936	922
執行役員	0	23	23	27	28	27	27	25	24	25	25
職員	582	556	546	542	548	543	545	524	518	504	502
準職員	0	169	151	131	119	111	103	92	84	75	65
特別嘱託	0	70	85	98	99	91	82	78	73	71	78
嘱託	0	242	240	285	283	274	256	250	249	252	244
雇員(パート)	0	0	0	0	0	0	0	0	14	9	8
職員以外	514	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

〔注〕表中の人数は、各年4月1日現在のものです。

歴代評議員一覧

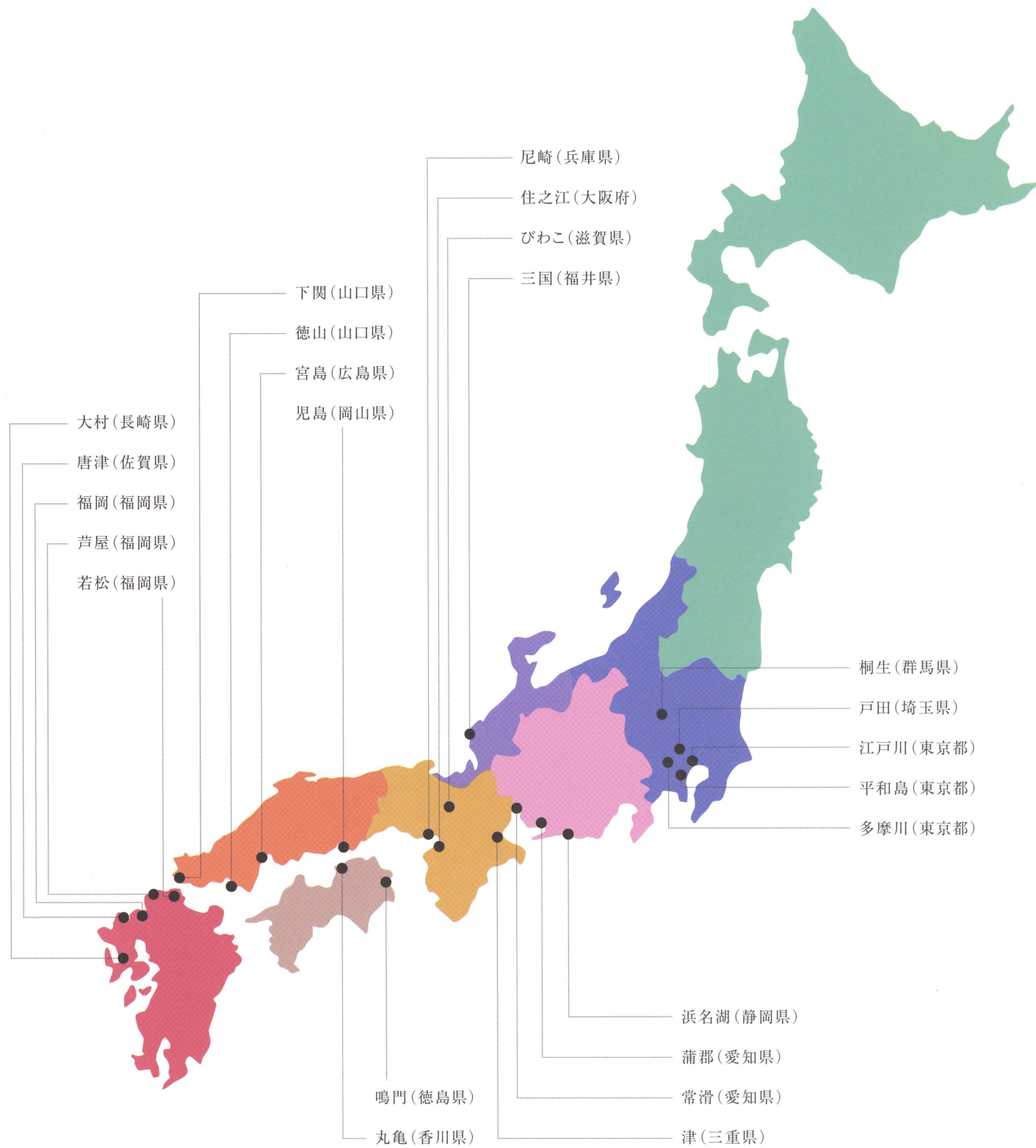
	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
評議員	岡田敬二											
	大西茂											
	谷野龍一郎											
	三浦暁子											
	山内弘隆											
	青池和男											
	勘川直幸											
	木村槌秋											
	國松善次											
	三條進弘											
	末吉興一											
	立川談春											
	西川きよし											
	野中和夫											
	三ツ谷洋子											
	森田文憲											
	吉野伊佐男											
	若松亮任											
	黒野匡彦											
	柿田卓二											
	新井哲二											
	石川聰											
	沖津嘉昭											
	今義男											
	小高幹雄											
	笹川陽平											
					福永達夫							
					喜多條忠							
										前岡良徹		
										山部茂		
										佐野慎輔		
										上瀧和則		

歴代役員一覧

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
会 長	藤山幸夫 皆川浩二 小池保夫 潮田政明											
理事長	宮地真澄 小池保夫											
専務理事	小池保夫 宮本賢治 潮田政明 吉橋徹											
常務理事	宮本賢治 潮田政明 吉橋徹 来本正行											
	皆川浩二 藤山良幸 清明 若山和夫 宮武啓二 内尾武美 佐藤和孝											
	坂本眞輔 皆川浩二 若山和夫 内尾武美 宮本賢治 大崎周一 笹川和弘 諸橋巖 岡喜幸平 小池明成 品川清 西原勲 増田清次 前田宏司 眞藤恭輔 洲脇泰雄 岩田成正 武田秀実 山下宏 奈良貞博 松下純 岩田由理男 植木通彦 清明 鶴岡美樹 礎博幸 古川昇次 宮武啓二 潮田政明											
	森幸一 吉橋徹 佐藤和孝 来本正行 林昌彦 渡邊哲宏											
	馬場宏 篠原通夫 中西由郎											
	植木通彦											
非常勤監事	馬場宏 篠原通夫 中西由郎											

ボートレースの施設一覧

ボートレース場(24場)



場外発売場(73カ所)

[illegible]

2018年3月現在

日本モーターボート競走会10年史

発行日：平成30年4月26日

発行者：一般財団法人 日本モーターボート競走会

〒108-8707 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館 7階

TEL 03-3454-5051

写真提供：共同通信社

 日本モーターボート競走会